

# 東京国立文化財研究所要覧

1995

平成7年度

## はじめに

平成7年度は、東京国立文化財研究所の前身である美術研究所設立以来65周年を迎えた。平成5年に改組された国際文化財保存修復協力室は、さらに国際的な文化財保存修復に関する協力のために国際文化財保存修復協力センターとして拡充し発足することとなった。また、諸外国からの強い要望に応じてはじめられた、「紙の保存修復」国際研修も第4回目を数え、12ヶ国12名の研修生を受入れ実施された。一方、昭和61年から進めてきた敦煌莫高窟壁画保存修復事業については、平成2年度に敦煌研究院と合意書を取り交わし、平成3年度より6カ年にわたる本格的な日中共同研究が進められている。さらに海外所在の日本古美術品修復事業も平成5年に引き続いて、ワシントン・フリーア美術館所蔵の日本絵画の修復を実施し、またスミソニアン研究機構との保存科学研究交流や文化財保護に関する日独学術交流も引き続き順調に進行中である。その他の国際交流事業としては、本年度19年目となる国際研究集会を「敦煌莫高窟の保存」のテーマのもと、17名の研究者を海外から迎えて、充実した討議が行われた。この他文化財に関する個別的な研究成果についても、高い評価を得ることが出来たことは、喜びに堪えない。

また、長年の宿願であった施設新営に向けて実施設計のための経費が認められ、本格的な発掘作業に着手できたことは特筆に値することである。

この年度を終わるに当って、11名の職員を転出等で見送ることになったが、当研究所の発展に尽力された諸氏の御努力に対し心から敬意と謝意を表する次第である。

平成8年4月

東京国立文化財研究所長

渡 邊 明 義

## 目 次

I. 沿革 .....	1
1. 設立の経緯 .....	1
2. 年代別重要事項 .....	1
3. 歴代所長 .....	6
II. 機構・職員・予算 .....	7
1. 機 構 .....	7
2. 職 員 .....	8
3. 名 誉 研 究 員 .....	11
4. 予 算 .....	12
5. 特別研究一覧 .....	13
6. 科学研究費補助金交付一覧 .....	13
7. 受託研究一覧 .....	14
III. 調査研究 .....	15
1. 中長期研究計画一覧 .....	15
2. 美 術 部 .....	16
(1) 概 要 .....	16
(2) 各 論 .....	17
3. 芸 能 部 .....	21
(1) 概 要 .....	21
(2) 各 論 .....	23
4. 保存科学部 .....	25

(1) 概    要 .....	25
(2) 各    論 .....	26
5. 修復技術部 .....	38
(1) 概    要 .....	38
(2) 各    論 .....	39
6. 情報資料部 .....	43
(1) 概    要 .....	43
(2) 各    論 .....	44
7. 国際文化財保存修復協力センター .....	49
(1) 概    要 .....	49
(2) 各    論 .....	50
8. 国際調査研究 .....	55
(1) 敦煌文化財保存修復に関する調査研究 .....	55
(2) スミソニアン研究機構との国際研究交流 .....	57
(3) タイ国レンガ造遺跡の劣化現象と保存処置に関する調査研究 .....	57
(4) 文化財保護に関する日独学術交流 .....	57
(5) シリア、アインダーラ神殿遺跡の保存修復 .....	58
(6) 文化財の保存修復技術に関する国際共同研究 .....	58
(7) 海外所在日本美術品調査 .....	59
9. 主要研究業績 .....	60
 IV. 大学院教育 .....	 80
 V. 事          業 .....	 82
1. 出          版 .....	82
(1) 美術研究 .....	82



(2) 日本美術年鑑 .....	82
(3) 芸能の科学 .....	83
(4) 保存科学 .....	83
2. 黒田清輝巡回展 .....	84
3. 公開学術講座 .....	84
4. 夏期学術講座 .....	85
5. 能楽技法講座 .....	86
6. 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 .....	86
7. 国際研究集会 .....	88
8. 敦煌莫高窟壁画保存修復協力事業の実施 .....	93
9. 第4回「紙の保存修復」の国際研修 .....	93
10. 会          議 .....	95
(1) 文化財保存修復研究協議会 .....	95
11. 国際・国内交流 .....	97
(1) 平成7年度職員の海外渡航 .....	97
(2) 招へい研究員等 .....	102
(3) 平成7年度海外研究者等の来訪 .....	105
<b>VI. 研究施設・設備 .....</b>	<b>106</b>
1. 蔵          書 .....	106
2. 資          料 .....	107
3. 主要機器・設備 .....	108
4. 黒田記念室 .....	112
5. 関    覧    室 .....	112
<b>VII. 関係法規 .....</b>	<b>113</b>

# I. 沿革

## 1. 設立の経緯

東京国立文化財研究所は、昭和27年4月1日に発足したが、その前身であり母体となったものは、昭和5年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、大正13年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野仲颯に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鏗二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、また、わが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

## 2. 年代別重要事項

昭和元年12月 前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。

昭和2年2月 美術研究所準備事業を開始した。

同年10月 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。

沿革

- 昭和3年9月 前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また、館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
- 昭和4年5月 遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
- 昭和5年6月28日 勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。
- 同 年10月17日 美術研究所開所式を挙行了た。
- 昭和7年1月 美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。
- 同 年4月18日 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。
- 同 年5月26日 帝国美術院はこの申出を受理した。  
明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
- 昭和9年10月18日 毎年10月18日を開所記念日と定めた。
- 昭和10年1月28日 鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。
- 同 年4月 『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。
- 同 年6月1日 勅令第148号により美術研究所官制が公布された。  
研究資料閲覧規定を制定し、閲覧事務を開始した。
- 昭和12年6月24日 勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。
- 同 年11月29日 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
- 昭和13年2月12日 木造、平屋建、延面積97㎡の写真室1棟が竣工した。
- 昭和19年8月10日 黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。

昭和20年5月28日 美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目日本問家倉庫3棟に疎開した。

同 年7～8月 酒田市本問家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市内外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。

昭和21年3月29日 酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。

同 年4月4日 酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。

同 年4月16日 東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。

昭和22年5月1日 美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。

国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた(保存科学部の前身)。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室(66㎡)に設けた。

昭和25年8月29日 文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。

同 年8月29日 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。

昭和26年1月31日 美術研究所組織規程が定められ第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。

昭和27年4月1日 文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。

また、文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。

同 年7月1日 芸能部研究室として東京芸術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。

## 沿 革

- 昭和28年4月26日 保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132㎡を改造のうえ移転した。
- 昭和29年7月1日 東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
- 昭和32年3月22日 東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。
- 同 年11月30日 従来の2階建書庫のうえにさらに1階を増築3階建とし、増築分延面積71㎡が竣工した。
- 昭和34年4月30日 東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
- 昭和36年9月16日 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
- 昭和37年3月31日 東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2階建、延面積663㎡の建物1棟が竣工した。
- 同 年7月1日 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
- 同 年7月20日 芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
- 昭和43年6月15日 文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
- 昭和44年8月23日 保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延1,950.41㎡）の起工式が行われた。
- 昭和45年3月25日 前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。
- 同 年3月25日 芸能部は、別館3階に移転した。
- 同 年5月8日 保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。
- 同 年6月29日 保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。
- 同 年11月2日 所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転し

た(本館は、美術部庁舎となる)。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」が「13番27号」に変更された。

昭和46年4月1日 保存科学部庁舎及び別館の敷地2.658㎡を東京国立博物館から所管換された。

昭和48年4月12日 文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。

昭和52年4月18日 文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。

昭和53年3月20日 本館構内の写場等(木造、平屋建、延面積144㎡)を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積569.95㎡の建物が竣工した。

昭和53年4月5日 文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。

昭和59年6月28日 文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。

平成2年10月1日 文部省設置法施行規則の一部が改正されて新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。

平成5年4月1日 文部省設置法施行規則の一部が改正されてアジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。

平成7年4月1日 文部省設置法施行規則の一部が改正されて国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。

同年4月1日 東京芸術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻(システム保存学)が設置された。

沿革

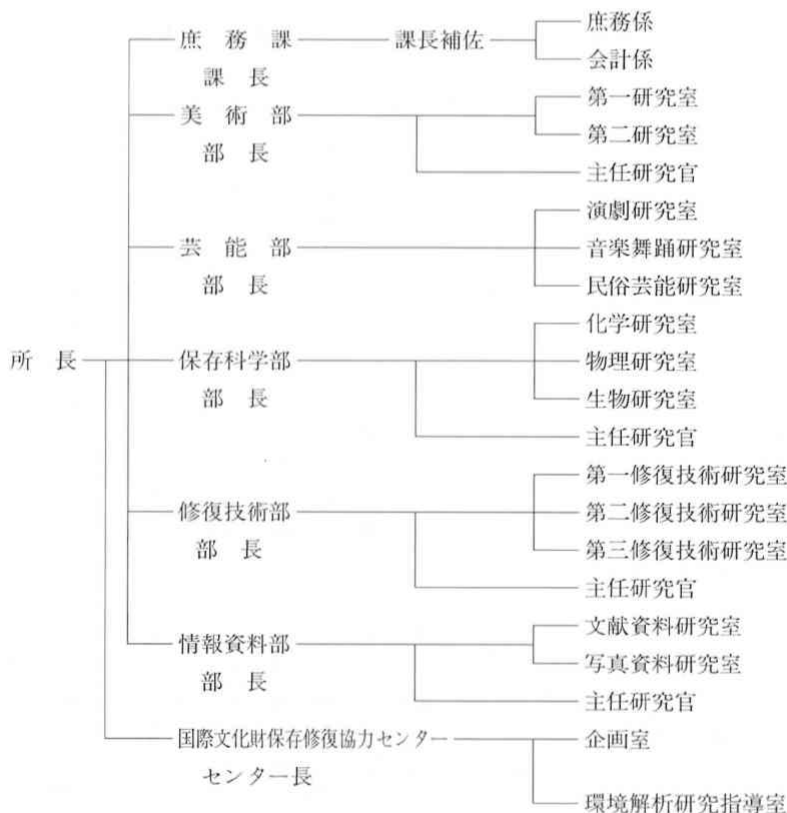
3. 歴代所長 (昭和5年～平成8年)

主事	正木直彦	(昭和5.6.28～昭和6.11.24)
主事	矢代幸雄	(昭和6.11.25～昭和10.5.31)
所長事務取扱	和田英作	(昭和10.6.1～昭和11.6.21)
所長	矢代幸雄	(昭和11.6.22～昭和17.6.28)
所長事務取扱	田中豊藏	(昭和17.6.29～昭和22.8.15)
所長	田中豊藏	(昭和22.8.16～昭和23.5.10)
所長代理	福山敏男	(昭和23.5.11～昭和24.8.30)
所長	松本栄一	(昭和24.8.31～昭和27.3.31)
所長事務代理	矢代幸雄	(昭和27.4.1～昭和28.10.31)
所長	田中一松	(昭和28.11.1～昭和40.3.31)
所長	関野克	(昭和40.4.1～昭和53.4.1)
所長	伊藤延男	(昭和53.4.1～昭和62.3.31)
所長	濱田隆	(昭和62.4.1～平成3.3.31)
所長	西川杏太郎	(平成3.4.1～平成8.3.31)
所長	渡邊明義	(平成8.4.1～現在)

## II. 機構・職員・予算

東京国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成およびその公表を行うことを目的として設立された文化庁の施設等機関である。その機構等は次のとおりである。

### 1. 機構





## 2. 職員

(平成8年3月30日現在)

所 属	職 名	氏 名	専 門 分 野
所 属 庶 務 庶 務 会 計 美 術 第 一 研 究 室 第 二 研 究 室 芸 能 部 演 劇 研 究 室 音 楽 舞 踊 研 究 室 民 俗 芸 能 研 究 室	長 課	所 長	(美術史)
	課 長 補 佐	西 川 杏 太 郎	
	係 長	山 代 文 雄	
	係 長	篠 原 一 夫	
	係 員	浅 見 清	
	事 務 補 佐 員	宮 腰 香 代 子	
	"	武 田 知 子	
	"	鈴 木 紀 枝	
	係 長	大 堀 岳 満	
	係 員	渡 邊 重 夫	
	事 務 補 佐 員	時 田 真 理	
	"	瀧 澤 桂 子	
	"	後 藤 由 希 子	
勞 務 補 佐 員	菊 地 廣 吉	(中国絵画史)	
部 長	鶴 田 武 良	(日本中世絵画史)	
主 任 研 究 官	島 尾 新	(日本近代絵画史)	
"	山 梨 絵 美 子	(中国彫刻史)	
"	岡 田 健	(日本近代絵画史)	
"	田 中 淳	(東洋絵画史)	
室 長	中 野 照 男	(日本絵画史)	
調 査 員 (非)	肥 田 路 美	(日本近代絵画史)	
室 長	三 輪 英 夫	(日本音楽史)	
部 長	蒲 生 郷 昭	(日本近世演劇)	
室 長	鎌 倉 惠 子	(中国演劇)	
調 査 員 (非)	細 井 尚 子	(日本中世演劇)	
室 長	羽 田 昶	(日本音楽史)	
研 究 員	高 桑 い づ み	(日本中世演劇)	
調 査 員 (非)	石 井 倫 子	(民俗芸能)	
室 長	中 村 茂 子	(民俗音楽)	
調 査 員 (非)	山 本 宏 子		

所 属	職 名	氏 名	専 門 分 野
保 存 科 学 部	部 長	三 浦 定 俊	(計測工学)
	主 任 研 究 官	佐 野 千 絵	(光化学)
	化 学 研 究 室 室 長	平 尾 良 光	(無機化学)
	物 理 研 究 室 室 長	三 浦 定 俊	(計測工学)
	生 物 研 究 室 室 長	門 倉 武 夫	(環境科学)
修 復 技 術 部	研 究 員	木 川 り か	(生物化学)
	調 査 員 (非)	山 野 勝 次	(応用昆虫学)
	部 長	増 田 勝 彦	(装潢技術)
	主 任 研 究 官	川 野 邊 涉	(高分子化学)
	第 一 修 復 技 術 研 究 室 室 長	中 里 壽 克	(漆芸技法)
第 二 修 復 技 術 研 究 室	室 長	松 本 修 自	(建築史)
	研 究 員	尾 立 和 則	(装潢技術)
	技 術 補 佐 員	坂 本 雅 美	
	第 三 修 復 技 術 研 究 室 室 長	青 木 繁 夫	(考古学)
情 報 資 料 部	技 術 補 佐 員	犬 竹 和	
	部 長	廣 井 雄 一	(日本工芸史)
	主 任 研 究 官	井 手 誠 之 輔	(東洋絵画史)
	"	長 岡 龍 作	(日本彫刻史)
文 献 資 料 研 究 室	室 長	米 倉 迪 夫	(日本中世絵画史)
	研 究 員	勝 木 言 一 郎	(中国絵画史)
	事 務 補 佐 員	中 村 節 子	
写 真 資 料 研 究 室	室 長	鈴 木 廣 之	(日本近世絵画史)
	専 門 職 員	野 久 保 昌 良	(美術写真)
	調 査 員 (非)	玉 蟲 敏 子	(日本絵画史)
	国 際 文 化 財 保 存 修 復 協 力 セ ン タ ー 一 室 室 長	宮 本 長 二 郎	(建築史)
企 画 室	室 長	貴 志 辰 夫	
	係 員 (併任)	松 下 冬 樹	
	係 員 (併任)	吉 野 貴 子	
	調 査 員 (非)	大 江 佐 知 子	
環 境 解 析 研 究 指 導 室	室 長	西 浦 忠 輝	(材質改良学)
	研 究 員	朽 津 信 明	(地質学)
保 存 科 学 部	客 員 研 究 員	二 宮 修 治	(無機化学)
修 復 技 術 部	"	松 田 史 朗	(腐食工学)
情 報 資 料 部	"	伊 與 田 光 宏	(情報工学)
国 際 文 化 財 保 存 修 復 協 力 セ ン タ ー 一	"	中 川 武	(建築史)

機構・職員・予算

平成7年度における異動者

所 属	官 職 名	氏 名	異 動 日	異 動 内 容
庶 務 課	主 任	渡 邊 重 夫	平7. 4. 1	昇 任
	事務補佐員	後 藤 由希子	平7. 4. 1	採 用
	事務補佐員	小 倉 聖 子	平7. 8.21	採 用
美 術 部	調 査 員 (非)	肥 田 路 美	平7. 4. 1	採 用
	部 長	増 田 勝 彦	平7. 4. 1	昇 任
修復技術部	室 長	松 本 修 自	平7. 4. 1	昇 任
国際文化財 保存修復協 力センター	センター長	宮 本 長二郎	平7. 4. 1	配 置 換
企 画 室	室 長	貴 志 辰 夫	平7. 4. 1	配 置 換
	係 長	松 下 冬 樹	平7.10. 1	昇 任
環 境 解 析 研 究 指 導 室	室 長	西 浦 忠 輝	平7. 4. 1	配 置 換
	研 究 員	朽 津 信 明	平7. 4. 1	配 置 換
	客員研究員	中 川 武	平7. 4. 1	採 用

平成7年度における退職者等

所 属	官 職 名	氏 名	在 所 期 間	備 考
所 長 庶 務 課		西 川 杏太郎	平 3. 4. 1~平8. 3.31	退 職
	係 長	浅 見 清	平 6. 4. 1~平8. 3.31	転 出
	係 長	大 堀 岳 満	平元. 4. 1~平8. 3.31	転 出
	主 任	渡 邊 重 夫	平 6. 4. 1~平8. 3.31	転 出
美 術 部	事務補佐員	勝 木 なほ子	平 4. 1. 1~平7. 7.31	退 職
	室 長	三 輪 英 夫	昭53. 8. 1~平8. 3.31	転 出
芸 能 部	調 査 員 (非)	肥 田 路 美	平 7. 4. 1~平8. 3.31	退 職
	調 査 員 (非)	山 本 宏 子	平 4. 4. 1~平8. 3.31	退 職
保存科学部	室 長	門 倉 武 夫	昭37. 4. 1~平8. 3.31	退 職
情報資料部	部 長	廣 井 雄 一	平 5. 1. 1~平8. 3.31	転 出
国際文化財 保存修復協 力センター	室 長	貴 志 辰 夫	平 4. 10. 1~平8. 3.31	転 出

## 3. 名誉研究員

氏名	退職時官職名	在所期間	名誉研究員 発令年月日
白畑よし		昭5. 6.30~昭27. 8. 1	53.10.18
高田修	美術部長	昭27.12. 1~昭44. 3.31	"
登石健三	保存科学部長	昭27.10. 1~昭50. 4. 1	"
岡畏三郎	美術部長	昭20. 5.15~昭51. 4. 1	"
関野克	所長	昭40. 4. 1~昭53. 4. 1	"
秋山光	美術部第一研究室長	昭16.10. 1~昭42. 2. 1	54.10.18
久野健	情報資料部長	昭20. 5.31~昭57. 4. 1	57.10.18
川上涇	美術部長	昭21. 2.28~昭57. 4. 1	"
関千代	美術部第二研究室長	昭18.12.15~昭58. 4. 1	58.10.18
横道万里雄	芸能部長	昭28. 3.16~昭51. 4. 1	59.10.18
上野了	情報資料部文献資料研究室長	昭17.11. 3~昭59. 4. 1	"
江上綏	情報資料部主任研究官	昭38. 5.18~昭59. 3.31	"
田村悦子	美術部主任研究官	昭22. 6.16~昭60. 3.31	60.10.18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭22. 6.27~昭60. 3.31	"
伊藤延男	所長	昭53. 4. 1~昭62. 3.31	62.10.18
柳澤孝	美術部長	昭21. 9.30~昭62. 3.31	"
三隅治雄	芸能部長	昭27.10. 1~昭63. 3.31	63.10.18
樋口清治	修復技術部長	昭37.11. 1~昭63. 3.31	"
田實榮子	美術部主任研究官	昭23. 3.31~平元. 3.31	1.10.18
見城敏子	保存科学部物理研究室長	昭34. 4. 1~平元. 3.31	"
濱田隆	所長	昭62. 4. 1~平4. 3.31	3.10.18
関口正之	美術部長	昭42. 2. 1~平3. 3.31	"
佐藤道子	芸能部長	昭34. 4. 1~平4. 3.31	4. 4. 1
馬淵久夫	保存科学部長	昭50.10. 1~平4. 3.31	"
新井英夫	保存科学部長	昭45. 9. 1~平5. 3.31	5. 4. 1
石川陸郎	保存科学部主任研究官	昭32. 4.15~平5. 3.31	"
西川杏太郎	所長	平3. 4. 1~平8. 3.31	8. 4. 1
門倉武夫	保存科学部生物研究室長	昭32. 4. 1~平8. 3.31	"
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭53. 8. 1~平8. 3.31	"

4. 平成7年度予算

( )は補正後を表す

事	項	金 額
		千円
人件費		394,226 (492,284)
運営費		400,984 ( 32,350)
事業管理		36,269 ( 43,191)
一般研究		46,673 (266,359)
特別研究		156,712 ( 2,414)
受託研究		2,414 (147,970)
文化財保存修復の国際交流事業の促進等		158,916 (1,001,510)
施設費		647,000
文部省		107,284
各所修繕		6,260
在外研究員旅費		3,424
退職手当		97,600
文化庁		
文化財保存事業費		6,000
	計	(1,493,794) 1,555,494

## 5. 平成7年度特別研究一覧

(補正後)

事 項	金 額
	千円
中国仏教美術基準作品調査研究	6,902
伝統芸能(無形文化財)における「鬼」の実証的研究	4,965
文化財の保存を目的としたレンガの劣化現象と保存対策に関する調査研究	4,974
研究用機器維持費	5,000
文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究	80,000
文化財施設の保存(収蔵展示)環境の研究	7,846
研究用機器整備(水浸有機物文化財の保存処理システム)	44,000
有形・無形文化財研究支援データベースシステムの構築に関する調査研究	3,025
計	156,712

## 6. 平成7年度科学研究費補助金交付一覧

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
			千円
重点領域研究(1)	化学的・光学的情報を用いた遺跡探査の手法に関する研究	三浦 定俊	6,500
重点領域研究(2)	美術史研究支援ツールの研究	廣井 雄一	2,800
総合研究(A)	美術工芸品等の防災に関する調査研究	西川 杏太郎	7,000
総合研究(A)	古代東アジアの青銅製品鑄造に関する基礎的研究	平尾 良光	1,000
一般研究(A)	文化財の修復に用いられた材料の効果に関する追跡研究	増田 勝彦	9,000
一般研究(C)	中央アジア・クチャ地方における中国絵画様式の移入	中野 照男	500
一般研究(C)	環境の湿度変化が国宝中尊寺金色堂に与えた影響に関する研究	三浦 定俊	1,400

機構・職員・予算

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
一般研究(C)	古代日本の動物遺体のDNA解析	木川 りか	1,200
一般研究(C)	ブラズマ処理による象嵌遺物の保存処理法の開発研究	青木 繁夫	1,100
試験研究(B)	木造古建築の保存を目的とした外装塗装(丹色塗装)の物性評価	西浦 忠輝	1,600
国際学術研究	タイ国レンガ造遺跡の劣化現象と保存対策に関する調査	西浦 忠輝	2,700
国際学術研究	科学技術を利用した文化財研究手法の開発の総括	西川杏太郎	2,000
国際学術研究	中国砂漠地帯における文化財の保存対策に関する共同研究	宮本長二郎	2,100
国際学術研究	漆・ニスなど伝統的天然樹脂塗膜の劣化と保存に関する研究	三浦 定俊	6,000
計			44,900

7. 平成7年度受託研究一覧

研究課題	受入額
	円
重要文化財正法寺徳門彩色復元の調査研究	450,000
装潢材料の生化学研究	200,000
太宰府市大字観世音寺1丁目寺内出土の漆手箱復元に関する研究	800,000
重要文化財旧札幌農学校演武場(時計台)塗装の研究調査	361,000
重要美術品、鉄製狛犬及び三十八間星兜の保存修理研究	964,000
計	2,414,000

### III. 調査研究

#### 1. 中長期研究計画一覧

部 名	課 題 名	研究代表者	期 間
美 術 部	美術に関する基礎資料の研究 日本絵画史年記資料集成15世紀	鈴木 廣之	平 3. 4 ～平 8. 3
	室町水墨画資料	島尾 新	平 6. 4 ～平11. 3
	絵画に見る武装資料	廣井 雄一	平 6. 4 ～平11. 3
	明治後期～昭和前期美術資料	三輪 英夫	平 6. 4 ～平11. 3
	中国仏教美術基準作品調査研究	中野 照男	平 5. 4 ～平10. 3
	東アジアにおける造形と社会	島尾 新	平 6. 4 ～平11. 3
芸 能 部	* 伝統芸能における「鬼」の実証的研究	蒲生 郷昭	平 4. 4 ～平 8. 3
	* 近現代における能楽技法の伝承に関する研究	羽田 昶	平 7. 4 ～平11. 3
	* 元禄期の浄瑠璃・歌舞伎の研究	鎌倉 恵子	平 6. 4 ～平10. 3
	* 「翁」の技法集成	羽田 昶	平 6. 4 ～平 9. 3
	* 日本音楽の伝承に関する研究	蒲生 郷昭	平 6. 4 ～平 9. 3
	* 伝統的唱歌の研究	高桑いづみ	平 5. 4 ～平 8. 3
	* 芸能に用いられる武器の研究	中村 茂子	平 5. 4 ～平 8. 3
保存科学部	* 文化財施設の保存（取蔵・展示）環境の研究	三浦 定俊	平 7. 4 ～平12. 3
	* 新しい文化財防虫防霉法の研究	三浦 定俊	平 6. 4 ～平13. 3
	* 古代東アジアにおける青銅製品の変遷に関する研究	平尾 良光	平 7. 4 ～平12. 3
情報資料部	* 美術情報処理システムの研究—データの共有化を中心として—	廣井 雄一	平元. 4 ～平11. 3



## 美術部

部名	課題名	研究代表者	期間
情報資料部	* 検索辞書システムの研究	米倉 迪夫	平 6. 4 ～平11. 3
	* デジタル画像データの蓄積と活用に関する基礎的研究	鈴木 廣之	平 6. 4 ～平11. 3
修復技術部	* 文化財における環境汚染の影響と保存修復法の開発	増田 勝彦	平 4. 4 ～
	* 文化財の伝統的修復材料の研究(第2期)	中里 壽克	平 5. 4 ～平 8. 3
国際文化財 保存修復協 力センター	* 世界、特にアジア諸国における文化財保存に関する情報の収集	松本 修自	平 3. 4 ～平12. 3
	* 屋外石造文化財の劣化と保存修復処置に関する研究	西浦 忠輝	平 3. 4 ～平12. 3
	* 文化財の保存を目的とした、レンガの劣化現象と保存対策に関する調査	西浦 忠輝	平 6. 4 ～平15. 3
	* 敦煌文化財の保存修復に関する日中共同研究	宮本長二郎	平 3. 4 ～平13. 3

## 2. 美術部

### (1) 概要

美術部は日本・東洋の古美術並びに日本の近代・現代美術とこれらに関連ある西洋美術についての基礎的調査研究を行い、かつ、その成果を公表することを活動の目的としている。美術部は二室より構成され、第一研究室は古美術を担当し、第二研究室は近代・現代美術を担当している。

調査研究は各時代にわたり、絵画・彫刻・工芸の各分野について、作品と文献資料との両面から実証的に進め、ともに基礎となる研究資料の作成と整理とにつとめている。その他、現代美術の動向に関する調査と資料収集も並行して行っている。また当部では、作品に対する科学的な鑑識法を早くから積極的に活用してきた。これも当部の研究活動の特色である。なお情報資料部員との間では、研究や調査の面において緊密な協力体制がとられている。

そのほか他機関との共同研究による広領域の研究にも参加している。なお、研究員それぞれの研究課題と内容は(2)の各論の項に示すとおりである。

調査研究の結果は、機関誌『美術研究』（昭和7年創刊）やその他の学会誌に発表し、単行の研究報告も随時刊行している。さらに、研究成果の一部を広く一般の理解に資するために、情報資料部との共同で毎年一回公開学術講座を開催している。また毎年『日本美術年鑑』（昭和11年創刊）を発行している。

なお美術部は黒田清輝の遺産に基づいて創立された美術研究所を前身とする。現在も黒田清輝の作品その他関係資料を保管し、毎週一回木曜の午後にはその多くを陳列する黒田記念室を公開している。

## 第一研究室

江戸時代までの日本美術及び東アジア地域の美術に関する調査研究並びに資料収集、公表を主務とする。また、『美術研究』の編集を担当している。

## 第二研究室

明治以降の日本近代美術に関する調査研究と、これに関連する西洋美術及び日本近世の洋風美術の調査研究、とくに現代美術に関する調査研究においては、その年度に収集した資料を整理し、その成果を『日本美術年鑑』として毎年刊行している。平成7年度は、平成6年の内容をもった平成7年版を刊行し、引続き平成8年版の編集に着手した。

また、昭和52年度以来実施してきた黒田清輝巡回展は当研究室が中心となっており、平成7年度は米子市美術館で開催した。

## (2) 各 論

### 1. 美術に関する基礎資料の研究

(1) 明治後期～昭和前期美術資料 (中長期：5年計画の第2年次)

1) 明治期美術展覧会資料の研究成果として「内国勸業博覧会美術品出品目録」（東京国立文化財研究所編）を刊行した。

2) シカゴ万国博覧会（1893年）パリ万国博覧会（1900年）、セントルイス万国博覧会（1904年）の出品目録をデータベース化した。また、前

## 美術部

年度撮影した「温知図録」（東京国立博物館蔵）の内容に関する調査を継続した。

3) 国画創作協会，春陽会，1930年協会の出品目録を収集整理した。

(2) 室町水墨画資料 (中長期：5年計画の第2年次)

1) 下記の作品の調査を行った。

室町水墨画及び関連作品（個人蔵，東京・兵庫）

東京国立博物館所蔵狩野家模本中の雪舟画（東京国立博物館と共同）

また中国江南地方（蘇州・杭州・紹興・天台山・寧波・普陀山・上海）の仏教史跡の調査を行った。

2) 13世紀から16世紀における水墨画に関する基礎資料の収集と研究史の整理については，下記の研究会を行った。

頂相の諸相—追善供養との関連—（1995年6月）

唐土勝景図巻について（1995年8月）

中国江南の仏教史跡（同上）

3) 収集資料については，逐次，整理を行い，併せてデータベース化を進めた。

(3) 日本絵画史年記資料集成15世紀 (中長期：6年計画の第5年次)

1) 昨年度までに，源豊宗『日本美術史年表（増定版）』（座右宝刊行会，1972），『原色図典日本美術史年表』（集英社，1987），考古学会編『造像銘記（改定版）』（考古学会，1936），および久野健『造像銘記集成』（東京堂出版，1985）から計445件の項目を採録して「一五世紀絵画史年表」（改定第1稿）を作成した。

2) 本年度は情報資料部の保管する展覧会図録の調査を行ない，また京都国立博物館編『学叢』掲載の「修復文化財関係銘文集成」（7号，1985～17号，1995）を参照し，延べ数で536件の項目を新たに採集した。採集した項目は1件ごとに調査票を作成し，図録等の当該頁のコピーを添付してファイルに収納し，次年度の研究に備えた。

また，「一五世紀絵画史年表」（改定第1稿）について，重複項目を削除し，名称，所蔵などの誤りを訂正し，さらに本年度新たに採集し

た項目から追加して「増補改定第1稿」を作成した。ただし時間の制約から、採集項目のすべてを年表に追加することができず、絵画を中心に計85件の項目の追加にとどまった。

(4) 絵画に見る武装資料 (中長期：5年計画の第2年次)

1) 下記の寺院に於て関係資料の調査を実施した。

岩手県中尊寺 藤原基衡棺内納置品

宮城県塩釜神社 刀装類

愛知県猿投神社 金銅丸鞘太刀等

山形県上杉神社 甲冑・馬具

2) 前九年絵詞、後三年絵詞、平治物語絵巻等から武装に関する部分を抜粋し、また平家物語、参考源平盛衰記、太平記等から関係記事を集めた。

2. 東アジア美術における造形と社会 (中長期：5年計画の第2年次)

(1) 制作と享受の場についての研究

1) 古代的空間意識と彫像の機能

彫像に付加された物語、堂宇内の特定の安置空間(後戸)、山城・大和を起点に認識された境界観の分析を通して想定される、8・9世紀に彫像が獲得した特殊な(障礙神)信仰について、関係資料を収集した。

2) 唐本・宋本画像の意味と機能

高麗仏画全般に共通する独自性を考察するとともに、東アジア絵画史の枠組みについて検討した。成果は「高麗仏画の領分」(『高麗仏画』韓国・時空社、1996.3〔刊行予定〕)に発表。また日本に請来された宋本画像について報告した。(長野・定勝寺蔵普陀山図(『美術研究』364号、1996.3〔刊行予定〕)。唐本・宋本画像の制作された場の問題を具体的に把握するために、中国浙江省の有力寺院を訪問した(中国五山、天目山、天台山、普陀山等)。

3) 絵画の享受と〈見立て〉の表現

中世の文芸思潮から法解釈まで広く見られる「准拠」概念に着目し、室町時代の絵画・文学に見られる「なぞらえる」表現技法の背景を探っ

## 美術部

た。また室町時代との関連から、江戸時代の「見立て」を成立させた条件を考察した。成果は「類似の発見—室町の〈擬〉、江戸の〈見立て〉—」（『日本の美学』24, 1996.4〔刊行予定〕）にまとめた。

### (2) 流通と交流についての研究

#### 1) 15・6世紀の唐絵とやまと絵

『朝鮮王朝実録』を中心に日本・中国・朝鮮・沖縄の外交資料に注目し、東アジア交流史のなかでの屏風絵の役割を検討して、この地域における共通様式を考察した。成果は「絵画のアルケオロジー—室町時代における屏風絵の意義—」（『国華』1200）に発表した。

#### 2) 室町時代における美術の流通と価値観の形成

座敷飾関係の資料の収集・分析を継続すると同時に、唐物の売買を中心とした美術の流通システムについての検討を加えた。

#### 3) 技術と素材についての史的研究

従来、素材あるいは造像技法の概念として考えられてきた「檀像」を、機能の面から検討し直した。

### 3. 中国仏教美術基準作品調査研究（6年計画の第4年次）

本研究は、中国仏教美術作品のうち、銘記、落款、印章、賛文等によって、制作年、制作地、作者、発願者などが明らかなるものを「基準作品」として調査し、基本的なデータや詳細な写真を整備することによって、中国仏教美術の体系を見直し、その特質を明らかにするための「ものさし」を作ろうとするものである。

本年度は下記の調査、研究を行なった。

#### (1) 研究会（研究協力者会議）の開催

中国仏教美術、中国・日本とも深く関わりのある朝鮮半島の仏教美術、また日本における中国仏教美術の受容の諸相について研究を重ねてきた研究者を招き、各自がもつデータを持ち寄り、問題の所在を明らかにするとともに、今後の調査研究の方法等について討議した。

本年度の研究発表者は次の4名である。

西上 実（京都国立博物館）

井手誠之輔（東京国立文化財研究所）

藤岡 穰（大阪市立美術館）

岡田 健（東京国立文化財研究所）

(2) 現地調査

日本国内では、年紀を有する中国仏教美術作品を中心に調査、写真撮影を行なっている。本年度は、関西方面（大阪市立美術館、京都国立博物館等）、東京（根津美術館等）で調査を実施した。また、中国大陸では陝西省・山東省・河北省・河南省・浙江省・江蘇省・四川省の石窟寺院及び博物館での調査を実施し、さらに欧米6カ国の美術館・博物館でその所蔵作品の調査を実施した。

(3) 基礎資料の収集

既に国内の各機関、個人等に分散して蓄積されている中国仏教美術作品のデータ、写真等を借覧し、必要に応じてその複製を作るなどして、基礎資料の収集を行なった。本年度は引き続き、米国および欧州所在の中国仏教美術作品の写真約6000枚を整理した。

(4) データベースの作成

中国仏教美術研究のための基礎史料として、本年度は『宋高僧伝』（中華書局刊）を入力した。

4. 近百年來中国絵画史研究

徐悲鴻生誕百年記念展（北京・徐悲鴻記念館、6月）

虚白齋二十世紀絵画展（香港芸術館、10月）

台湾当代芸術展（高雄市立美術館、11月）

呂勝中作品（福岡市美術館、11月）

の調査を行ったほか、北京故宫博物院において清朝洋風画の調査（8月）を行った。

### 3. 芸 能 部

(1) 概 要

芸能部は、日本の伝統芸能に資するために必要な基礎研究を行うことを目

## 芸 能 部

的とし、演劇研究室・音楽舞踊研究室・民俗芸能研究室の三室によって構成されている。芸能部の研究目標としては、諸芸能の理念・構造・技法およびその継承保存に関する研究などがあり、その研究に必要な資料の収集・整備、および記録の作成のための撮影・録音・録画などの作業を行う。研究の成果は、刊行・夏期学術講座・公開学術講座などによって公表する。

平成7年度は、特別研究「伝統芸能における〈鬼〉の実証的研究」（4年計画）の第4年次にあたり、資料収集、記録作成、実地調査を行い、研究会を開催した。研究成果は夏期学術講座・「芸能の科学」24などで公表した。

### 演劇研究室

日本古典演劇について芸能学的に調査・研究を行い、また、これら諸芸能の周辺にあって、伝統芸能の成立に深い関係をもつ諸分野についても調査研究を進めている。

平成7年度は、個人研究として「元禄期の浄瑠璃・歌舞伎の研究」「中国演劇の研究」、共同研究として「伝統芸能における〈鬼〉の実証的研究」に参加した。

### 音楽舞踊研究室

日本の音楽について、芸能学的・音楽学的な調査研究を行い、これら伝統音楽の成立に深い関係をもつ周辺分野についても、調査研究を進めている。

平成7年度は、個人研究として、「日本音楽の伝承における研究」「近現代における能楽技法の伝承に関する研究」「伝統的唱歌の研究」「能と蹴鞠の研究」を行ったほか、共同研究「伝統芸能における〈鬼〉の実証的研究」「翁の技法集成」に参加した。

### 民俗芸能研究室

全国各地に分布伝承される民俗芸能を対象とし、それらの保存・継承に資するために必要な研究を行っている。

平成7年度は、個人研究として「芸能に用いられる武器の研究」「民俗芸能における水とメンタリティーの研究」を行ったほか、共同研究「伝統芸能に

おける〈鬼〉の実証的研究」に参加した。

## (2) 各 論

### 1. 伝統芸能における「鬼」の実証的研究（4年計画の第4年次）

日本の民俗行事や宗教行事、能・狂言・歌舞伎などの伝統芸能には、「鬼」がいろいろに形や性格を変えて登場する。本研究は、「鬼」の多面的な性格、芸術的表現の多様性、歴史的変遷を総合的に把握し、解明することを目的とする。本年度はその4年次で、下記の調査・研究等を行った。

- (1) 研究会開催：門屋光昭氏（盛岡大学教授、北上市立鬼の館館長）を招いて講話を聞き、質疑応答を行った。
- (2) 実地調査：沖縄県立芸術大学蔵のアカマタ・クロマタ関係資料、愛知県東栄町御園の花祭り、五條市陀々堂（念仏寺）の鬼走り、京都観世会館での大蔵流鬼狂言、京都府大江町の町立日本の鬼の交流博物館の展示資料を調査し、茂山千之丞、野村万蔵の狂言謡を記録した。
- (3) 成果公表：研究員の個別研究の成果を「芸能の科学」24で公表した。

### 2. 元禄期の浄瑠璃・歌舞伎の研究（6年計画の第2年次）

元禄期の浄瑠璃について、鬼の登場する場を中心に調査した。〈鎌倉〉

### 3. 「翁」の技法集成（5年計画の第2年次）

本年度は、芸能部舞台で金剛流の翁、観世流の翁（おきな）と千歳（せんざい）、宝生流の翁と千歳の実技者の型を撮影記録するとともに、技法に関する聞き取り調査を行った。なお、撮影したフィルムの一部は photo-CD 化し、型の比較を試みている。〈羽田・高桑・石井〉

### 4. 日本音楽の伝承に関する研究（3年計画の第2年次）

日本音楽の変化の諸相について考察する。本年度は下記の研究を行った。

- (1) 語り物音楽の特質と、伴奏楽器の機能について考察し、公開学術講座で公表し、併せて実演者の協力を得て、常磐津節と長唄を例に語り物と歌い物を比較した。
- (2) 初期から明治までの長唄の鬼について、性格の変遷、三味線の調弦の変化等について考察した。



芸 能 部

- (3) 『教訓抄』語彙索引作成を継続し、「家系・芸系編」を完成した。

〈蒲生〉

5. 近現代における能楽技法の伝承に関する研究（5年計画の第1年次）

近代以降も変遷し続けている能楽の、特に技法の伝承と演出のあり方に  
関わる事象を重点的な研究課題とする。

本年度は、明治以降に創作された新作能と第二次世界大戦後に上演され  
た復曲の流れを跡づけ、新作や復曲が行われる要因、その意義について考  
察した。〈羽田〉

6. 伝統的唱歌の研究（5年計画の第3年次）

平安から鎌倉時代にかけての雅楽の唱歌を考察し、能の「翁」の詞章「と  
うとうたり」との関連性を考察した。〈高桑〉

7. 芸能に用いられる武器の研究（3年計画の第3年次）

民俗芸能における棒の用途について調査研究を行った。〈中村〉

8. 中国演劇の研究

人形戯『目蓮戯』中の「李世民遊地府」の台本検討と中国泉州での実演  
調査を行い、地獄の演出について考察した。成果は「芸能の科学」24で公  
表した。〈細井〉

9. 能と蹴鞠の比較研究

蹴鞠と能の身体技法の共通点について考察し、成果は「芸能の科学」24  
で公表した。〈石井〉

10. 民俗芸能にみる水とメンタリティーの関係の研究

筑後川流域の河童にまつわる民俗芸能をとりあげ、由来記と説話に現わ  
れる河童の様相から芸能の成立を考察した。成果は「芸能の科学」24で公  
表した。〈山本〉

11. 日本の『目蓮記』と中国泉州人形戯『目蓮戯』の調査研究（2年計画の  
第1年次）

江戸時代初期まで浄瑠璃で行われていた『目蓮記』と中国で現在も上演  
されている『目蓮戯』を比較検討することで、宗教と芸能の関係、今は行  
われていない浄瑠璃の演出方法等を考察する。なお本研究は日本学術振興  
会国際共同研究事業の調査研究費を得て行っている。

本年は泉州で、『目蓮戯』及び芸能と関わりの深い道教儀礼の実演調査と記録撮影を行った。また日本国内で行われている盆踊りの『目連』についても調査に着手した。〈鎌倉・中村・細井・山本〉

## 4. 保存科学部

### (1) 概 要

文化財の材質・構造・技法および劣化機構の科学的ならびに文化財のおか  
れている保存環境の科学的研究を行い、これらを基礎として文化財保存技術  
に関する研究を行っている。言い替えば、文化財の自然科学的研究、文化  
財を試料とする科学技術史的研究、文化財保存科学のための科学技術の応用  
研究の3方面である。研究組織は化学研究室、物理研究室、生物研究室の三  
室からなり、研究成果は修復技術部と共同編集の機関誌「保存科学」などに  
公表され、文化財の指定・保存対策・修復処置の基礎資料として役立てられ  
ている。

#### 化学研究室

化学研究室では文化財の材質ならびに保存環境に関する問題点を化学的  
手法を用いて調査・研究している。X線分析法、質量分析法などを用い、主  
として金属文化財に関する劣化、保存対策、材料産地の推定などの研究を進  
めている。また、文化財を取り巻く環境からの大気汚染、酸性雨などの影響に  
ついて汚染度の測定、影響評価法の研究を行っている。

#### 物理研究室

物理研究室では文化財の材質ならびに保存環境に関する問題点を物理的  
手法を用いて調査・研究している。文化財の材質、構造の調査方法として $\gamma$ 線・  
X線・赤外線などを用いている。また展示、取蔵、梱包・輸送などの文化財  
を保存する環境の評価と劣化防止の方法について研究を行っている。

## 生物研究室

生物研究室では文化財の保存に関する問題点を生物学的に調査・研究している。文化財の生物による劣化、すなわち微生物や昆虫などによる被害の実態を調査して、これらの加害生物がおよぼす劣化の原因を機構を明らかにし、加害生物の防除法の研究と開発を行っている。

## (2) 各 論

### 1. 文化財における環境汚染の影響と保存修復法の開発(中長期:5年計画の第5年次修復技術部と共同)

#### (1) 気象および大気中の酸性汚染物質などの観測と評価法の研究

鎌倉市内4地区および東大寺において観測と調査を引き続き行った。測定項目は温湿度・日照・風向・風速・雨量・雨水・ミストおよび大気中の酸性汚染物質などで、影響評価には大理石とブロンズテストピースを用いている。

#### (2) 大理石およびブロンズテストピースを用いた酸性汚染物質の影響評価法に関する研究

##### 1) 大理石テストピースによる実験

前年度に引き続き文化財環境において酸性汚染物質の材質への影響を評価する方法について検討した。実験は、前年度からの継続で、大理石テストピースを環境中に暴露し、同地点で酸性汚染物質濃度を測定した。実験地点は東文研屋上(上野公園)、高德院ほか3地点(鎌倉市内)、東大寺(奈良市)、京博(京都市)および東京学芸大学(小金井市)の5地点で行なった。汚染物質として1ヶ月毎の湿性降下物(降雨)中の $\text{SO}_4^{2-}$ 、 $\text{NO}_3^-$ 、 $\text{Cl}^-$ 、 $\text{Na}^+$ 、 $\text{NH}_4^+$ 、 $\text{K}^+$ 、 $\text{Mg}^{2+}$ 、 $\text{Ca}^{2+}$ を測定した。

主な地点の結果を要約すると、酸性汚染物質の内、降雨中の陽イオン、陰イオンを比較すると地域的な特徴が認められた。鎌倉では他の4地点と比べて $\text{Cl}^-$ が多く、それに対応して $\text{Na}^+$ も多く、海に隣接している地点の特徴が測定された。 $\text{SO}_4^{2-}$ 、 $\text{NO}_3^-$ 濃度は京都、奈良では

他の地点よりやや低い値が得られた。

東文研で1ヶ月毎、高德院で3ヶ月毎の暴露結果は、東大寺の15ヶ月暴露結果と比較すると、東文研、高德院では雨水中の陰イオン総量と相関がみられ、東大寺ではこれらより低い値であった。東大寺では酸性ガス、酸性ミストの測定値が地点より低い値で、この結果を裏付けていると考えられた（東大寺における雨水組成との関係は検討中である）。

## 2) ブロンズテストピースによる実験

雨水採取器ロート内にブロンズ板（Cu：85%、Zn：5%、Pb：5%、Sn：5%）テストピースを設置してブロンズ板表面を通過した雨水中のCu、Pb、Zn、Sn量をICP法で分析し、降雨水組成との関係を検討した。降雨により溶出する金属イオンは、雨水中の陰イオン総量と相関がみられ、測定地域の上野>鎌倉>小金井の順で地域の特徴が見られた。〈門倉〉

## 2. 文化財施設の保存（収蔵展示）環境の研究（中長期：5年計画の第1年次）

### (1) 収蔵庫内の空気環境の評価法の確立のための基礎研究

今年度は特に酸性物質の定性分析法、特に酸性環境の実施設における評価方法について検討した。特定物質の検知管による検出は検出限界のために適用が困難であった。空気のサンプリングによる空気中の全成分の分析は、評価すべき対象を絞りこめず検討中であるが、応用可能性は低い。吸収液中へ捕捉する方法以外には、現状では定性分析すら難しいことが判明した。

対策については、各種添着剤の使用とともに、化学吸着剤を利用した空気清浄化について、基礎的な検討を行った。

### (2) 展示・収蔵方法の安全性評価

揺れの特性および転倒条件に関する基礎的な情報収集を中心に行った。地震動および輸送に関する研究会を各1回開催し、他分野を含めて研究の現状を把握し、将来の研究方向について検討した。また、揺れの特性の研究を行うための計測システムを組み上げ、実際のデータ収集に備えた。

また、免震方法に関して、各社の免震原理や各機器の仕様が出そろったので、各社の起震実験に立ち会い、データ収集を行った。

(3) 調査結果の公表

平成5年度の保存環境調査結果をまとめ、月刊文化財に発表した。平成6年度の調査結果について「保存科学」35号に掲載した。〈三浦・佐野〉

3. 新しい文化財防虫防霉法の研究（中長期：7年計画の第2年次）

(1) 新しい虫害防除法に関する基礎研究

文化財の燻蒸ガスとして長らく使用されてきた臭化メチルが、ハロンの使用撤廃のため、数年内に使用できなくなる。そこで、代替策の導入が緊急の課題となっている。すでに欧米などでは、代替策として、二酸化炭素燻蒸法や、凍結処理法、低酸素濃度殺虫法などが検討され始めている。そのなかで文化財材質に対して影響が少ない点では、低酸素濃度殺虫法が、最も好ましいと考えられる。そこで、この方法が実際の防除法として使えるかどうか、昨年度よりコクゾウや日本の主な文化財害虫であるヒラタキクイムシ、ジンサンシバンムシ、ヒメカツオブシムシなどを使って基礎実験を進めている。昆虫の種類によっては、かなり短期間に効果が認められ、有望であることがわかった。しかし、殺虫にかなりの長期間を要する昆虫もあり、従来のガス燻蒸と比較すると実用化の面で不利であることは否めない。そこで、本年度も、期間を短縮するための実験を継続して行った。その結果、文化財の防虫剤として一般的に使用されているパラジクロロベンゼンを併用すると、期間短縮に有効であることが明らかになってきた。

(2) 燻蒸および防虫防霉法に関する現状調査

一昨年、昨年にひきつづき、保存担当学芸員研修において、全国の美術館、博物館、資料館の学芸員を対象に燻蒸および防虫防霉法に関するアンケート調査を実施した。その結果、3年間ともほぼ50%の館で年1回の定期的な収蔵庫燻蒸が行われていることが明らかになった。燻蒸の時期としては、虫やカビの活動周期からすると暖かい時期が一般的には好ましいが、必ずしも暖かい季節に収蔵庫燻蒸が行われているとは限らず、年末・年始の休みを利用して行ったり、予算の関係で年度末に行っ

ているケースもあった。全く被害がみられないときにも、予防策として年1回の収蔵庫燻蒸を行うことが必要かどうかもある時期にきているといえる。定期的な清掃と生物被害の点検作業を行うことで燻蒸の頻度を減らせる可能性があること、また、燻蒸の時期を暖かい時期に設定することで投薬量が減らせることなど、今後学芸員研修などを通して知らせていく必要があろう。〈木川〉

#### 4. 古代東アジアにおける青銅製品の変遷に関する研究（中長期：5年計画の第1年次）

青銅器資料の化学組成および鉛同位体比から青銅器の産地や製法に関する研究を進めている。今年度は弥生時代の資料を重点的に集めるために、東京国立博物館、京都国立博物館所蔵の弥生時代資料、大分県教育委員会などから提供された弥生時代資料を中心に約100点の鉛同位体比を測定した。これらのデータを従来から蓄積している値と比較検討することを試みている。

古代中国出土の資料として、商時代、二里頭文化などの資料を約30点鉛同位体比分析した。〈平尾〉

#### 5. 文化財の材質・構造・技法に関する研究

##### (1) 鉛同位体比を利用した銅製品の材料産地推定

文化庁、東京国立博物館、県や市町村の教育委員会・発掘事務所・埋蔵文化財センターなどが所蔵する、約200点の銅製品、発掘品などに関して鉛同位体比測定を行った。中国やトルコ出土の金属資料を約100点、鉛同位体比分析した。〈平尾〉

##### (2) 蛍光X線分析法を利用した研究

文化庁、東京国立博物館、県や市町村の教育委員会・発掘事務所・埋蔵文化財センターなどが所蔵する約150点の銅製品、発掘品などに関して蛍光X線分析法による化学組成の測定を行った。〈平尾〉

##### (3) X線回折法を利用した研究

文化庁および島根県の教育委員会から、荒神谷遺跡出土青銅製遺物に発生している錆の結晶組成測定の依頼を受け、約500資料を測定した。孔雀石（マラカイト）はすべての資料に検出され、藍銅鉱（アズライト）

## 保存科学部

や、白鉛鉱（セルサイト）が検出される場合があった。赤銅鉱も認められたが、あまり顕著な回折ピークは見られなかった。〈平尾〉

### (4) ICP 発光分光分析法を利用した研究

文化庁および島根県の教育委員会からの依頼で、荒神谷遺跡出土銅製遺物および関連資料について、内部金属および粘土の化学組成を測定した。今年度は銅剣等に関する再測定資料を測定し、先に測定した値と比較検討した。〈平尾〉

### (5) 赤外線、エミシオグラフィおよびX線透視撮影による調査

下記の作品のX線透視撮影とエミシオグラフィによる調査を行った。

〈三浦〉

	作品名	所蔵者(依頼者)
絵画	国宝山水屏風	文化庁
	一遍上人絵伝	文化庁
	仏画貼り交ぜ屏風	東京国立博物館
工芸品	漆箱	東京国立博物館

### (6) 光学顕微鏡・走査電子顕微鏡を利用した調査研究

東大寺法華堂塑像弁財天立像の模造および修復材料の選定の為、繊維の分析、および仕上げ土材料の考察を行った。形態観察等から提供された試料については、楮であることがわかった。〈佐野〉

### (7) GC-MS を利用した調査研究

漆の熱分解による分析の可能性について、国内外研究者と分析法および分析結果の検討を重ねると共に、基準試料の交換および装置の改良を行った。〈佐野〉

## 6. 文化財の劣化に関する研究

### (1) 化学発光法を利用した調査研究

文化財試料の測定時に問題となるS/N比に関する検討を行い、微量の発光に対する計測の問題点を明らかにした。応用として、漆塗膜の硬化時の発光の観察、和紙の経年劣化による発光の増加、X線や紫外線、可視光線などの各種の電磁波による和紙の劣化への影響について検討した。結果は「保存科学」35号に発表した。〈佐野〉

## (2) 電子スピン共鳴法を利用した調査研究

染料の光による変化に対し、具体的な化学反応の検討を行っている。

〈佐野〉

## (3) LC-MS を利用した調査研究

取蔵中の染織品にあらわれたシミに対し、その要因と対策を検討するため、環境調査とあわせて保存材料の材質チェックやシミを形成する化学物質との因果関係について検討を行っている。〈佐野〉

## 7. 環境に関する調査研究

## (1) 温度・湿度・水分

次の地点で、温度・湿度などの気象観測を継続して行っている。〈三浦〉

史跡等の名称	観測項目	観測開始時期
中尊寺金色堂	温湿度・変位・含水率	1986年3月
鎌倉市内4地点	温湿度・雨量・日照・風向・風速	1992年12月

(長谷寺大仏、八幡宮、掃源院、永福寺跡)

## (2) 法隆寺再現壁画展にともなう環境調査

平成7年(1995年)9月22日から11月26日にかけて、再現金堂壁画の一般公開が東京都美術館企画展示室で行われた。この公開にあたり法隆寺の依頼を受け、平成7年8月から公開終了直後まで再現壁画の取蔵・展示に関わる環境の調査を行った。調査結果は、「保存科学」35号に発表した。〈三浦・佐野・木川〉

## (3) 古墳の保存環境に関する調査研究

虎塚古墳(茨城県ひたちなか市)は、石室内部の公開施設が完備され、常時石室内および観察室内の環境(温湿度)をモニタリングし、春、秋の年2回一定期間(8日程度)一般公開を実施している。公開に先立ち計器及び石室内部の点検を行っている。これは考古学者との共同作業で本年度まで特に異常は認められなかった。〈門倉〉

## (4) 美術館・博物館等館内環境調査について 〈三浦・佐野〉

- 1) 国宝・重要文化財などの指定品および東京国立博物館取蔵資料の借用展示に関して館内環境調査を行い、報告書を作成提出した。



保存科学部

北海道	江別市陶芸の里セラミックアートセンター
茨城	大宮町歴史民俗資料館
栃木	那須野が原ハーモニーホール
千葉	千葉市美術館
東京	日本刀装具美術館 Bunkamura ザ・ミュージアム
神奈川	横浜市立歴史博物館 横浜美術館
福井	高浜町郷土資料館 敦賀市立博物館
石川	金沢市立中村記念美術館
山梨	櫛形町立春仙美術館 宝珠寺収蔵庫
長野	須坂市立博物館 茅野市尖石考古館
岐阜	岐阜県陶磁資料館
愛知	高浜市やきもの里かわら美術館
三重	亀山市立歴史博物館
滋賀	滋賀大学経済学部附属史料館
京都	城陽市立歴史民俗資料館
大阪	大阪府立近つ飛鳥博物館
兵庫	神戸市埋蔵文化財センター
和歌山	有田市郷土資料館
鳥取	米子市立美術館
広島	福山市鞆の浦歴史資料館
山口	吉川報効会史料館
香川	香川県立文書館
高知	高知県立歴史民俗資料館
福岡	王塚装飾古墳館

現地調査は久能山東照宮博物館、宮崎県立美術館、千葉市美術館、神戸市埋蔵文化財、松浦武四郎記念館、長野県立歴史館、東京芸術大学芸術資料館取手館、須坂市立博物館、信州須坂・田中本家、真田宝物館、瑞巖寺宝物館、横浜美術館、王塚装飾古墳館、江戸東京たてもの園、下関市立考古博物館、春日市ふれあい文化、滋賀大学経済学部附属史料館、琵琶湖博物館、大宮町歴史民俗資料館、日本刀装具美術館、岡崎市美術

博物館、高浜市やきもの里かわら美術館、高知県立美術館、東京都美術館、国土地理院地図と測量の科学館、大原幽学記念館、一関市博物館(仮)の27館。

また、全国150館の新設既設美術館・博物館等文化財展示収蔵施設に対して環境改善に関する相談を受け、助言を行った。

- |     |  |
|-----|--|
| 北海道 | 江別市陶芸の里セラミックアートセンター<br>北海道開拓記念館  |
| 岩手  | 一関市教育委員会博物館建設対策室   |
| 宮城  | 村田町歴史みらい館 瑞巖寺宝物館<br>宮城県立歴史博物館 東北陶磁資料館  |
| 秋田  | 秋田県立博物館 米沢市上杉文化振興財団  |
| 山形  | 酒田市民美術館  |
| 福島  | 保原町歴史文化資料館   |
| 茨城  | 下妻市ふるさと博物館 東京芸術大学芸術資料館取手館<br>八千代町資料館 茨城県立五浦美術館 常陽芸文センター<br>国土地理院地図と測量の科学館 大宮町歴史民俗資料館   |
| 栃木  | 宇都宮文化の森美術館 小杉方菴記念日光美術館(仮)<br>那須野が原ハーモニーホール 輪王寺宝物殿  |
| 群馬  | 富岡市美術博物館 高崎市美術館 群馬県立近代美術館<br>西毛考古資料館   |
| 埼玉  | 久喜市公文書館 入間市立博物館 朝霞市教育委員会   |
| 千葉  | 成田山書道美術館 大原幽学記念館 千葉市美術館<br>佐倉市美術館 松戸市立博物館 伊能忠敬記念館  |
| 東京  | 江戸東京博物館 日本刀装具美術館 東京都美術館<br>共立女子大学 江戸東京たてももの園 東京都写真美術館<br>上野の森美術館 荒川区郷土資料館 宮内庁書陵部図書課<br>日本銀行金融研究所貨幣博物館 東京都養育院 真如苑<br>Bunkamura ザ・ミュージアム 学習院女子部図書館 |
| 神奈川 | 相模原市立博物館 横浜市立歴史博物館<br>横浜美術館 鎌倉国宝館  |

保存科学部

- 新潟 新津市立博物館 新潟県立歴史民俗文化館  
富山 新湊市博物館  
石川 石川県七尾美術館 金沢市立中村記念美術館 真脇縄文館  
金沢美術工芸大学美術館  
福井 三方町立郷土資料館 高浜町立郷土資料館  
敦賀市立博物館 福井市立美術館 永平寺町教育委員会  
山梨 榑形町立春仙美術館 宝珠寺収蔵庫  
長野 長野県立歴史館 信州須坂・田中本家 須坂市立博物館  
マリーローランサン美術館 茅野市尖石考古館  
松本市立博物館日本民俗資料館  
真田宝物館 下諏訪町立諏訪湖博物館 緑山美術館  
岐阜 岐阜県陶磁資料館 白鳥町文化博物館 (仮)  
静岡 久能山東照宮宝物館 三島大社宝物館 佐野美術館  
MOA 美術館  
愛知 春日井市立道風記念館 高浜市やきものの里かわら美術館  
岡崎市美術博物館 メナード美術館 名古屋市立美術館  
三重 松浦武四郎記念館 猿田彦神社 亀山市立歴史博物館  
式年遷宮記念神宮美術館彫刻館 三重県公文書館 (仮)  
三重県博物館 (仮)  
滋賀 滋賀大学経済学部附属史料館 五箇荘町歴史博物館  
滋賀県立琵琶湖博物館開設準備室  
京都 舞鶴市郷土資料館 城陽市立歴史民俗資料館  
京都大学施設部建築課  
大阪 泉佐野市郷土資料館 大阪府立近つ飛鳥博物館  
大阪城天守閣  
大阪青山短期大学歴史文学博物館 大阪狭山市郷土資料館  
兵庫 小野市立好古館 龍野市歴史文化資料館 神戸市立博物館  
神戸市埋蔵文化財センター 神戸山手女子短期大学  
姫路市美術館  
奈良 五條市文化博物館

和歌山	和歌山県立博物館 田辺市立美術館 有田市郷土博物館
鳥取	米子市立美術館 鳥取市立美術館準備室
島根	安芸市産業考古館 和鋼博物館
岡山	成羽町美術館
広島	宮島町立宮島歴史民俗資料館 瀬戸田町平山郁夫美術館 広島県立歴史博物館 広島県立美術館 頼山陽史跡資料館 福山市鞆の浦歴史民俗資料館
山口	下関市考古博物館 徳山市美術博物館 吉川報効会史料館 山口県立萩美術館 新南陽市郷土資料館
香川	香川県立文書館 香川県歴史博物館準備室 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
愛媛	愛媛県立歴史文化館 愛媛県立美術館
高知	高知県立美術館 高知県立歴史民俗資料館
福岡	春日市ふれあい文化センター 王塚装飾古墳館 太宰府市文化ふれあい館 福岡市新図書館準備室
佐賀	唐津市立近代図書館 河村美術館 有田ポーセリングパーク 伊万里有田焼伝統産業館
大分	耶馬溪風物館
宮崎	宮崎県立美術館 宮崎県総合博物館
沖縄	浦添市立美術館 沖縄県立芸術大学資料館

## 2) 保存環境調査結果の集計と検討

平成6年度の調査報告書提出館37館の調査結果の集計を行い、「保存科学」第35号に発表した。また平成5年度・6年度の集計結果をまとめて、概要1996に掲載した。

## 8. 文化財研究法の開発・応用

### (1) 遺跡探査に関する調査研究(修復技術部と共同)

平成4年度から科学研究費(重点領域)により「化学的・光学的情報を用いた遺跡探査の手法に関する研究」のテーマの下に研究を行っている。今年度は群馬県子持村田尻遺跡において気球から撮影した可視から熱赤

外領域にわたる分光画像を利用して、遺跡の範囲や形状を探索した。地中レーダーの探索結果と比較して良い一致を得た。また探索結果をもとにボーリングを行い、そこから採取した土壌試料を化学分析した。古代の道と思われる部分では有機物の堆積が見られるが、古墳周溝ではそのような傾向が見られず、周溝ができて早い時期に、榛名山からの火山灰で埋まったのではないかと推定した。また2月に群馬県北橘村でスカイポールを利用して可視から熱赤外領域にわたる分光画像を撮影し、遺跡探索を行った。〈三浦〉

## 9. 生物劣化に関する調査・研究

### (1) 生物劣化に関わるバクテリア

#### 1) 出土木材の保存処理に用いられる合成樹脂 (PEG) を分解するバクテリア

昨年度、出土木材の PEG (ポリエチレングリコール) 含浸処理中に発生した微生物を調べた結果、PEG400を分解するバクテリアが発生していることを報告した。このことより、出土木材の処置に使用される PEG の劣化には、化学的要因以外にも、生物的要因が関与しているという知見が得られたが、本年度は、これらの PEG 分解バクテリアの同定を行った。生化学的性質や遺伝子 DNA の塩基配列を調べた結果、PEG400を分解するバクテリアは、*Agrobacterium sp.*と *Acinetobacter sp.*であることが明らかになった。これらの種は、一般的に土壌に存在するものである。

### (2) 糸状菌 (カビ) の調査

#### 1) 法隆寺金堂壁画展における糸状菌の調査

平成7年9月から11月にかけて、東京都美術館において法隆寺金堂再現壁画展が開催された。会期前、会期中に再現壁画および収蔵環境のカビの調査を実施した。会期前に行った調査では、再現壁画裏面の黴様のスポットからは、活動中のカビは検出されなかったが、収蔵環境の空中落下菌数を調べると、通常レベルよりも高い落下菌数が検出された観測点があった。空調の吹き出し口から直接風があたりところは落下菌数が多い傾向がみられたので、作品に直接風が当たらないよ

うにすることと、環境湿度を60%程度に下げてカビが活動しにくい条件にすることを助言した。また、会期中、再現壁画の側面の本組みの部分にカビ様の変色・綿状の汚れがみられるとの報告を受けたので、調査した。その結果、該当箇所から検出されたカビのコロニー数はバックグラウンドレベルであったため、活動しているカビによる変色ではないと結論した。

## 2) 瑞巖寺障壁画の糸状菌調査

瑞巖寺において再現された障壁画にカビが発生しているとの報告を受け、画面に発生しているカビの調査を実施した。その結果、画面のカビ発生部から検出された主なものは、*Aspergillus sp.*、*Penicillium sp.*および*Cladosporium sp.*であり、条件的好乾性のものが多く検出された。障壁画のある室内は、通風が悪く湿度も高い状態であってカビが発生しやすい状況にあるため、瑞巖寺と共同で有効な改善策を検討する必要がある。

## 3) 正倉院宝物の糸状菌調査

平成7年11月の正倉院宝物の定期点検時に、カビとみられる試料を何点か調査した。

その結果、活動しているカビはいずれからも検出されなかった。これらには、カビではない場合と、保存状態が良好であるためすでに死滅しているカビである場合の両方が含まれると考えられた。

## 4) 高松塚古墳の糸状菌調査

平成7年3月28日より3日間、高松塚古墳の定期点検に伴って、糸状菌の調査を実施した。目視観察では大きな異常はみられず、良好な保存状態にあると考えられた。観測定点から培養した結果検出された主要な種としては、*Penicillium sp.*、*Trichoderma sp.*、*Fusarium sp.*、*Aspergillus sp.*が挙げられ、これらは昨年の結果とほぼ同じであった。これらは、石室内の常在菌と考えられるが、現在進行中の被害を及ぼしているわけではないので、今のところ大きな問題はないと思われる。ただし、*Fusarium sp.*は赤色の色素を生産するので、生育して拡がらないようにひきつづき注意が必要である。〈木川〉

## 修復技術部

### (3) 虫害対策

#### 1) 展覧会会期中における虫害対策

山種美術館において、展覧会会期中に展示ケースおよび展示室内で、カツオブシムシが発生したとの報告を受けた。通常のガス燻蒸ができない状況であったため、展示ケース内は、目張りしてDDVPをしみこませた樹脂を配置すること、展示室床は水溶性の薬剤を散布する旨の対策を助言した。〈木川〉

## 10. 受託研究

### (1) 装こう材料の生化学的研究（修復技術部と共同）

紙本の修復において、効果的に糊ぬきを行うために酵素（アルファアミラーゼ）を使用する試みが進められており、その有効性が確認されている。本年度より、この処理をより安全確実に行うための基礎実験および影響評価実験を開始した。酵素使用後の絵絹に残留している酵素量を、ブルーでんぶんのプレートを用いて簡便に見積もる方法を確立した。また、工房において、糊ぬきに最低限必要な酵素量を定めるテストをした。使用後に酵素を失活させる試みとして、インヒビターを何種類か試したが、少量で満足できる効果を示すものはなかったため、酵素の除去は洗浄のみで対処することとした。〈木川〉

## 5. 修復技術部

### (1) 概 要

文化財の修復に関する調査研究、科学的修復方法の開発研究、応用およびその公表を主務としている。研究の対象は美術工芸品、建造物、考古資料、民俗資料等の有形文化財をはじめとした、文化財すべてを含んでいる。

組織としては、文化財を構成する主材料に合わせて三室からなっている。

## 第一修復技術研究室

工芸品、建造物など木材および漆を主な材質とする文化財の修復に関する科学的、技術的研究を行い、その成果の公表を行っている。

## 第二修復技術研究室

紙と布を素材とする文化財の修復技術を研究している。

絵画・文書類の素材として、和紙、絹布、麻布、木綿布とそれらの繊維、顔料、染料、接着剤（膠、糊など）を対象とする。繊維の強度変化・変色などについての基礎的研究と、紙・布としての劣化要因探求により、修復技術開発に資する。現代の修復技術に不可欠な合成樹脂その他の新素材も、文化財修復の観点から検討する。平成元年度から始まった「在外日本美術品の修復協力」には、修復技術専門家の立場から修復全般に関わると同時に、平成4年度からは、「紙の保存修復」国際研修をも担当している。

## 第三修復技術研究室

建造物、考古資料、美術工芸品など金属、石材、その他無機材質を主材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的研究とその成果の公表を行っている。

環境汚染物質によって無機材質で造られた文化財の劣化が進行して大きな社会問題になっているが、どんな修復保存処置が施せるのか研究を行っている。また「近代の文化遺産」の重要文化財指定が本格化するに伴って従来の修復方法では対応出来ない文化財が多くなっているため「近代の文化遺産」の修復研究機能の充実をはかっている。

## (2) 各 論

### 1. 文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究（保存科学部と共同）

鎌倉市内に四ヶ所の観測ステーションを設置して環境汚染物質の測定を行っている。また基本的な風向・風速の観測を行うとともにその結果に基



## 修復技術部

づいて風洞実験を行った。

東大寺については酸性雨及び大気汚染ガス自動測定装置を設置し観測を行うとともに錆の分析を行った。その結果、アタカマイトやアントレライトなどが検出され、あまりよい錆の状態でないことが分かった。

重要文化財島根県日御碕神社の劣化原因を知るために東大寺と同じ観測機器を設置し観測を開始した。

本年度より韓国国立文化財研究所と共同研究が開始され、韓国における観測場所や観測方法の検討と標準試料の作成などを行った。〈青木, 川野邊, 三浦〉

## 2. 文化財の伝統的修復材料の研究 (第2期 3年計画の第3年次)

### (1) 修復材料および修復技法の開発研究

#### a. 金属と漆の研究

建造物金物などに施される焼付漆技法の研究のために、今年度は実験サンプルの作成を行った。サンプル作成のため、漆膜の完全硬化条件を検討したところ、漆種類と焼付温度により硬化時間が異なることが確認され、漆膜の安定性に及ぼす焼付技術の差に対する示唆を得ることが出来た。(中里)

## 3. 文化財の材質・構造・技法に関する研究

### (1) 蓮如上人直筆名号料紙の調査

調査した4点の内、2点の繊維が竹、2点が楮であった。竹繊維の料紙は当時の状況から中国製と推測できるが、楮繊維の料紙については繊維からだけでは、日本製か中国製かの判断は出来ない。しかし、楮紙のうちの1点は簀の目が12~14本/寸と粗く、他の3点の40本/寸と比較して、日本製と推測することも可能である。〈増田〉

## 4. 材質の劣化に関する研究

### (1) 厳島神社・高舞台の修復材料の検討

高舞台の漆塗り塗装の劣化速度を減少させるための塗装方法および材料の検討を行った。〈川野邊〉

### (2) 紫外線による人工劣化絹の開発

紫外線を用いて補絹用の絹を調整し、文化財修復材料としての評価を

行った。〈川野邊〉

(3) 装こう技術への酵素利用法の開発

装こうに用いられる糊の除去に酵素反応を応用し、処置後の酵素の除去および不活性化の手法の開発を行った。〈川野邊〉

5. 文化財修復技術

(1) 金属文化財の修復に関する研究

重要文化財和歌山市大谷古墳出土金属製品等の修復処置を実施した。大谷古墳出土の遺物については、馬面や馬甲などの馬具を中心にして修復を行った。とくに馬甲の詳細な記録を作成しているので、それをもとに考古学的な考察を行い模造製作等を試みる予定である。プラズマ処理に関しては象眼遺物のクリーニングに応用するために佐賀県出土円頭柄頭など数点の処理を行った。〈青木〉

(2) 出土木製品の修復に関する研究

従来の真空凍結乾燥法では、乾燥後に細かな亀裂が発生するなど、保存処置上問題があった。これらの問題を改良する研究を行ってきたが、実験の結果、乾燥庫内の湿度を調節することで亀裂発生を改良可能なことが分かったので、乾燥庫内の湿度調整ができる真空凍結乾燥機を製作した。予備実験として未処理の遺物を湿度約60%に調節した乾燥庫内で真空凍結乾燥処理を行った。その結果は、通常の水浸木材では、亀裂の減少で満足すべきものであったが、今後、乾燥条件や含浸剤の検討を行い、当初からの目的である漆製品への応用に向けて実験を進めていく予定である。〈青木〉

(3) 石造文化財の修復に関する研究

昨年度よりレーザーによる石材表面の汚染物質のクリーニング実験を行っている。今年度はレーザー照射機器の導入に伴う、被クリーニング材である汚染物質などの分光特性や発振レーザーの強度等の検討を行った。〈青木〉

(4) 遺跡・遺構の保存修復および復元に関する研究

史跡千葉市加曽利貝塚には貝層断面が覆屋の中で保存展示されている。この貝層断面の保存処理後約30年程の経過による樹脂の劣化などで、

## 修復技術部

混土貝層やローム層が崩壊してきたため、ポリシロキサン樹脂による含浸強化試験を行った。〈青木〉

### 6. 調査指導

#### (1) 木質建造物の塗装調査と復元

松山市指定文化財釣島灯台官舎の木目塗りの技法と材質の調査を行った。木目塗りを覆っている塗装膜の剝離方法に関する指導を行った。(川野邊)

### 7. 受託研究

#### (1) 重要文化財正法寺惣門彩色復元の調査研究

重要文化財正法寺惣門の彩色は劣化が激しく、修理の際して復原彩色を行うこととなった。本研究では、復元彩色に必要な情報を得るために、図像復原と使用顔料の分析調査を行った。

図像復原は、斜光ライトとデジタルカメラを使用して彩色の痕跡を画像処理して復原した。顔料調査は、採取したサンプルを微量X線回折による鉱物同定を行い、走査型電子顕微鏡・X線マイクロアナライザーにより元素分析を行った。その結果、全体の顔料の変質が激しいことと、胡粉の石膏への変質が確認された。

#### (2) 太宰府市観世音寺1丁目地内出土の漆手箱復原に関する研究

太宰府大字観音寺内出土の漆箱復元に関する研究(3年計画の3年次) 詳細な発掘と断片保存を行いながら、漆箱復元のための調査を継続している。折重なった断片が複雑に堆積しており、発掘には予想以上に時間を費やしている。

#### (3) 装こう材料の生化学的研究

保存科学部との共同研究

#### (4) 重要文化財「旧札幌農学校演武場(時計台)」塗装の研究調査

建築各部の塗装サンプルを採取し、断面サンプルを作成して、光学顕微鏡、走査型電子顕微鏡、EPMA、レーザ顕微鏡などを用いて、各塗膜の構造、顔料、分散材などの同定を行った。

## 6. 情報資料部

### (1) 概 要

情報資料部は、従来美術部資料室の行ってきた美術に関する研究資料の作成、収集、整理、保管、閲覧等の業務を充実発展させ、さらに当研究所各部所掌の研究資料に関する情報の統合化をはかることを目的とする。

当部所管の諸資料は美術部創設以来内外の研究者の利用に供され、文化財に関する研究資料センターの役割を果たしている。この機能をより充実させ、学術情報の増加と多様化に対応した所蔵研究資料の効果的利用を図るため、データの共有化を中心とする美術情報処理システムの研究、画像処理技術の応用、文献データベースの開発などを行っている。

当部研究員は、上記業務を行うとともに日本・東洋美術史各分野で研究活動を行っている。調査研究活動の成果は「美術研究」ほか学会誌、美術部と共催の公開学術講座等で発表されている。

当部は、文献資料研究室と写真資料研究室の二室をもって構成される。

#### 文献資料研究室

美術史関係を中心とした図書・雑誌、調査研究活動によって収集された各種研究資料の整理・保管・閲覧を行っている。また、日本・東洋古美術関係の文献目録の作成とともに文献データベースの開発を行っている。各年分の文献目録は『日本美術年鑑』に掲載し、一定期間ごとに総合・増補し『日本・東洋古美術文献目録』として刊行している。現在、昭和41年～60年分について編纂作業をすすめている。

#### 写真資料研究室

研究用写真資料の作成、収集、整理、保管、閲覧を行うとともに、各研究者の調査研究活動に協力して研究資料を撮影し、資料の充実につとめている。また、これに併行して、美術史研究へのデジタル画像処理技術の応用及び、

情報資料部

美術研究所創立以来蓄積してきた写真原板のデータベース化に関する研究を行っている。

## (2) 各 論

### 1. 美術情報処理システムの研究—データの共有化を中心として—(10年計画の第7年次)

#### (1) 共有データの生産・蓄積

##### 1) 文献・図書データ

定期刊行物所載文献・所蔵図書データの inputs を継続するとともに、『東洋美術文献目録』(明治～昭和10年, 約30,000件), 『日本東洋古美術文献目録』(昭和11年～40年, 約36,000件) をデータ入力した。

##### 2) 美術史研究資料

『日本美術年鑑』のデータ化を開始し, 5年間分(平成2～6年度版) を入力した。

##### 3) 画像データ

デジタル画像約3500件を入力した。

写真資料関連文字データの inputs を継続した。

#### (2) パイロットシステムの構築

##### 1) 定期刊行物所載文献データベース及び所蔵図書データベース検索システムの運用・評価

日常的に順調に稼働中。

##### 2) 画像データベース構築のための基礎実験

プロフォト CD マスターを試作し, 画質, 容量等について諸条件を検討した。

##### 3) ローカルエリアネットワークシステムの整備・運用・評価

ソフトウェアを TCP-IP 対応版へ変更し, システムの高度化を図った。

##### 4) 検索辞書システムの研究

基礎的な諸条件について調査・検討した。

(3) 「共有化」環境の検討

1) 「共有化」環境をめぐる諸問題についての研究会の開催

特別研究「有形・無形文化財データベースシステムの構築に関する研究」の一環として、関連する研究分野の研究者6名を招聘し、協議を行った。招聘者は以下の通り。

1. 張 洋一 (堺市博物館)
2. 加藤哲宏 (大阪芸術短期大学)
3. 成澤勝嗣 (神戸市立博物館)
4. 藤田伸也 (大和文華館)
5. 林知佐子 (西尾市立岩瀬文庫)
6. 松原龍一 (京都国立近代美術館)

2) 文化庁を中心とする文化財情報ネットワークシステムへの対応

平成7年度第一次・第二次補正予算により、急速、本年度中に、文化庁を中心とする文化財情報ネットワークシステムが整備されることとなり、所内の協議で再確認された方針に基づいて仕様書を策定し、所内全体のLANシステムを実現した。また学術情報センター間に専用回線を敷設し、SINETを利用して外部ネットワーク(インターネット)へ接続した。各年の概要に基づいて作成したホームページは、平成8年度より開設することになった。

3) オフラインによるデータ共有システムの拡充

「共有化」環境をめぐる研究会の開催のほか、当部の作成したデータベースについて、その運用評価を各モニター機関に依頼した。

4) オンラインデータ通信の有効利用

学術情報センター・国文学研究資料館の雑誌記事索引データベースを利用し、将来のデータベース公開に向けた諸条件を検討した。

2. 美術史研究における語彙の研究 (5年計画の第2年次)

(1) 語彙の収集

継続的に作成している定期刊行物所載文献データにはキーワードの入力がなされており、当データファイルからの語彙収集は本年度も進められた。

(2) データ記述の問題

本年は語彙特性分析への準備の一環として、データ記述の問題に焦点

をあてた。中でも特に画像におけるデータ記述の問題に注目した。近年画像データの蓄積利用環境は著しく改善されており、画像データベースはさまざまな場所で実現されつつある。しかし大量の画像データの蓄積は、同時にそれを有効に利用するための検索システムを要求する。それは文字を中心としたデータベースとはやや様相を異にするとはいうものの、本研究で対象とする画像は名前をはじめとする文字属性をふらさげているのが通例であるし、当座は文字データに依存したデータ記述をおこなわなければならない。

画像の記述についての研究は西洋美術の領域ではかなり早くから着手されているようである。これまでの研究をかえりみると、「客観的」な記述はいかにしたら可能かという問題をめぐっているようにみうけられる。その方法をめぐる議論の落とし穴は歴史的、あるいは異文化から生産された画像に対して「今、現在の常識」がいかに有効かという問いかけを欠いているところにある。この周辺の話題については情報処理学会で報告した（『情報処理学会研究報告』95-CH-28 1995.11）が、当面はすでに記述されたものの全文データを蓄積するのみひとつの方法であろう。

### (3) 語彙の特性分析への準備

- 1) 昨年度と本年度の検討を通じて、分野を限ったデータベース（たとえば江戸時代以前の絵画史、彫刻史研究文献）を対象とした検索語彙辞書を作成することは比較的容易であろうという見通しは得られたが、本年は語彙の大幅な広がりが見込まれる近代現代美術を対象とした語彙の収集をおこなった。
- 2) すでに収集した古美術関連語彙の一部にその属性を付すデータファイルや、限定された分野における語彙インデックスを作成し、語彙分類への準備を整えた。

## 3. デジタル画像データの蓄積と活用に関する基礎的研究（5年計画の第2年次）

### (1) アナログ画像データ（デジタル画像データ）

科学研究費データベース刊行費による「有形文化財データベース」（代

表者：東京国立博物館・高見沢明雄)により、前年度に引き続き、所蔵ガラス原板のうちキャビネ判1328カットを、また今年度新たに手札判515カットを入力した。ただし前年度までのアナログ方式のレーザーディスクを改め、今年度よりデジタル方式のCD-ROMを記録媒体に用いた。なお各画像は解像度300dpi、TIFF形式のファイルとした。

(2) デジタル画像の記憶媒体

美術部第2研究室所蔵の黒田清輝作品を撮影した4×5カラーポジフィルム20点および情報資料部所蔵原板の同じく4×5カラーポジフィルム20点の計40カットを原稿とし、実験用のプロフォトCDマスターを試作した。

試作したCDの画質等を検討した結果、おおむね良好なデータを得たため、これに引き続き、美術部第2研究室所蔵の黒田清輝油彩画4×5カラーポジ139カット、同スケッチブック4×5モノクロフィルム180カットおよび情報資料部所蔵原板4×5カラーポジ1175カットよりプロフォトCDマスターを作成した。

ただし、経年変化によって褪色したカラーポジフィルムを原稿とする場合の修正処理などに問題を残した。また将来の画像データベースへの具体的な対処の方法についても課題を残している。

(3) ハード、ソフト・ウェア

現有の汎用コンピュータ(マッキントッシュ・クワドラ900)に133MBのメモリを搭載し、実験作業の効率を上げることができた。また、本年度は128MBのメモリを増設した汎用機(パワー・マッキントッシュ9500)に加え、接続機器としてフィルムなどの透過原稿の入力ができるイメージ・スキャナ、35ミリ用フィルム・スキャナ、フィルム・レコーダ(35ミリ用)などの導入をはかったので、デジタル画像の幅広い活用をめざした各種の実験が可能になった。

4. 日本武装史研究

刀剣・甲冑・馬具・弓箭具などの武装研究は、有職故実と作品研究が別々に行われているが、これを作品・故実・文献資料をあわせて行うものである。本年は、愛知県・猿投神社所蔵の武器武具類の調査、岩手県・中尊寺



所蔵・藤原三代関係資料の内の武器類について、調査研究を行うと共に、絵画資料を収集した。今後も資料収集につとめる。(廣井)

## 5. 古代仏教彫刻史研究

平安時代初期木彫像研究を継続し、東寺講堂諸像、薬師寺八幡三神像、奈良博葉師如来坐像、東博葉師如来坐像等の作品調査、及び関連資料の収集を通して、八・九世紀に彫像が獲得し始める特殊な障礙神信仰について考察を加えた。

また、中国における関連作品研究の一環として、陝西省北部及び西部の唐・宋時代の石窟を調査した。(長岡)

## 6. 鎌倉時代絵画史の研究

- 1) 神護寺三画像についての試論発表(『源頼朝像—沈黙の肖像画』1995.3)後の補完的調査を行った。長勝寺(茨城県)蔵「源頼朝像」ならびに聖福寺(福岡県)蔵「源頼朝像」はともに元禄時代の画像で、前者は頼朝遠忌に神護寺画像の模写、後者は寺院復興事業を期に制作されたもので、神護寺とはまったく関わりぬ画像である。両者ともに狩野派の画家の手になる。これらの作品は江戸時代前期、寺院復興期における、草創期の檀那の記憶の浮上を背景に持つ。絵画における主題浮上の文脈が形成されるモデルとして格好の事例である。
- 2) 人の像と神の像の間において、かならずしも肖像画の中心的な話題とならなかった主題ではあるが、仏や神や人の画像形成上重要な問題をかかえているものがある。本年はそれらの中から「藤原鎌足像」の調査を開始した。
- 3) 伝記絵は人の物語の形成の場や物語を必要とする社会集団のかたちの枠組みを考察する上で重要な資料である。本研究では、画像奉懸の儀礼と像主の物語形成の関わりへの関心から伝記絵を検討している。本年はこれまで継続している法然の伝記絵の延長で仏光寺(京都)蔵親鸞聖人伝絵の調査を行った。
- 4) これら調査でえられた資料のデータベース化を行った。(米倉)

## 7. 請来仏画研究

日本に請来された宋元仏画に関係する仏教信仰と制作の場を考えるため

に中国浙江省の仏教史蹟を訪れ、その現況を確認した(9月)。主たる訪問地は、蘇州、杭州、徑山、天目山、紹興、天台山、寧波、普陀山等である。とりわけ寧波市内の旧寧波府城内の東南にあたる地域では、石板巷など寧波仏画の款記にみえる地名が残る旧市街が、近年の再開発で急速に失われつつある状況であった。また佐賀県萬歳寺所蔵の見心來復像の贊文にみえる定水寺の所在を、慈溪市解家村に確認した。(井手)

## 8. 中国における石窟美術の研究

中国河南省にみられる阿弥陀浄土変相の図像を中心に研究をすすめてきた。

河南省の小南海石窟について、近年行ってきたフィールドワークの成果をもとに、初期九品往生図の展開や三仏造像の構成という点から考察を行った。その研究成果の一部は、学会での口頭発表や雑誌への論文掲載の形で公表するまでになっている。

さらに日中共同研究「敦煌文化財の保存修復に関する調査研究」の一環として、修復研究に向けた敦煌壁画の調査を行った。それと並行し、初唐・盛唐期の敦煌における阿弥陀浄土変相や觀經變相を対照にフィールドワークを行った。とくに敦煌莫高窟第431窟・第215窟など、来迎引接式九品往生図の壁画を有する窟についても調査を行うことができた。それらに対する図像学的研究が今日の課題である。(勝木)

## 7. 国際文化財保存修復協力センター

### (1) 概要

文化財は人類共通の遺産であり、国家、民族を越えて、その保存・修復に当たらなければならず、そのためには国際協力が不可欠である。国際文化財保存修復協力センターは、世界の文化財の保存・修復に関する国際的な研究交流、保存修復事業への協力、専門家の養成、情報の収集と活用等を実施し、文化財保護における国際的な責務を果たすことを目的として、平成7年4月に従来の国際文化財保存修復協力室を拡充し発足した。現在、センターでは

## 国際文化財保存修復協力センター

世界各国、各地域の文化財とその保存に関する資料の収集、整理、データベースの作成を行っており、また、国際共同研究、国際会議・セミナーの企画、実行や諸外国の専門家の研修に関する仕事を行っている。さらに、基礎研究として、屋外の石造および木造文化財の劣化と保存処置に関する研究等を行っている。

## 企画室

国際協力事業の企画、運営、諸外国、関係機関との連絡、調整等の事務を行っている。

## 環境解析研究指導室

世界の文化財の保存、修復に関する調査研究を行い、また、国際協力事業の技術的内容についての調査、指導を行っている。

## (2) 各 論

### 1. 世界、特にアジア諸国における文化財保存に関する情報の収集(中長期：10年計画 第5年次)

#### (1) 文化財の劣化状態および保存対策についての調査

- 1) カンボジアのアンコール遺跡、タイのクメール遺跡群等の保存修復事業における現状と問題点について研究協議会を行い、意見交換を行うと同時に情報収集を行った。〈西浦・松本・朽津〉
- 2) 国内・外で開かれた国際的な会議、講演会、研究会等に参加し、多くの情報を得た。〈西浦・松本・朽津〉

#### (2) 組織、機構、プロジェクト等についての調査

- 1) 東京国立文化財研究所を訪れた諸外国の文化財保存関係者から個別に各国の状況を聞き取り、資料とした。〈西浦・松本・朽津〉
- 2) 海外で行われている国際的な研修事業における教育カリキュラムの調査を行っている。〈松本〉
- 3) 国内・外で開かれた国際的な会議、講演会、研究会等に参加し、多

くの情報を得た。〈西浦・松本・朽津〉

- 4) ユネスコ(世界遺産センター)、イクロムを訪れ、事業内容と現状の問題点、今後の協力関係等についての調査と協議を行った。〈松本〉

(3) 保存担当者リストの作成

- 1) 世界、特にアジア諸国の文化財保存担当者の国別リストを作成すべく、情報の収集に努めている。この場合、単に人名を網羅するものでなく、実際に役立つ内容のあるリストにすべく、データベース化を開始した。〈西浦・松本〉
- 2) 国内の文化財保存に関わる機関及び人材のリストを作成している。この場合も単なるリストでなく、利用価値の高いデータベースとするために、その整理方法等を検討中である。〈西浦・松本〉
- 3) 国内の機関、研究者の海外協力事業についての調査を開始した。将来出版物として定期的に情報を公開する予定である。〈西浦・松本〉

2. 屋外石造文化財の劣化と保存修復処置に関する研究(中長期:10年計画第5年次)

(1) 洞窟、磨崖仏等の劣化現象と保存対策に関する調査研究

- 1) 福島県小高町、史跡・薬師堂石仏の劣化状態を定期的に調査しており、大屋根架設後の岩体の乾燥に伴う状態変化について、保存処置方を踏まえつつ、調査を継続している。〈西浦・朽津〉
- 2) 中国・敦煌莫高窟における壁画の塩類風化の進行速度を見積もるために、洞窟内外での蒸発量の計測を行った。その結果、通常状態における壁画表面からの蒸発は計測困難なほど小さく、従って塩類風化は、通常的环境下では殆ど進まず、大雨のような例外的な状況の下で一気に進行することが推定された。こうした点を考慮した保存対策が望まれる。〈朽津〉
- 3) 埼玉県・吉見百穴において、壁面の塩類風化のメカニズムとその速度を解明する目的で、蒸発量の計測と析出塩類の分析を行った。現在、データを評価中である。〈朽津〉
- 4) 北海道のフゴッベ洞窟において、壁面の劣化状況を調査し、その結果の解析を進めている。〈朽津〉

- 5) 神奈川県、重文・元箱根石仏群の保存修復について、材料の選択や処理方法の検討等を継続して行っている。〈西浦〉
  - (2) 石材の劣化現象についての岩石学、鉱物学的調査研究
    - 1) 犬山市・明治村内の石造文化財に用いられている石材の脆弱化した部分の試料について、偏光顕微鏡等によって劣化状況の観察を進めている。〈朽津〉
    - 2) ドイツ・レーゲンスブルク大聖堂の建築に砂岩と石灰岩の2種の石材が用いられ、砂岩が著しく風触を受けている状況を観察し、修復方法について検討した。〈朽津〉
  - (3) 石材の保存材料に関する調査研究
    - 1) 石材の強化および撥水処理に用いられる代表的なシリコーン樹脂について、その物性を比較検討するための実験を行っている。凝灰岩、砂岩、安山岩試験片を用いた浸透性測定、石粒を用いた強化力評価実験、処理石材の水蒸気透過性試験を行っており、特に、ヨーロッパで広く用いられているエチルシリケート系強化剤である Wacker OH と日本で多く用いられているメチルトリエトキシシラン系撥水強化剤である SS-101 との比較を行っている。本年度は特に、これらシリコーン樹脂の硬化過程（重縮合反応）について FT-IR による解析を行い、完全硬化にはかなりの期間を要することが確認された。〈西浦〉
  - (4) 屋外石造文化財の環境と劣化に関する研究
    - 1) 大分県の石造文化財調査に顧問として参加し、調査マニュアルの作成を行い、調査方法についての指導を行った。〈西浦〉
    - 2) タイ国東北部のクメール石造遺跡の劣化現象についての調査を行っており、特にバノム・ルン遺跡においては、無電源長期環境計測システムを設置し、測定を行っている。〈西浦〉
3. 文化財の保存を目的としたレンガの劣化現象と保存対策に関する調査研究（中長期：5年計画 第2年次）
- (1) 国内における調査
    - 1) 函館市の伝統的建造物群保存地区にある金森倉庫群、ベイ函館、旧北海道庁函館支庁書籍庫等のレンガ造建造物において、それぞれレン

ガの劣化状況を観察した。各建物では、塩類の析出によるレンガ表面の劣化が目立ったものの、海岸に近い金森倉庫群、ベイ函館と、やや海岸から離れている旧北海道庁函館支庁書籍庫とでは、析出塩も劣化状況も異なっており、レンガの劣化に対して海水が密接に関係していることが判明した。〈朽津〉

- 2) 関東近郊に残るレンガ造建造物におけるレンガの劣化状況について観察を行い、採取した試料の分析を現在進めている。〈朽津〉
- 3) 大山市明治村にあるレンガ造建造物におけるレンガの劣化状況について、現地事務所と連絡を取りながら観察を続けている。〈朽津〉

## (2) 国外における調査

- 1) タイ国の代表的なレンガ造遺跡であるスコータイ遺跡、アユタヤ遺跡において、レンガの劣化現象についての詳細な調査を行った。また、両遺跡に無電源長期環境（大気温度、大気湿度、日照強度、雨量、レンガ表面温度、レンガ内部温度）計測システムを設置し、測定を行っている。〈西浦・朽津〉

## (3) 実験的研究

- 1) タイ国の代表的なレンガ造遺跡であるスコータイ遺跡において、レンガの劣化原因の大きなものの一つとなっている塩類の析出の問題を考察する目的で、同遺跡に用いられていたオリジナルの修復用のモルタルと蒸留水とを反応させて乾燥させる実験を行った。その結果、修復用のモルタルの場合にのみ顕著な塩類の析出が観察されたことから、この場合には、修復用のモルタル中の成分が、レンガの塩類風化を促進させている可能性が考えられる。〈朽津〉

## 4. その他

### (1) 顔料分析など

- 1) 松戸市立博物館蔵の板絵に見られた鉛白の変色と、それに対する修復処置に伴う顔料鉱物の変質について、微小部X線回折を用いて観察を行った。これにより、鉛白が硫化鉛に変質することによる黒色化のメカニズムは解明されたが、修復処置に伴う再白色については未だ解明されておらず、今後の課題として残されている。〈朽津〉

- 2) 水沢市・正法寺惣門の彩色壁画の顔料を分析し、現在は変色していると考えられるものについても、使われた当初の顔料と色を推定した。壁画の修復に際し、この分析結果が尊重される予定である。〈朽津〉
  - 3) 島根県・神原神社古墳に用いられた赤色顔料を、X線回折によって分析した。その結果、竪穴式石室内部には朱が用いられていたのに対して、石室外の埋納坑内の土器には、多量のベンガラが保有されていたことが判明した。この事実から、今後古代における赤色顔料の使い分けに関する議論が発展することが期待される。〈朽津〉
  - 4) 函館空港遺跡出土の土器片に付着していた顔料を、EPMA分析した結果、ベンガラであることが判明した。これは、これまでに科学的に確認されたベンガラの使用例の中で、かなり古い例に当たると考えられる。〈朽津〉
- (2) 考古試料の分析
- 1) 島根県・荒神谷遺跡において、銅剣の状面を覆っていた黒色土の粒土分析を行った結果、この部分では、周辺の土壌とは全く異なる細粒の粘土が用いられていることが判明した。つまり、銅剣の直上層は、別の場所から持ち込まれた粘土ということになる。〈朽津〉
- (3) 古代を中心としたアジア各国の研究意匠の比較研究
- 1) 装飾的な斗拱やいわゆる「チャイティア窓」と呼ばれるような、アジアに広く普遍性を持った意匠の源流と伝播の可能性について検討している。〈松本〉
- (4) 遺跡建造物の復原のあり方についての調査
- 1) 文化財の保存と活用における復原の問題はオーセンティシティに関わる重要な問題である。文化のバックグラウンドの異なる国々との国際協力を行うについては、十分な調査と理解が必要であり、実際の事例資料を収集している。〈宮本・松本〉
- (5) 史跡、建造物の保存整備事業についての指導、助言
- 1) 下記の国指定史跡保存整備事業についての指導、助言の実施〈宮本〉
    - ・三内丸山遺跡（青森県、建設省）
    - ・下野薬師寺跡（栃木県南部町）

- ・中高瀬観音山遺跡（群馬県富岡市）
  - ・松本城（長野県松本市）
  - ・平塚川添遺跡（福岡県甘木市）
  - ・吉武高木遺跡（福岡県福岡市）
  - ・吉野ヶ里遺跡（佐賀県，建設省）
- 2) 岡山県津山市および大阪府富田林市の伝統的建造物群保存整備事業についての指導，助言の実施〈松本〉
- (6) 発掘調査についての指導，助言
- 1) 下記の国指定史跡の発掘調査についての指導，助言の実施〈宮本〉
- ・北野遺跡－和泉 A 遺跡（新潟県）
  - ・池上曾根遺跡（大阪府）
  - ・原の辻遺跡（長崎県）
  - ・吉田－新宿古墳群（栃木県小川町）
  - ・来住廃寺跡（愛媛県）

## 8. 国際調査研究

### (1) 敦煌文化財保存修復に関する調査研究（中長期：10年計画 第5年次）

#### (1) 環境研究班

- 1) 長いスパンでの敦煌莫高窟の保存環境について考察するために，地球規模での長期の環境変動について，種々のデータから解析したところ，中国中央部においては，AD1200以降は気温変動が他の地域に比べて小さく，遺跡保存の点で有利であったと考察された。
- 2) 第194，53，258窟に設置した環境計測機器により，外気温度，外気湿度，日照強度，風速，洞窟内各部位の温度と湿度，岩体内温度と湿度等を測定している。本年度も継続して計測しており，回収したデータの解析を行った。
- 3) 敦煌周辺の水の分析調査，特にイオウの起源を探る分析調査を行って



## 国際調査研究

いる。

- 4) 洞窟内外の粉塵量の調査を行った。特に開放窟における見学者の出入りに伴う変化について測定し、現在解析中である。未だ充分なデータは得られていないが、今後中国側でデータの集積がなされる予定である。

### (2) 病害研究班

- 1) 壁画の塩類風化の進行速度を見積もるために、洞窟内外での蒸発量の計測を行った。その結果、通常状態における壁画表面からの蒸発は計測困難なほど小さく、従って塩類風化は、通常的环境下では殆ど進まず、大雨のような例外的な状況の下で一気に進行することが推定された。
- 2) 第194窟における大規模な壁画の崩落と塩類の析出が、いつどの様な状況で起きたかについて、文献等から調査したところ、1908年ペリオによって撮影された第194窟内部の状態と現在の状態とがほぼ同じであることが判った。このことから、現在の第194窟の劣化は、1908年以前の極めて例外的な大雨によるものではないかと考察された。

### (3) 修復材料研究班

- 1) 第53窟の壁画の斜光写真撮影を終え、図化を行う予定である。
- 2) 洞窟内壁画の写真撮影を簡便かつ精巧に行うための撮影装置を開発し、試作した。現在最終的な改良を行っているところである。
- 3) 第258窟の煙燻壁画のクリーニングを行うに当たって、レーザーガンによるクリーニング方法について、試験片を使った実験を行った。実際に現場で応用できるかどうか、今後検討していく。
- 4) 壁画修復用擬土について、特にその透気性、透水性について、実験室での測定を行った。

### (4) 国際研究集会

「敦煌莫高窟保存国際シンポジウム」を開催し、研究報告と討議を行って、莫高窟保存の課題と展望について考察した。

### (5) 研修事業

敦煌研究院から2名の研究者を招へいし、壁画の修復材料、技法についての研修を行った。

## (2) スミソニアン研究機構との国際研究交流

今年度は「科学技術を利用した文化財研究手法の開発の総括」という科学研究費のテーマの下で、特にベトナム出土の陶磁器について研究を行った。日本側から3月に青柳洋治(上智大学)が訪米し、フリヤ・サックラー美術館の所蔵する陶磁器の調査を行い、アメリカ側からは2月にパメラ・バンディバー(保存分析研究所)が来日して、研究成果の交流を行った。

## (3) タイ国レンガ造遺跡の劣化現象と保存処置に関する調査研究

科学研究費国際学術研究海外学術調査により、本年度から3ヶ月計画で調査研究を開始した。本年度は7月と12月にタイ国を訪れ、タイ国内のレンガ造遺跡の調査を行い、代表的な遺跡であるアユタヤおよびスコタイに環境計測システムを設置した。3月にタイ側研究者2名を招へいし、調査研究結果と今後の研究計画についての協議を行った。

## (4) 文化財保護に関する日独学術交流

平成5年度から科学研究費により「漆・ニスなど伝統的天然樹脂塗膜の劣化と保存に関する研究」の共同研究を行い、今年度が最終年度である。6月に川野邊渉が訪独して漆試料の分析に関する共同研究を行い、7月に三浦定俊と加藤寛(東京国立博物館)が訪独してドイツ国内の漆工品および関連資料についての調査を行った。2月には歴史民俗博物館の日高薫が訪独し、15-16世紀の南蛮貿易資料の収集にあたった。また11月にドイツ側からベルンハルト・ドール(連邦政府)、ミハエル・キューレントール(バイエルン州立文化財研究所)、ジークフリート・エンデルス(ヘッセン州文化財局)の3氏が来日して、岐阜、石川、沖縄などにおいて漆工芸品の調査を行うとともに、関係者と研究協議を行った。この他、建造物保護分野での共同研究に関する打ち合わせを行った。

## (5) シリア、アインダーラ神殿遺跡の保存修復

アインダーラ神殿遺跡は BC10世紀に遡る古代オリエントの重要な遺跡で、1956年と1976年に発掘が行われた。この遺跡を特徴づけるのは玄武岩に彫られたスフィンクス及びライオン像のレリーフである。これらは発掘直後から損傷が著しく、早急な保存修復処置が必要とされていた。そこで昨年度より5年計画で、住友財団の助成を受け、シリア考古総局との共同で、保存修復事業を行っている。日本側研究者及び技術者が4月、10月、12月に現地を訪れ、石彫レリーフのクラックへの樹脂注入充填処置、足跡石の強化防水処置、床石の嵩上げ処置等を行った。秋には1ヶ月間シリアから研修生を招へし、保存修復の基本技術を習得させた。

## (6) 文化財の保存修復技術に関する国際共同研究—文化財の保存修復に用いられる新材料〈1〉合成樹脂—（中長期：9年計画 第2年次）

本研究は文化財の保存修復に用いられる新材料についてのタイ国及びベルギー国との国際共同研究である。本年度はその第2年次であり、合成樹脂について、タイ国立博物館との共同研究を継続するとともに、本年度よりベルギー王立文化財研究所との共同研究を開始した。

### (1) 建造物等屋外文化財の保存修復に用いられる合成樹脂に関する調査研究

- 1) タイ国において建造物、遺跡等屋外の文化財の保存、修復に用いられている合成樹脂についての調査を、タイ国政府芸術局考古部と共同で行った。特に東北部のクメール遺跡、及びアユタヤ遺跡での調査を石材及びレンガの保存対策と絡めて調査研究を進めている。
- 2) ベルギー王立文化財研究所を訪れ、石造建造物の保存、修復に用いられている合成樹脂について、その現状と問題点、さらには、物性評価法の標準化についての研究協議を行い、具体的な共同研究の進め方について協議した。併せて、イクロムを訪れ、石造文化財保存修復用

合成樹脂についての情報を収集した。

(2) 美術工芸品等屋内文化財の保存修復に用いられる合成樹脂に関する調査研究

- 1) タイ国等東南アジアで、美術工芸品、考古遺物、民俗資料、古文書等、博物館、美術館の収蔵品を中心とした、屋内に保存されている文化財の保存、修復に用いられている合成樹脂についての調査をタイ国立博物館保存部と共同で行った。東南アジアでは天然樹脂もかなり用いられており、合成樹脂との使い分けや、その根拠などについても調査を行っている。
  - 2) 大英博物館保存部を訪れ、大英博物館で行われている修復作業に用いられている合成樹脂について、また、それらの物性評価方法についての研究協議を行った。併せて、ロンドン大学考古研究所を訪れ、保存修復用合成樹脂についての情報収集を行った。
- (3) 各種合成樹脂の物性等に関する研究
- 1) ベルギー王立文化財研究所の研究者を日本に招へいし、壁画修復用合成樹脂の物性についての研究協議を行った。
  - 2) 実験的研究として、木造古建築の外装塗装としての丹塗りへの合成樹脂の応用について、その耐久性の面からの評価実験を行っている。

(7) 海外所在日本美術品調査

当研究所では、昭和63年以来、欧米所在の明治時代以前の日本美術作品に関する基礎データの収集に努めてきた。平成2年度より、文化財保存修復学会（旧古文化財科学研究会）が日本芸術文化振興会から助成を得て「海外所在の日本文化財を対象とする調査研究」を行うことになり、当研究所がその委嘱を受けて調査研究を担当した。平成2年度のメトロポリタン美術館、3年度のパーク・コレクション、パーク・ファウンデーション、4年度のフィラデルフィア美術館、5年度のプライス・コレクション、6年度のサンフランシスコ・アジア美術館の調査に引き続き、7年度はブルックリン美術館の予備調査を行った。

主要研究業績

9. 主要研究業績

- ①：著書・編書 ②：論文 ③：解説 ④：研究発表  
⑤：講演・放送 ⑥：その他 平成7.4～8.3

美術部

鶴田 武良（美術部長）

- ② 中国油画事始 「現代中国油画展」日中友好会館美術館 7. 4  
② 揚州八怪（講談社「水墨美術体系」十一巻の中文対訳）  
中国「当代美術家」総第8期 7. 6  
② 北京駅収蔵現代中国画にみる国画の移り変り  
「北京站秘蔵画展」東京ステーションギャラリー 7. 9  
② 万曆一乾隆間の西洋絵画の流入と洋風画  
「中国の洋風画展」町田市立国際版画美術館 7.10  
② 陶冷月について（補遺） 「美術研究」363 8. 1  
③ 中国美術館めぐり4 台北故旧博物院 「季刊水墨画」72 7. 4  
③ 『中国年鑑1995年版』文化・美術の項 中国研究所 7. 7  
④ 中国の前衛美術 所内総合研究会 7.12  
④ 在日本的現代中国絵画収蔵 虚白齋国際検討会 香港美術館 7.10  
④ 在日本的徐悲糧作品和徐悲糧旧蔵任伯年「九老図」  
北京・徐悲糧誕辰100年學術検討会 7. 6  
⑤ 中国の社会主義美術・1949-1985 日中友好会館 7. 6  
⑤ 張大千の芸術的生涯 松濤美術館 7. 5  
⑤ 中国美術—ポスト'89 日中友好会館 7. 5  
⑤ 現代中国美術の動向—社会主義美術から前衛美術へ—  
文字文化研究所第三十六回定例研究会  
⑥ 当代中国油画（郎紹君論文の日訳） 「現代中国油画展」  
日中友好会館美術館 7. 4

島尾 新 (主任研究官)

- ① 瓢鮎図—ひょうたんなまずのイコノロジー— 平凡社 7. 6
- ② 花鳥図屏風の図像学 「国華」1201 7.12
- ② ドキュメントとしての絵画—王羲之書扇図の画と詩—  
「美術研究」363 7.12
- ③ 伝土佐光信筆 花鳥図屏風 「国華」1201 7.12
- ④ 会所飾の問題空間  
—唐物を巡る「美術」システム— かがり研究会 7.12.23
- ④ 雪舟入門 雪舟サミット 岡山県吉井町 8.3.25
- ⑥ 日本美術の至宝「雪舟」 東京ハイビジョン 8. 3

田中 淳 (主任研究官)

- ① 明治の洋画 黒田清輝と白馬会 日本の美術351 至文堂 7. 1
- ③ 「男の顔」がわからないということ  
「男の顔展図録」 ギャラリー長谷川 7. 7
- ③ 十亀広太郎筆 顔 「美術研究」363 8. 1
- ④ 萬鉄五郎の自画像  
シンポジウム・萬鉄五郎の自画像 萬鉄五郎記念美術館 7. 5. 1
- ④ 後期印象派考 美術部・情報資料部研究会 7.12.13

山梨絵美子 (主任研究官)

- ① 高橋由一と明治前期の洋画 「日本の美術」349 至文堂 7. 6
- ③ 高橋由一「花魁」 毎日新聞「二枚の絵」 7. 8. 8
- ④ 「黒田清輝と東京美術学校の洋画教育」  
韓国美術史・美術教育学会シンポジウム 7. 6.10
- ④ 「日本画」概念の形成を巡って  
(日本画シンポジウム) 米国セントルイス美術館 7.11. 4, 5
- ④ 明治期における彫刻概念の確立と銅像彫刻  
連続シンポジウム<美術>—「彫刻の位置」東京日仏会館 8. 1.27
- ⑤ 日本近代洋画史概説 韓国弘益大学校 7. 6. 9

主要研究業績

- ⑤ 描かれた「海の幸・山の幸」—その主題の変遷  
ブリヂストン美術館土曜講座 7. 7. 8
- ⑥ 徳川慶喜「油絵を描く将軍」 NHK「日曜美術館」 7.10. 1
- ⑥ 今、日本画をどう見るか 世界の中の「日本画」 8. 1.24

岡田 健 (主任研究官)

- ③ 作品解説 (兜跋毘沙門天像, 五大虚空蔵菩薩像, 他)  
『東寺の歴史と美術 新東寶記』真言宗総本山東寺 7.11

中野 照男 (第一研究室長)

- ② クチャ地方の中国様式絵画 「美術研究」364 8. 3
- ③ 麦積山石窟, 雲岡石窟, 龍門石窟 「月刊しにか」70 大修館書店 8. 1
- ④ 西域クチャ地方の中国様式絵画  
美術部・情報資料部公開学術講座 7.11.25
- ⑤ 町の名の由来「十王」 茨城県多賀郡十王町 8. 3.26

三輪 英夫 (第二研究室長)

- ① 明治の渡欧画家 日本の美術350 7. 7
- ④ 黒田清輝一人と作品 米子市立美術館 8. 3. 3
- ⑥ 川村清雄研究 (共編) 中央公論美術出版社 6.11

芸 能 部

蒲生 郷昭 (芸能部長)

- ② 日本音楽中看到的中国影响 (王耀華訳)  
「比較音楽研究」総第11期 (福州) 8. 1  
「音楽研究」1996年第1期 (北京) 8. 3
- ② 長唄の鬼 「芸能の科学」24 8. 3
- ② 長唄正本研究152~163 (共同研究) 「邦楽と舞踊」538~549 7. 4~8. 3
- ④ 伝統芸能の鬼 夏期学術講座 7. 7
- ④ 日本音楽にみられる中国の投影

主要研究業績

- 中日音楽比較研究国際学会議, 中国福州市供鎖大厦 7.11. 8
- ⑤ 日本の語り物と三味線  
第26回東京国立文化財研究所芸能部公開学術講座 7.11.28
- ⑥ 東京国立文化財研究所芸能部公開学術講座 語り物の音楽  
「月刊文化財」385号 7.10
- 鎌倉 恵子 (演劇研究室長)
- ② 近松門左衛門の鬼—浄瑠璃の場合— 「芸能の科学」24 8. 3
- ② 演劇の隆盛 (古浄瑠璃)  
「岩波講座 日本文学史」第7巻岩波書店 8. 1
- ③ 歌舞伎に見る自然史1, 2, 3  
「国立科学博物館ニュース」 8. 1~8. 3
- ④ 伝統芸能の鬼 夏期学術講座 7. 7
- 細井 尚子 (演劇研究室)
- ② 「中国泉州提線木偶戯『目蓮戯』の『李世民遊地府』  
「芸能の科学」24 8. 3
- ⑤ 中国の語り物—歴史・種類・楽器—  
第26回東京国立文化財研究所芸能部公開学術講座 7.11.28
- ⑥ 川劇にみる化粧(8)(9) (翻訳/原文張中学) 「化粧文化」32, 33, 7. 5,11
- 羽田 昶 (音楽舞踊研究室長)
- ② 虚子と能—演者・評者・作者としての— 「俳句」4月号 7. 4
- ② 戦後五十年の能・狂言 『戦後日本の芸術文化史』(ぎょうせい) 7.12
- ③ 能の広がり 『能入門 淡交ムック』(淡交社) 7. 5
- ③ <祭祀空間と芸能空間>をめぐる  
「年刊 藝能」第2号 (藝能学会) 8. 3
- ④ 伝統芸能の鬼 夏期学術講座 7. 7
- ⑤ 能の作者について 金春円満井会公開講座 7. 8. 6
- ⑤ 新作・復曲の動き 法政大学能楽セミナー 7. 8.26



主要研究業績

- ⑥ 企画展示「新作能の流れ」監修 国立能楽堂 8.12  
 ⑥ 大蔵流・和泉流共演「宗論」監修 NHK 古典芸能鑑賞会 8. 2.29

高桑いづみ（音楽舞踊研究室）

- ② 鬼狂言と太鼓 「鍊仙」432 7. 4  
 ② 乱声の系譜 「芸能の科学」24 8. 3  
 ③ NHK 能楽鑑賞入門テキスト 日本放送出版協会 7. 4  
 ④ 伝統芸能の鬼 夏期学術講座 7. 7  
 ⑤ NHK 能楽鑑賞入門 NHK 教育テレビ 7. 4・8・12  
 ⑤ 能の音楽 梅若能楽学院公開講座 7. 6  
 ⑤ 能楽鑑賞講座 国立能楽堂公開講座 8. 1-3  
 ⑥ 一管「海道下り」の背景 国立能楽堂11月公演筋書 7.11

石井 倫子（音楽舞踊研究室）

- ② <小鍛冶>の「白頭」 片山九郎右衛門後援会会報58 7.10  
 ② 蹴鞠に関する一試論—能の身体との関わりから— 「芸能の科学」24 8. 3  
 ③ 鐘巻から道成寺へ NHK 日本の伝統芸能 7. 4  
 ③ 能の歴史とその変遷 NHK 日本の伝統芸能 7. 4

中村 茂子（民俗芸能研究室長）

- ② 民俗行事・民俗芸能に見る鬼の形態 「芸能の科学」24 8. 3  
 ③ 東京の舞台で見られる民俗芸能 「音楽鑑賞教育」320 7. 9  
 ③ 民俗芸能の鬼と天狗 第14回「蝸牛の会」 7. 9  
 ③ 江戸大神楽—歴史と現状— 国立劇場第13回特別企画公演「江戸木遣りと大神楽」 8. 1  
 ③ 花祭りを支える人々 「音楽鑑賞教育」324 8. 1  
 ④ 伝統芸能の鬼 夏期学術講座 7. 7  
 ⑤ 山名神社に伝承される祇園祭の芸能 静岡県周智郡森町文化会館ミキホール 7. 4

山本 宏子 (民俗芸能研究室)

- ② 「河童の民俗芸能 (続)」 『芸能の科学』 24 8. 3
- ④ 「バリ島のやし酒の歌とその背景」 日本民族学会 7. 6
- ④ 「神戸の雨乞歌にみる水管理・環境保全とメンタリティーの関係」  
東洋音楽学会 7.10
- ④ 「沖縄の太鼓とその周辺」 民俗芸能学会 7.10
- ④ シンポジウム「フィールド・ワーク論」  
インド音楽研究会・東京芸術大学民族音楽ゼミ主催 7.11
- ④ 「福建省の人形劇」 東京芸術大学民族音楽ゼミ 8. 2
- ⑤ 「SOYA さかい」 番組解説 NHK 大阪 7.10
- ⑤ 「沖縄の人々と弦楽器」 那覇市主催『弦と歌う』 8. 2
- ⑥ 「沖縄のエイサーの太鼓」 『たいころじい』 11巻 7. 4
- ⑥ 「伝統音楽文化の厚み—福建省泉州と沖縄県読谷」  
『人と芸能』 2号 7. 7
- ⑥ 「バリ島トゥンガナン村ガムラン・スロンディンの神聖」  
『東洋音楽研究』 60号 7. 8
- ⑥ 「サモアの舞踊とリズム楽器」 『たいころじい』 12巻 7. 8
- ⑥ 「バリ島のわらべ歌を追いかけて・その10」  
『スラット・バリ』 25号 7.12

保存科学部

三浦 定俊

- ① エミシオグラフィー『考古資料分析法 (考古学ライブラリー65)』  
田口・斎藤編, pp.10-11, 7.10
- ① 「残差画像予測法」『同上』 同上, pp.12-13, 7.10
- ① 「文化財保存修復学会の沿革」『よみがえる文化財—芸術と科学の接点』  
文化財保存修復学会編, pp.7-19, 7.10
- ② 化学的・光学的情報を用いた遺跡探査の手法に関する研究 (共著: 川野邊・佐野・中條・中浜・山口), 「重点領域研究「遺跡探査」第4回研究成果検討会議論文集」, pp.207-219, 8. 2

主要研究業績

- ② 紫外線劣化絹の修復材料への応用の可能性 (共著：川野邊・佐野・米山・田  
畔・岡), 「保存科学」35, pp.40-48, 8. 3
- ② 文化財試料の化学発光測定における S/N 比の検討 (共著：佐野・米山)  
「保存科学」35, pp.57-65, 8. 3
- ② 東京都美術館「法隆寺金堂壁画展」に関する保存環境調査  
(共著：佐野・木川), 「保存科学」35, pp.66-73, 8. 3
- ② 展示公開施設の館内環境調査報告—平成6年度—(共著：佐野)  
「保存科学」35, pp.74-79, 8. 3
- ③ 航空機から赤外線画像で遺跡を探查する “Newton”15(5), pp.13, 7. 4
- ③ 文化財・考古学における光・画像計測  
「非破壊検査」44(8), pp.621-628, 7. 9
- ③ 国指定文化財等展示公開施設のシーズニングについて—平成5年度展示公開  
施設の館内環境調査から—(共著：佐野),  
「月刊文化財」, 384, pp.4-11, 7. 9
- ③ エミシオグラフィーと透過X線写真撮影による調査  
「修復」2, pp.12-13, 7.11
- ④ 隠された肖像画の画像解析(2), (共同：花泉・山田・田中)  
第17回文化財保存修復学会講演会大会, 7. 6. 3-4
- ④ 法隆寺「焼損金堂・壁画」特別公開における保存対策 (共同：佐野・木川・  
坂本・神庭), 第17回文化財保存修復学会講演会大会 7. 6. 3-4
- ④ 気球からの画像を用いた遺跡探查 (共同：花泉・妻島・川野邊)  
日本文化財科学会第12回大会, 7. 6.17-18
- ④ 博物館の保存環境, '95日中博物館建築・文物保存国際検討会  
(中国歴史博物館, 於北京), 7. 8.24-26
- ④ 敦煌莫高窟壁画保存のための日中共同研究  
第45回東方学会全国会員総会, 7.11.10
- ⑤ 考古学と不可視画像, 不可視画像ワークショップ 7. 6.21
- ⑤ 梱包概論 (梱包の科学)  
指定文化財 (美術工芸品) 展示取扱い講習会 (東京), 7. 7.13
- ⑤ 梱包概論 (梱包の科学) 同上 (京都), 7.11

主要研究業績

- ⑤ 保存科学概論, 貨幣博物館セミナー, 7.12. 5
- ⑤ 海外における文化財保護の歴史, 聖徳太子奉賛会講演会, 7.12.21
- ⑤ 文化財の国際交流, 平成7年度文化財行政上級講座, 8. 2.15
- ⑤ 博物館における保存科学の役割, 第6回博物館保存科学研究会, 8. 2.16
- ⑥ 博物館の保存環境について感じたことなど,  
「日中博物館・美術館文物保存国際シンポジウム報告集」,  
pp.2/11/12, 7.12

佐野 千絵

- ① 第3章調査2 木屎漆の分析 『東大寺南大門国宝木造金剛力士立像修理報告  
書本文篇』 文化庁文化財保護部美術工芸課編, pp.82-86, 5. 3
- ① メスバウアー分光分析法『考古資料分析法(考古学ライブラリー65)』,  
田口・斎藤編, pp.44-45, 7.10
- ① 電子スピン共鳴分析法「同上」 同上, pp.46-47, 7.10
- ② 紫外線劣化絹の修復材料への応用の可能性(共著:川野邊・米山・三浦・田  
畔・岡), 「保存科学」35, pp.40-48, 8. 3
- ② 文化財試料の化学発光測定におけるS/N比の検討(共著:米山・三浦),  
「保存科学」35, pp.57-65, 8. 3
- ② 東京都美術館「法隆寺金堂壁画展」に関する保存環境調査(共著:三浦・木川),  
「保存科学」35, pp.66-73, 8. 3
- ② 展示公開施設の館内環境調査報告—平成6年度—(共著:三浦),  
「保存科学」35, pp.74-79, 8. 3
- ③ 国指定文化財等展示公開施設のシーズニングについて—平成5年度展示公開  
施設の館内環境調査から—(共著:三浦),  
「月刊文化財」, 384, pp.4-11, 7. 9
- ④ 法隆寺「焼損金堂・壁画」特別公開における保存対策(共同:三浦・木川・  
坂本・神庭), 第17回文化財保存修復学会講演会大会 7. 6. 3
- ④ 博物館取蔵庫内の空気環境—酸性物質について—  
第17回文化財保存修復学会講演会大会 7. 6. 3
- ⑤ 文化財の保存(1 環境)

主要研究業績

- 指定文化財（美術工芸品）展示取扱い講習会（東京） 7. 7
- ⑤ 文化財の保存（1 環境） 同上（京都） 7.11
- ⑤ 化学発光法を用いた文化財の劣化の研究の現状  
第2回CL技術研究会 7. 9
- ⑤ 文化財の保存と環境，指定文化財（美術工芸品）修理技術者講習会 7. 9

平尾 良光

- ① 荒神谷から出土した青銅製品の化学組成『荒神谷遺跡と青銅器』，（分担執筆久保田裕子・二宮修治）島根県古代文化センター編，同朋舎出版， 7.11
- ① LEAD ISOTOPE RATIOS OF COPPER, ZINC AND LEAD MINERALS IN TURKEY —IN RELATION TO THE PROVENANCE STUDY OF ARTIFACTS— “Essays on Ancient Anatolia and its Surrounding Civilizations” Harrassowitz Verlag (Wiesbaden), pp.89-114(1995), Junko Enomoto and Hideko Tachikawa, 7.11
- ① 古代東アジアの青銅製品製造に関する基礎的研究文部省科学研究費補助金（総合研究A）研究成果報告書 代表者平尾良光 pp.177 8. 3
- ② 火災の科学的調査『落川遺跡Ⅲ（自然科学編）』（共著：榎本淳子）  
日野市落川遺跡調査会編，pp.121-131， 8. 3
- ② 汐留遺跡から出土した金・銀貨の蛍光X線測定『汐留遺跡』第3分冊  
（共著：小林直子），汐留遺跡地区遺跡調査会編， pp.367-373 8. 3
- ② 岡山県赤磐郡斎富遺跡出土珠文鏡の鉛同位体比『斎富遺跡』（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書第105集），（共著：榎本淳子），  
岡山県教育委員会編，pp.485-487 8. 3
- ② 法隆寺献納宝物金銅仏の蛍光X線による材質調査  
『法隆寺献納宝物金銅仏Ⅰ』，東京国立博物館編，pp.402-435 8. 3
- ② 鉛同位体比法による春日市出土青銅器の研究『春日市史（上）』，  
（共著：佐々木美喜・竹中みゆき），福岡県春日市編，pp.860-901 7.10
- ② 銅製品の科学的研究『斑鳩藤ノ木古墳第二・三次調査報告書・分析と技術編』，  
（共著：榎本淳子），榎原考古学研究所第2編 pp.7-39 7. 9
- ② 廣漢三星堆遺物坑青銅器の鉛同位体比值研究（共著：金正耀・馬淵久夫・W.

- T. Chase・三輪嘉六・陳徳安・趙殿増), 「文物」465, pp.80-85, 7. 9
- ② 鉛同位体比法による古代鉄器の原料産地推定の試み(共著:榎本淳子)  
「考古学と自然科学」29, pp.41-53 7. 9
- ② 中性子放射化分析法によるカマンカレホユック遺跡出土の銅製品の多元素定量(共著:鈴木章悟・平井昭司・古谷圭一),  
「考古学と自然科学」29, pp.25-40 7. 9
- ② 福岡県北九州市近郊から出土した弥生～古墳時代の銅鏡の鉛同位体比  
(共著:鈴木浩子), 「北九州市立考古博物館研究紀要」2, pp.1-5 7. 5
- ③ 日本の青銅文化の曙(1)「バルカーレビュー」3 9-7,  
日本バルカー工業(株)編, pp.1-6 7. 7
- ③ 日本の青銅文化の曙(2)「バルカーレビュー」3 9-8  
日本バルカー工業(株)編, pp.1-6 7. 8
- ③ 日本の青銅文化の曙(3)「バルカーレビュー」3 9-9  
日本バルカー工業(株)編, pp.14-20 7. 9
- ④ 古代石灰岩レリーフの博物館取蔵中の劣化と保存処置(共同:西浦忠輝・海老澤孝雄),  
第17回文化財保存修復学会講演会大会 7. 6. 3-4
- ④ カマンカレホユック遺跡出土の銅製品の機器中性子放射化分析(共同:鈴木章悟・平井昭司・古谷圭一), 日本文化財科学会第12回大会 7. 6.17-18
- ④ 福岡県春日市出土の青銅製品の鉛同位体比(共同:佐々木美喜・竹中みゆき),  
日本文化財科学会第12回大会, 7. 6.17-18
- ⑤ 古代青銅の生産地 群馬県北橋村歴史民俗資料館講演, 7.11
- ⑤ 古代青銅器の保存科学—サビから青銅の起源を探る  
千葉大学環境科学研究機構講演会, 千葉大学理学部 7. 6
- ⑤ 文化財保存(劣化—その化学的側面)  
指定文化財(美術工芸品)展示取扱い講習会(東京), 7. 7
- ⑤ 文化財保存(劣化—その化学的側面) 同上 (京都), 7.11

門倉 武夫

- ④ 酸性雨等の環境汚染と文化財保存 METEC95(表面技術総合展95)  
特別講演 7.

主要研究業績

- ④ Removal of Stains Caused by Fungi from the Asian Paintings on Silk Supports, (Masako Koyano, Mary A. Becker and Yoshiko Magoshi)  
“3rd International Conference on Biodeterioration of Cultural Property (ICBCP-3) Preprint” 7. 7. 4-7
- ④ 文化財に及ぼす環境汚染の影響に関する研究(1)―鎌倉大仏を取り巻く環境測定結果―(共同：二宮等), 第36回大気環境学会年会, 7.
- ④ 文化財に及ぼす環境汚染の影響に関する研究(2)―酸性雨環境における銅およびブロンズ板のリーチング試験―(共同：二宮等), 第36回大気環境学会年会, 7.
- ④ 東アジア地域を対象とした大気汚染物質の文化財及び材料への影響調査―(第3報)(共同：前田等), 第36回大気環境学会年会, 7.
- ⑤ 文化財の保存科学, 明治大学博物館講座, 7.10

木川 りか

- ② 文化財の新たな害虫駆除法に関する研究(1)―パラジクロロベンゼン併用による低酸素濃度殺虫法の処理時間短縮―(共著：山野), 「文化財保存修復学会誌」40, pp.24-34, 8. 3
- ② 東京都美術館「法隆寺金堂壁画展」に関する保存環境調査(共著：三浦・佐野), 「保存科学」35, pp.66-73, 8. 3
- ④ 出土木材 PEG 含浸槽における PEG 分解菌  
第17回文化財保存修復学会講演会大会 7. 6. 3
- ④ 低酸素濃度殺虫法に関する基礎実験(1)―処理時間短縮の試み―  
第17回文化財保存修復学会講演会大会 7. 6. 3
- ④ 法隆寺「焼損金堂・壁画」特別公開における保存対策(共同：三浦・佐野・坂本・神庭), 第17回文化財保存修復学会講演会大会 7. 6. 3
- ④ Investigation of Bacterial and Fungal Attack in the PEG Treatment of Excavated Wood, “3rd International Conference on Biodeterioration of Cultural Property (ICBCP-3) Preprint” 7. 7. 4-7
- ④ 分裂酵母の紫外線感受性で減数分裂不能の変異株 *mei6*, *mei7*  
(共同：飯野・今井・山本), 酵母遺伝学フォーラム, 7. 7.26-28

- ④ 分裂酵母の UV-DDB 相同遺伝子の単離と機能解析  
(共同：飯野・今井・山本), 第18回日本分子生物学会, 7.12. 6
- ⑥ 文化財の収蔵展示環境と生物汚染  
第15回文化財虫菌害燻蒸処理実務講習会, 7.11. 7
- ⑥ 無公害な文化財虫害防除法に関する基礎研究  
平成7年度笹川科学研究助成研究発表会, 8. 3.12
- ⑥ 無公害な文化財虫害防除法に関する基礎研究—低酸素濃度殺虫法の日本伝統文化財への適用—  
平成7年度笹川科学研究助成研報告書, 8. 3

山野 勝次

- ① “悪い虫”から美術品を守る 『美術品を10倍長持ちさせる本』(共著)  
日経 BP 社, pp.185-189, 8. 3
- ② シロアリ防除土壌処理に DDVP 樹脂燻散剤を利用する試み  
「しろあり」103, pp.12-18, 8. 1
- ② 文化財の新たな害虫駆除法に関する研究(1)—パラジクロルベンゼン併用による低酸素濃度殺虫法の処理時間短縮—(共著：木川),  
「文化財保存修復学会誌」40, pp.24-34, 8. 3
- ③ 〈座談〉よりよい機関誌を目指して(司会・まとめ)  
「しろあり」100, pp.14-34, 7. 4
- ③ 〈文献の紹介〉博物館害虫の温度処理による防除総説  
「文化財の虫菌害」29, pp.19-39, 7. 6
- ③ 「第15回文化財虫菌害燻蒸処理実務講習会」報告  
「文化財の虫菌害」30, pp.33-39, 7.12
- ③ 〈文献の紹介〉二酸化炭素との混合による臭化メチルと弗化スルフルルのシロアリに対する協力作用  
「文化財の虫菌害」30, pp.26-31, 7.12
- ④ 低酸素濃度法殺虫法に関する基礎実験(1)—処理時間短縮の試み—  
第17回文化財保存修復学会講演会大会 7. 6. 3
- ⑤ 文化財の害虫と防除対策  
第17回文化財の虫菌害保存対策研修会 7. 6.26
- ⑤ シロアリに関する実務知識



主要研究業績

- 平成7年度しろあり防除施工士資格第2次指定講習会 7. 9. 7
- ⑤ 文化財虫菌害燻蒸処理仕様書ならびに危害防止措置規定について  
第15回文化財虫菌害燻蒸処理実務講習会, 7.11. 7
- ⑤ シロアリの生体と被害  
平成8年度しろあり防除施工士資格第1次指定講習会, 8. 1.26
- ⑤ 昆虫学の基礎知識, 昆虫による文化財の被害と防除文化財の殺虫, 平成7年  
度文化財虫菌害防除作業主任者の能力認定試験とその講習会 8. 2. 7
- ⑥ 車内昆虫談義 「しろあり」100, p.50, 7. 4
- ⑥ 井上嘉幸先生の思い出 「しろあり」101, pp.31-33, 7. 7
- ⑥ シロアリの方言 「しろあり」101, p.42, 7. 7

修復技術部

増田 勝彦

- ⑥ 「紙・布を素材とした文化財の保存」 石川県立美術館研修会 7. 5.28
- ⑥ 史料の保存科学 国立史料館主催史料管理学研修 7. 7.15-16
- ⑥ 劣化と保存各論III—紙—  
博物館・美術館等の保存担当学芸員研修 7. 7.27
- ⑥ 修復材料各論—伝統材料—  
博物館・美術館等の保存担当学芸員研修 7. 7.27
- ⑥ 文化財修理と科学 美術工芸課講習会 7. 9.14
- ⑥ 「伝統技術による古絵画の修復」 韓国湖巖美術館主催講演会 7.11.3
- ⑥ 資料保存における従来の技術を再考する  
国立国会図書館主催第6回資料保存シンポジウム 7.11.20
- ⑥ 「日本の修復技術とその応用及び海外における日本修復技術の評価」国宝修理  
装こう師連盟主催国際シンポジウム, 日本美術品の保存修復と装こう技術  
7.11.26
- ⑥ 史料の保存科学  
埼玉県文書館主催平成7年度文書史料取扱講習会 8. 2. 6
- ⑥ 「日本の美術品の損傷と修復—近代日本画の損傷と修復—2 工房での修復例  
を挙げて—」 文化庁文化部主催第7回近現代美術専門研修会 8. 2.21

- ⑥ 「イクロムと共催している『紙の保存修復』国際研修」  
 国立国会図書館協力懇談会 8. 3.22
- ⑥ 「紙の保存修復」 国際研修 7.11.24～7.12.14

川野邊 渉

- ② 古建築の外装塗装の物性に関する研究 (III) (西浦・岡部・川野邊)  
 「保存科学」35, pp21-31 8. 3
- ② 紫外線劣化絹の修復材料への応用の可能性 (川野邊・佐野・米山・三浦・田  
 畔・岡) 「保存科学」35, pp40-48 8. 3
- ② 熱分解ガスクロマトグラフィーによる漆試料の同定の可能性について (川野  
 邊) 「保存科学」35, pp40-48 8. 3

中里 壽克

- ② 高台寺の蒔絵 なごみ5 7. 5. 1
- ② 古代螺鈿の研究 (上) 国華1099 7.10
- ② 古代螺鈿の研究 (下) 国華1103 8. 2
- ③ 中尊寺金色堂の漆塗技法と修復 建築保全 No.97 7. 9
- ⑤ 小型宝塔が納められた漆箱について  
 埼玉県埋蔵文化財センター研究会 7. 5
- ⑤ 劣化と保存—各論・漆 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 7. 7
- ⑤ 高台寺蒔絵が及ぼす漆芸文様への影響 会津若松支援センター 7. 7
- ⑤ 蒔絵—源流から主流へ 京都国立博物館土曜講座 7.10
- ⑤ 中尊寺の荘嚴について シンポ「平泉寺院の荘嚴をめぐって」 7.11
- ⑤ 平安時代漆芸品の科学的研究 京都市工業試験場 8. 3.14

尾立 和則

- ⑤ 「劣化と保存」各論—絵画の彩色層—  
 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 7. 7.21
- ⑥ 「紙の保存修復」 国際研修 7.11.24～7.12.14

主要研究業績

松本 修自

- ② 東のない間斗束—「中備」の一考察—  
奈良国立文化財研究所『文化財論叢Ⅱ』 同朋社出版 7. 9. 20
- ② “Technological problems in the international cooperative activity in conservation”(宮本・西浦と共著)  
5th seminar on the conservation of Asian cultural heritage 7. 10
- ② 歴史的建造物の赤色塗装  
「木造古建築の保存を目的とした外装塗装の物性評価」 8. 3
- ⑤ 私の見た寺内町富田林 富田林市 7. 6. 4

青木 繁夫

- ② 高德院国宝銅像阿弥陀如来座像の表面に生成する腐食生成物の解析  
「保存科学」35 8. 3
- ② 加曾利貝塚の保存について 「貝塚博物館紀要」23 8. 3
- ② プラズマ処理による象嵌遺物の保存処置法の開発研究  
科学研究費補助金一般研究(C)研究成果報告書
- ⑥ 阪神大震災における文化財レスキュー  
埼玉県文化財保護担当者研修会 7. 5
- ⑥ 出土金属製品の保存 高崎市文化財保護担当者研修会 7. 7
- ⑥ 劣化と保存—考古資料の保存—  
博物館・美術館等保存担当学芸員研修 7. 7
- ⑥ 劣化と保存—金属文化財の保存—  
博物館・美術館等保存担当学芸員研修 7. 7
- ⑥ 金属遺物の安定化処理 奈良国立文化財研究所保存科学研究会 8. 2
- ⑥ 文化財パトロールにおける保存上の注意点  
富山県文化財パトロール研修 8. 3

情報資料部

廣井 雄一 (情報資料部長)

- ② 金銅丸鞘太刀 「刀剣美術」 7. 4

主要研究業績

- ② 金銅丸鞘太刀（続） 『刀剣美術』 7.10
- ② 中世における刀鍛冶の居住地 『季刊考古学』57号 7.11
- ④ 巖島神社の太刀について (社)日本甲冑武具研究保存会 7.11
- ④ 絵画に見る武器武具 美術部・情報資料部公開学術講座 7.11
- ④ ベニス東洋美術美術館所蔵の甲冑について  
(社)日本甲冑武具研究保存会 8. 2
- ⑤ 日本の刀剣 東京都高等学校歴史教育研究会 7.11

井手誠之輔（主任研究官）

- ③ 世界のカリグラフィ6、阿弥陀如来像の胸臆にみえる卍  
『月刊百科』392号表紙解説 7. 6
- ③ 「山水画」解説 TBS ブリタニカ世界百科辞典 7. 7
- ④ 中国江南の仏教史蹟 室町水墨画研究会 7. 8.26
- ⑤ 以亨得謙禅師の中国修行の地、発見 萬歳寺文化講座 7.10. 7
- ④ 中国浙江地方の仏教史蹟  
特別研究「中国仏教美術基準作品研究調査研究」に関する  
研究会 8. 2. 21

長岡 龍作（主任研究官）

- ② 仏像を考えるとということ 『国華』1202号 8. 1
- ② 美術史研究における画像情報利用の基礎的条件  
文部省科学研究費補助金1995年度研究成果報告書『重点領域研究人文科学と  
コンピューター・コンピューター支援による人文科学研究の推進』 8. 3
- ⑤ 仏像を考えるとということ（第7回国華賞受賞記念講演）  
朝日新聞東京本社 7.10.23

米倉 迪夫（文献資料研究室長）

- ② アートドキュメンテーションの諸問題—画像を探す・画像を記述する  
『情報処理学会研究報告』95-CH-28 7.11
- ③ 作品解説（公家列影図，隨身庭騎絵，中殿御会図，天皇拱闕影，天皇拱闕大

主要研究業績

臣影，法然上人伝絵，拾遺古徳伝絵，うたたね草紙)

『絵巻物総覧』 角川書店 7. 4

- ④ 『源頼朝像』について 肖像画シンポジウム 静嘉堂文庫 7. 6.11
- ④ アートドキュメンテーションの諸問題—画像を探す・画像を記述する  
情報処理学会（人文科学とコンピュータ） 7.11.25
- ④ 神護寺蔵「伝源頼朝像」—美術史をかえりみるための覚書—  
国文学研究資料館研究会 8. 1.12
- ④ 源頼朝像をめぐる  
シンポジウム「肖像画と歴史学」 東京大学史料編纂所 8. 3. 2
- ⑥ 肖像画と名づけ 『言語』24-11 7.11

勝木言一郎（文献資料研究室）

- ② 小南海石窟中窟の三仏造像と九品往生図浮彫に関する一考察  
『美術史』139号 8. 2
- ④ 中国における九品往生図の初期的展開—小南海石窟中窟の九品往生図浮彫を  
中心に— 美術部・情報資料部合同研究会 7. 5.10
- ④ 小南海石窟中窟における九品往生図浮彫について  
美術史学会全国大会 7. 5.28
- ④ 安陽小南海石窟と林県洪谷寺石窟について 所内総合研究会 7. 6.13
- ⑤ 法隆寺蔵玉虫厨子にみえる仏教説話図の源流をたずねて  
三鷹市市民講座 7.11. 5
- ⑤ 法隆寺金堂壁画の系譜をたずねて 三鷹市市民講座 7.11.19
- ⑤ 当麻曼荼羅の源流を中国へたどって 三鷹市市民講座 7.11.26
- ⑤ 教王護国寺蔵兜跋毘沙門天像について 三鷹市市民講座 7.12. 3
- ⑤ 中国美術にみる吉祥図像 東久留米市市民講座 7.12. 9
- ⑤ 馬王堆前漢出土の帛画の図像解釈をめぐる 三鷹市市民講座 7.12.17
- ⑥ 蓬莱山と海亀 海がめワールド財団設立実行委員会  
『モシモシカメヨカメサンヨ物語』 7. 6. 4

鈴木 廣之（写真資料研究室長）

- ② 異論・岩佐又兵衛浮世絵開祖説  
小林忠編『肉筆浮世絵大観』第6巻（麻布美術工芸館）講談社 7. 4
- ② 絵画のアルケオロジ—室町時代における屏風絵の意義—  
『国華』1200号 7.12
- ③ 雷神 黒田日出男編『歴史学事典』第3巻（かたちとしるし）  
弘文堂 7. 7
- ③ 岩佐又兵衛・海北友松ほか 『世界人物逸話大事典』角川書店 8. 2
- ⑤ 桃山時代の狩野派  
板橋区立美術館『江戸狩野派の変貌 PART 2 展』記念講演会② 7. 4.22

国際文化財保存修復協力センター

宮本長二郎（センター長）

- ① 家型埴輪 日本の美術348号 至文堂 7. 5.15
- ② 巨木遺跡の正体 縄文文物の発見 PHP 研究所 7. 9.21
- ② 弥生時代の祭儀建築と外来文化 沓岐・対馬の倭人伝  
大阪府立弥生博物館 7.10. 7
- ② 大型祭建物と祭祀 祭祀考古第5号 祭祀考古学会 7. 3.30
- ④ 竪穴住居の系譜 奈良国立文化財研究所シンポジウム 7.11. 1
- ⑤ 国分寺と建築 市川市立博物館 7.10.15
- ⑤ すまいと集落 千葉県房総風土記の丘資料館 7.10.22

西浦 忠輝（環境解析研究指導室長）

- ① The Project for Restoration of Stone Reliefs of Ain Dara Temple, Syria  
(Annual Report: June 1994 to May 1995)  
東文研・国際文化財保存修復協力センター 7. 7
- ① 文化遺産の保存と環境〔講座—文明と環境〕（共著） 朝倉書店 7.11
- ① 木造古建築の保存を目的とした外装塗装（丹色塗装）の物性評価  
科学研究費成果報告書 8. 3
- ② Experimental Evaluation of Stone Consolidants Used in Japan.  
“Methods of Evaluating Products for the Conservation of Porous Building

主要研究業績

- Materials in Momuments” (ICCROM) 7. 6
- ② 敦煌莫高窟の保存—日中共同研究のあゆみと成果—  
「アジアにおける文化遺産の保存と救済」シルクロード学研究センター 7. 9
- ② Conservation of the Dunhuang Mogao Caves—Progress to Date of a  
Japan/China Joint Study—Conservation of Cultural Heritage and Interna-  
tional Assistance in Asian Countries 7. 9
- ② 古建築の外装塗装の物性に関する研究(III)—丹色塗装の屋外曝露試験②(川  
野邊らと共同) 「保存科学」35 8. 3
- ④ 石材保存用樹脂の評価試験〔IV〕—強化用樹脂のFT-IR分析—(大石らと共  
同) 第17回古文化財科学研究会大会 7. 6
- ④ 古代石灰岩レリーフの博物館収蔵中の劣化と保存処置(平尾らと共同)  
第17回古文化財科学研究会大会 7. 6
- ④ 丹色塗装の屋外曝露試験〔II〕(川野邊らと共同)  
第17回古文化財科学研究会大会 7. 6
- ④ シリア, アインダーラ神殿遺跡石彫レリーフの保存修復処置〔I〕(海老澤ら  
と共同) 第17回古文化財科学研究会大会 7. 6
- ④ 古建築の保存を目的とした外装塗装の物性評価(川野邊らと共同)  
日本文化財科学会第12回大会 7. 6
- ④ シリア, アイン・ダーラ神殿遺跡石彫レリーフの保存修復協力事業  
東京国立文化財研究所総合研究会 7.10
- ④ An Overview for the Conservation of Mogao Grottoes—Aim and Proce-  
dure of the Symposium The Conservation of Dunhuang Mogao Grottoes  
and the Related Studies 8. 2
- ④ シリアのアインダーラ神殿遺跡の保存修復〔I〕(井上と共同)  
第3回西アジア発掘調査報告会 8. 3
- ⑤ シリア, アインダーラ神殿遺跡の保存修復 ラジオ日本 7. 4
- ⑤ 劣化と保存各論—木— 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 7. 7
- ⑤ 劣化と保存各論—石— 博物館・美術館等保存担当学芸員研修 7. 7
- ⑤ 保存科学 東京農工大学大学集中講義(博物館学) 7. 8
- ⑤ Technological Problems in the International Cooperative Activity for

主要研究業績

- Conservation (宮本らと共同) 第5回アジア文化財保存セミナー 7.10
- ⑤ 文化財の保存(劣化・:木, 金属, 石の劣化)  
文化庁指定文化財展示取扱講習会 7.11
- ⑤ 石造文化財の保存修復 京都造形芸術大学集中講義(保存学実習II) 7.11
- ⑤ 敦煌保存修復の事例から見た国際協力  
第10回「大学と科学」公開シンポジウム:アジア・知の再発見—文化財保存  
と国際協力— 8. 1
- ⑤ 日中共同研究のあゆみと成果〔スライド解説〕  
敦煌莫高窟保存国際シンポジウム(公開シンポジウム) 8. 2
- ⑥ 遺産保護の現状と問題点—世界遺産条約が問いかけるもの—(座談会)  
ユネスコ世界遺産1995 8. 2

朽津 信明(環境解析研究指導室)

- ② 札幌市・北海道庁旧本庁舎における煉瓦の劣化と保存  
「考古学と自然科学」 7. 4
- ② 愛媛県今治市の古墳の赤色顔料について 「遺跡」 35 8. 3
- ② 松戸市立博物館蔵の板絵に見る鉛白の変色と再白色化(下山, 野田と共著)  
「保存科学」 35 8. 3
- ④ 石造文化財で観察される蒸発岩 日本地質学会第101年学術大会 7. 4
- ④ 敦煌莫高窟における蒸発量と壁画の塩類風化(段と共同)  
日本沙漠学会第6回学術大会 7. 5
- ④ ブルージュ救世主大聖堂における煉瓦の劣化とその保存  
第17回古文化財科学研究会大会 7. 6
- ④ 島根県穴神1号横穴墓の赤色顔料 日本文化財科学会第12回大会 7. 6
- ④ Evaporation and Salt Efflorescence of Mural Paintings in the Mogao  
Grottoes The Conservation of Dunhuang Mogao Grottoes and the  
Related Studies 8. 2



## IV. 大学院教育

平成7年4月より東京芸術大学と連携して大学院教育に従事し、人材養成を直接行っている。システム保存学（連携研究分野）は、文化財の置かれている環境問題を考究する保存環境学講座と、保存修復に適用される材料について考究する修復材料学講座に分かれており、所員が各講座3名ずつ併任教官として指導にあっている。

### (1) 併任教官及び担当授業

#### 保存環境学講座

併任教官 三浦定俊（保存科学部長）： 保存環境計画論（前期）

併任教官 平尾良光（保存科学部化学研究室室長）：  
保存環境学特論II（後期）

併任助教授 佐野千絵（保存科学部主任研究官）：  
保存環境学特論I（前期）

#### 修復材料学講座

併任教官 宮本長二郎（国際文化財保存修復協力センター長）：  
修復計画論（後期）

併任教官 増田勝彦（修復技術部長）： 修復材料学特論I（前期）

併任助教授 川野邊渉（修復技術部主任研究官）：  
修復材料学特論II（後期）

#### 文化財保存学演習（併任教官全員が担当）

1 回目（平成7年11月14日）：西川杏太郎客員教授（所長）の講義、温湿度測定のための基本的な機器の取扱いの実習  
黒田清輝記念室見学

2 回目（平成7年11月21日）：所内見学

### (3) 平成7年度入学選抜試験

平成7年度の入学選抜試験は以下のように実施された

実施日：平成7年4月12日～14日

試験内容：筆答試験（英語，基礎，専門，小論文），面接

受験者数：1名                      合格者数：        なし

(4) 平成8年度入学選抜試験

平成8年度の入学選抜試験は以下のように実施された。

実施日：平成8年2月6日～8日

試験内容：筆答試験（英語，基礎，専門，小論文），面接

受験者数：2名                      合格者数：        2名（各講座1名ずつ）

## V. 事 業

### 1. 出 版

#### (1) 美術研究

平成7年度は第363号から第364号が下記の内容で刊行された。

##### 美術研究 第363号 (平成8年1月)

中国花鳥画の意味 (上)

—藻魚図・蓮池水禽図・草虫図の寓意と受容について— 宮崎 法子  
ドキュメントとしての絵画

—「王羲之書扇図の画と詩」 島尾 新  
陶冷月について (補遺) 鶴田 武良

(図版解説)

十亀広太郎筆 顔 田中 淳

##### 美術研究 第364号 (平成8年3月)

クチャ地方の中国様式絵画 中野 照男

中国花鳥画の意味 (下)

—藻魚図・蓮池水禽図・草虫図の寓意と受容について— 宮崎 法子  
(研究資料)

白馬会関連新聞記事資料 植野 健造

美術研究総目次 (359～364号)

#### (2) 日本美術年鑑

平成7年度版 (平成8年3月)

平成6年の内容をもつ。B5版339ページ

平成6年の美術界年史

美術展覧会（現代美術・西洋美術）

美術展覧会（東洋古美術）

美術文献目録（定期刊行物所載）（現代美術・西洋美術）

美術文献目録（定期刊行物所載）（東洋古美術）

物故者

### (3) 芸能の科学

古典芸能についての研究論文，調査報告，資料翻刻等を掲載している。平成7年度 は下記の論考集を刊行した。

#### 芸能の科学24（平成8年3月発行）

民俗行事・民俗芸能に見る鬼の形態	中村 茂子
「乱声」の系譜—雅楽・修正会から鬼狂言へ—	高桑いづみ
近松門左衛門の鬼—浄瑠璃の場合—	鎌倉 恵子
長唄の鬼	蒲生 郷昭
蹴鞠に関する一試論—能の身体との関わりから—	石井 倫子
「河童」の民俗芸能（続）	山本 宏子
中国泉州提線木偶戯「目連戯」の「李世民遊地府」	細井 尚子

### (4) 保存科学

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査，受託研究報告等の論文報告及び修復処置概報等を掲載している。平成7年度は第35号を発行した。掲載論文は下記の通りである。

#### 保存科学第35号

高德院国宝阿弥陀如来坐像の表面に生成する腐食生成物の解析

松田 史朗・青木 繁夫

古建築の外装塗装の物性に関する研究（Ⅲ）

—丹色塗装の屋外暴露試験〈2〉—

西浦 忠輝・岡部 昌子・川野邊 渉

神戸市立博物館蔵の板絵にみる鉛白の変色と再白色化

## 事 業

朽津 信明・野田 裕子・下山 進

紫外線劣化絹の修復材料への応用の可能性

川野邊 渉・佐野 千絵・米山めぐ美

三浦 定俊・田畔 徳一・岡 岩太郎

熱分解ガスクロマトグラフィーによる漆試料の同定の可能性について

川野邊 渉

文化財試料の化学発光測定における S/N 比の検討

佐野 千絵・米山めぐ美・三浦 定俊

東京都美術館「法隆寺金堂壁画展」に関する保存環境調査

佐野 千絵・三浦 定俊・木川 りか

展示公開施設の館内環境調査報告—平成6年度— 佐野千絵・三浦定俊  
平成7年度修復処置概報 修復技術部

## 2. 黒田清輝巡回展

期 間 平成8年2月25日(日)～3月24日(日)

場 所 米子市美術館

展示作品 油絵・パステル画60点, 木炭デッサン50点,  
その他参考資料等25点

## 3. 公開学術講座

美術部・情報資料部(第29回)

日 時 平成7年11月25日(土) 13:30～16:30

会 場 国立教育会館

講 演 (1)「西域クチャ地方の中国様式絵画」

中野 照男

(2)「絵画に見る武器武具」

廣井 雄一

芸能部(第25回)

日 時 平成7年11月28日(火) 18:00～20:30

会 場 江戸東京博物館ホール

テ ー マ 語り物の音楽

講 演 (1) 日本の語り物と三味線

蒲生 郷昭

講 演 (2) 中国の語り物

細井 尚子

実演と話 一常磐津節と長唄の比較— 実演

常磐津一祐太夫

常磐津紫弘

杵屋 利光

今藤長龍郎

聞き手

蒲生 郷昭

#### 4. 夏期学術講座

##### 芸能部(第20回)

芸能部では、芸能の多角的かつ総合的な研究に資することを目的として、例年夏期4日間にわたる学術講座を、首都圏各大学の大学院生を対象に実施している。会場を東京国立文化財研究所会議室とし、芸能部員がそれぞれの専門分野における研究成果を体系的に論ずる。

平成7年度は「伝統芸能の鬼」というテーマを設けて部員5人が分担して、7月10日から13日までの4日間にわたり実施した。受講者は慶応義塾大学、実践女子大学、お茶の水女子大学、早稲田大学、共立女子大学、法政大学、東京芸術大学、東海大学、明治大学、東京学芸大学、日本大学、国立音楽大学、千葉大学、成城大学の各大学院生で、受講者数は40名。日程及びテーマ細目は下記の通りである。

7月10日(月)

序論

蒲生 郷昭

民俗行事・芸能にみる鬼の系譜と扮装

中村 茂子

修正会の鬼の展開

中村 茂子

7月11日(火)

鬼の面の系譜

羽田 昶

## 事 業

歌舞伎・浄瑠璃の鬼の姿	鎌倉 恵子
近世戯曲に見られる鬼の性格	鎌倉 恵子
7月12日(水)	
能・狂言の鬼の足づかい	高桑いづみ
鬼の登場の音楽	高桑いづみ
能と歌舞伎舞踊の鬼	羽田 昶
7月13日(木)	
近世邦楽の鬼(その1)	蒲生 郷昭
近世邦楽の鬼(その2)	蒲生 郷昭
質疑	

## 5. 能楽技法講座

芸能部では能楽研究を志す学生や若手研究者を対象に、実技の修得、脚本構造の技法分析等、能楽を楽劇として総合的に把握するための基礎的な講義を行っている。

講 師	高桑いづみ 羽田 昶 及び外部の研究者・実技者
期 間	平成7年から2年間(毎週水曜日午後6時～8時)
場 所	別館会議室または芸能部舞台
内 容	脚本構造・謡の技法・囃子の技法・面装束の用法・狂言の技法等

## 6. 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修

研修内容	・文化財の保存環境に関する科学的な基礎知識及び調査処理法の指導 ・文化財の修復技術に関する基礎知識及び科学的な基礎技法の指導
期 間	平成7年7月17日(月)～7月28日(金)
場 所	東京国立文化財研究所別館会議室
参加者	21名

7月17日(月)

開講式・オリエンテーション

保存環境総論 一文化財の保存と環境一 保存科学部長 三浦 定俊

保存環境〈実習〉 一温湿度測定機器の取扱い一 三浦 定俊

18日(火)

保存環境 各論 一温湿度一 三浦 定俊

保存環境 各論 一展示梱包ケースの湿度調節一

国立歴史民俗博物館 神庭 信幸

保存環境〈実習〉 一湿度の制御法一 三浦 定俊

19日(水)

保存環境 各論 一大気汚染とその影響一 生物研究室長 門倉 武夫

保存環境 各論 一室内汚染一 保存科学部主任研究官 佐野 千絵

保存環境〈実習〉 一室内汚染の調査法一 佐野 千絵

20日(木)

保存環境 各論 一光と劣化一 佐野 千絵

保存環境 各論 一照度基準一 神庭 信幸

保存環境〈実習〉 一照度の測定と調節一 佐野 千絵

21日(金)

生物被害 虫 一害虫の生態と被害一 保存科学部調査員 山野 勝次

生物被害 カビ 一要因とメカニズム一 生物研究室 木川 りか

劣化と保存 各論 一紙一 修復技術部長 増田 勝彦

劣化と保存 各論 一伝統材料一 増田 勝彦

保存環境〈実習〉 一環境調査 1一 佐野 千絵

24日(月)

劣化と保存 各論 一木一 環境解析研究指導室長 西浦 忠輝

劣化と保存 各論 一石一 西浦 忠輝

劣化と保存 各論 一ガラス一 環境解析研究指導室 朽津 信明

劣化と保存 各論 一考古遺物一 第三修復技術研究室長 青木 繁夫

保存環境〈実習〉 一環境調査 2一 佐野 千絵

25日(火)



## 事 業

劣化と保存	各論	—油彩画—	東京芸術大学大学院教授	歌田 真介
劣化と保存	各論	—漆—	第一修復技術研究室長	中里 壽克
劣化と保存	各論	—金属 1—		青木 繁夫
劣化と保存	各論	—金属 2—		青木 繁夫
保存環境〈実習〉		—環境調査 3—		佐野 千絵

26日(水)

調査手法	各論	—化学分析—	化学研究室長	平尾 良光
調査手法	各論	—画像計測—		三浦 定俊
修復材料	各論	—合成樹脂—	名誉研究員	樋口 清治
修復材料	各論	—絵画の彩色層—	第二修復技術研究室	尾立 和則
保存環境〈実習〉		—環境調査 4—		佐野 千絵

27日(木)

ケーススタディ(於:府中市郷土の森博物館)

—博物館における収蔵・展示の問題とその対策—	佐野 千絵
—美術館における収蔵・展示の問題とその対策—	三浦 定俊

28日(金)

文化財科学の動向	—現状と歴史—	三浦 定俊
----------	---------	-------

閉講式

## 7. 国際研究集会

### (1) 「第19回文化財の保存と修復に関する国際研究集会」

名 称 敦煌莫高窟の保存国際シンポジウム

期 間 平成8年2月1日～3日 [2月4日:公開シンポジウム]

場 所 奈良県新公会堂

参加者 250名(うち外国人25名)

発表者・発表題目等(以下のとおり)

セッション(1):基調講演

莫高窟保存の歴史

段 文 傑 (敦煌研究院, 中国)

莫高窟保存のための共同研究

樊 錦 詩 (敦煌研究院, 中国)

莫高窟保存への展望—シンポジウム開催にあたって—

西浦 忠輝 (東京国立文化財研究所)

セッション(2): 地形、地質と石窟の環境

敦煌付近の過去2000年の環境変動について

福田 正己 (北海道大学)

敦煌の気候

高橋 英紀 (北海道大学)

莫高窟の気象

前川 信 (ゲティ保存研究所, アメリカ)

莫高窟の微気象

張 擁 軍 (敦煌研究院, 中国)

莫高窟における蒸発量と壁画の塩類風化

朽津 信明 (東京国立文化財研究所)

洞窟壁画の環境保護: コンパレーユ洞窟における応用

Jacques BRUNET

ジャック・ブリューネ (歴史記念物研究所, フランス)

莫高窟における砂対策

Po-Ming LIN

ポ・ミン・リン (ゲティ保存研究所, アメリカ)

セッション(3): 石窟の構造的安定化

中国における石窟の保存

黄 克 忠 (文物研究所, 中国)

莫高窟における地盤工学的問題点

Robert E. ENGLEKIRK

ロバート・E. エンゲルカーク

(地盤工学コンサルタント, アメリカ)

事 業

大仏寺石窟の構造的安定化

Gerd GUDEHUS

ゲルド・グデフス（カールスルーヘ大学，ドイツ）

岩体強化用 PS-F グラウティング材の物性

李 最 雄（敦煌研究院，中国）

樂山大仏の修復材料〈伝統材料と新材料〉

馬 家 郁（四川省考古研究所，中国）

セッション(4)：壁画の強化と修復

莫高窟壁画補修用擬土について

増田 勝彦（東京国立文化財研究所）

アジャンタ洞窟壁画の保存修復

O. P. AGRAWAL

O. P. アグラワル（インド保存研究所，インド）

日本古代壁画の強化と修復

沢田 正昭（奈良国立文化財研究所）

壁画修復用合成樹脂の物性

Eddy DE WITTE

エディ・デウィッタ（ベルギー王立文化財研究所，ベルギー）

セッション(5)：総合討議

敦煌莫高窟保存の課題と今後の展望

[座長] 樋口 隆康（シルクロード研究センター）

三浦 定俊（東京国立文化財研究所）

## (2) アジア文化財保存セミナー

「第5回アジア文化財保存セミナー」

主 題 文化財保存国際協力事業における技術的諸問題

期 間 平成7年10月17日～19日

場 所 奈良県新公会堂

発表者・発表題目等（以下のとおり）

基調講演

文化財保存国際協力事業における技術的諸問題

伊藤 延男 (イコモス副議長, 日本)

カンントリーレポート

ヴェトナムにおける文化財の保存と国際協力

Hoang Dao Kinh

ホアン・ダオ・キン (ヴェトナム国立記念物修復センター)

マニラ, イントラムロスのサンアグスティン教会の保存

Emerita Verano Almosara

エメリタ・ベラノ・アルモサーラ (フィリピン国立歴史研究所)

文化財保存国際協力事業における技術的諸問題

Dorji Wangchuk

ドルジ・ワンチュク (ブータン文化財管理局)

文化財保存国際協力事業における技術的諸問題

Mohammed Ali

モハメド・アリ (バングラデシュ考古局)

パキスタンにおける文化財の保存と国際協力

Muhammad Abdul Halim

ムハマド・アブドゥル・ハリム (パキスタン考古局)

文化財保存国際協力事業における技術的諸問題

Abdul Sameeu Hassan

アブドゥル・サミーユ・ハッサン

(モルディブ国立言語歴史センター)

ムアラジャンピにおける遺跡保存

Junus Satrio Atmodjo

ジュヌス・サトリオ・アトモジョ

(インドネシア地区文化財保存事務所)

文化財保存国際協力: その課題と展望

Kamarul Baharin bin Buyong

カマル・バハリン・ビン・ブヨン (マレーシア文化財管理局)

事 業

プラン・サム・ヨド遺跡の修復事業

Arak Sunghitakul

アラク・スンヒタクル (タイ国芸術総局)

基調講演

文化財保存国際協力事業における技術的諸問題

Marc Laenen

マーク・ラーネン (イクロム)

カントリーレポート

日本の文化財保存国際協力事業における技術的諸問題

宮本長二郎 (東京国立文化財研究所)

上海博物館における古代青銅器製造技術に関する研究

廉海萍 (中国上海博物館)

大理石製石塔の保存：ソウルの石塔を例に

白燦圭 (韓国文化財管理局)

保存修復中央研究所の国際協力事業

Ulku Izmiriligil

ウルク・イズミルリジル (トルコ文化財保存修復中央研究所)

ダマスカス旧市街の保存における技術的諸問題

Mouhammad Houmam Zaiem

モハマド・ホーマン・ザイエム (シリア国考古総局)

古代都市ルアン・ブラバンの保存

Bounham Chanthamat

ボンナム・チャントマット (ラオス国考古・博物館局)

ネパールでの歴史記念物の保存国際協力における技術的諸問題

Uddhav Acharya

ウダヴ・アチャリヤ (ネパール考古局)

総合質疑応答・総合討議

(座長)馬淵 久夫 (作陽短期大学)

マーク・ラーネン (イクロム)

## 8. 敦煌莫高窟壁画保存修復協力事業の実施

ア) 訪中 (平成7年6月20日～29日)

宮本長二郎, 西浦 忠輝, 朽津 信明, 中野 照男, 勝木言一郎

訪中 (平成7年10月24日～11月3日)

渡邊 明義, 宮本長二郎, 西浦 忠輝, 門倉 武夫, 朽津 信明,  
勝木言一郎, 山代 文雄

イ) 研修 (平成8年1月22日～3月21日)

李 実, 段 修 業

## 9. 第4回「紙の保存修復」の国際研修

世界の紙の修復専門家12名(12カ国)を集め、文化庁および国際文化財保存研究センター (ICCROM) と共同開催で「紙の保存修復」国際研修を行った。脆弱な古文書や版画など、紙を素材とした文化財の修理では、世界の文化財に日本の表具技術が役に立つ事が知られるようになってきている。この研修では、この日本の表具技術を伝えることを目的とした。

3週間の研修は表具の基本的な技術を参加者が経験できるような内容の実技研修を中心としたが、日本の文化史・文化財保護法の沿革・文化財に使われている伝統的な素材・和紙と洋紙の特性等についての講義を行うとともに、研修旅行では和紙の紙漉場で修復材料である和紙をより深く理解するようつとめた。

海外から、より正確な技術を求める声が増える中、今回のような日本の専門家の直接の指導のもとで行われる研修会の意義は深いと確信している。

〈主催〉

東京国立文化財研究所

文化庁

イクロム (ICCROM)

〈協力〉 京都国立博物館

事 業

〈期間〉 平成7年11月24日～12月14日 (21日間)

〈場所〉 11月24日 東京国立文化財研究所

11月25日～12月14日 京都国立博物館

スタディーツアー 奈良市・奈良県吉野郡吉野町

〈参加者〉

トボア・エリザベス

THOBOIS, Elisabeth

オーストリア アルベルティーナ グラフィックコレクション

コッコ・ベアトリス

COCCO, Beatriz B. M.

ブラジル サンパウロ美術館付属図書館

マックウィリアムズ・ワンダ

McWILLIAMS, Wanda D.

カナダナショナルギャラリー

ヴァレントーヴァ・ヴラスト

VALENTOVA, Vlasta

チェコ プラハナショナルギャラリー

エル・エッセイリ・アブドゥル-サラム

EL-ESSEILY, Abdel-Salam

エジプト ソハグ大学

ラローク・クロード

LAROQUE, Claude

フランス バリ第一大学

ルフ・スザンヌ

RUF, Susanne

ドイツ シュツットガルト州立美術館

ウィナー・カルヴィン

WINNER, Calvin

イギリス テイトギャラリー

クライス・イルディコ

KRAISS, Ildiko

ハンガリー国立文書館

ヘイケル・ヴィッキーン

HEIKELL, Vicki-Anne

ニュージーランド国立図書館

ダンセル・マリルー

DANCEL, Marilou M.

フィリピン国立歴史研究所

フェルナンデス・テレザ

FERNANDEZ de Bobadilla, Teresa

スペイン プラド博物館

## 10. 会 議

### (1) 文化財保存修復研究協議会

主 題 「有機質文化財に関する調査研究の新しい展開」

日 時 平成7年11月20日（月）

場 所 東京国立文化財研究所別館会議室

主 旨 有機質文化財の構造・材質・劣化などに関する科学的研究は、近年、分析技術の向上にも助けられながら、めざましい進歩を遂げつつある。しかし、非破壊的手法での分析の限界など、研究上の抱える技術的な問題なども少なくない。本研究協議会は、科学的なデータの討議に加え、有機質文化財の研究に対して望まれている情報、将来の展望についても検討し、保存と修復に関する調査研究の向上を図ることを目的とする。

講 演

有機質文化財保存の問題と科学への期待

文化庁美術工芸課 鈴木 規夫

漆の同定に関する Py-GC-MS の応用



事 業

明治大学理工学部 宮腰 哲雄

アミノ酸分析による膠の同定

東京芸術大学美術学部 真貝 哲夫

三次元蛍光分光法による染料その他文化財構成材質の分析

東北芸術工科大学芸術学部 松田 泰典

保存処理薬剤ポリエチレングリコールの微生物による分解

東京国立文化財研究所保存科学部 木川 りか

## 11. 国際・国内交流

## (1) 平成7年度職員の海外渡航

氏名	渡航先	目的	期間	旅費の出所等
川野邊渉	ウズベキスタン	出土塑像の保存方法の検討と指導	平成7年4月10日 ～平成7年4月26日	国際交流基金
西浦忠輝	シリア イタリア	シリア、アイン・ダラ神殿遺跡 石彫レリーフの保存に関する調 査、研究及び指導並びにイタリア 国内石造文化財保存調査	平成7年4月14日 ～平成7年5月3日	住友財団
平尾良光	米国	鉛同位体法による産地推定に関す る講演	平成7年4月25日 ～平成7年4月29日	私費
宮本長二郎	トルコ	トルコ木造建築文化財の保存修復 指導	平成7年5月15日 ～平成7年5月29日	国際交流基金
青木繁夫	トルコ	出土金属製品修復の検討と指導	平成7年5月15日 ～平成7年5月29日	国際交流基金
平尾良光	中国	「商文化国際学術討論会」出席及 び研究調査のため	平成7年5月19日 ～平成7年5月28日	私費
三浦定俊	イタリア	イクロム財政事業委員会出席のため	平成7年5月23日 ～平成7年5月30日	イクロム
山梨絵美子	韓国	韓国美術史学教育学会主催シンポ ジウムでの発表及び韓国近代美術 品の調査	平成7年6月7日 ～平成7年6月11日	先方負担
鶴田武良	中国	徐悲鴻学術討論会出席並びに現代 中国絵画調査	平成7年6月10日 ～平成7年6月19日	私費 一部先方負担
川野邊渉	ドイツ	漆芸品の調査法の開発のための交 流と実験	平成7年6月12日 ～平成7年7月30日	科学研究費
宮本長二郎	中国	中国砂漠地帯における文化財の保 存対策に関する調査研究	平成7年6月20日 ～平成7年6月29日	科学研究費
西浦忠輝	中国	中国砂漠地帯における文化財の保 存対策に関する調査研究	平成7年6月20日 ～平成7年6月29日	科学研究費
朽津信明	中国	中国砂漠地帯における文化財の保 存対策に関する調査研究	平成7年6月20日 ～平成7年6月29日	科学研究費

事 業

氏名	渡航先	目的	期間	旅費の出所等
中野照男	中国	中国砂漠地帯における文化財の保存対策に関する調査研究	平成7年6月20日 ～平成7年6月29日	外国旅費
勝木言一郎	中国	中国砂漠地帯における文化財の保存対策に関する調査研究	平成7年6月20日 ～平成7年6月29日	外国旅費
三浦定俊	韓国	文化財における環境汚染の影響と修復技術開発共同研究の協議	平成7年6月25日 ～平成7年6月28日	外国旅費
青木繁夫	韓国	韓国文化財研究所と行われる共同研究の実施協議	平成7年6月25日 ～平成7年6月28日	外国旅費
門倉武夫	韓国	韓国文化財研究所と行われる共同研究の実施協議	平成7年6月25日 ～平成7年7月2日	外国旅費、文化財保存修復学会
井手誠之輔	中国	中国延安地方石窟寺院の調査研究	平成7年6月30日 ～平成7年7月15日	私費
長岡龍作	中国	中国延安地方石窟寺院の調査研究	平成7年6月30日 ～平成7年7月15日	私費
増田勝彦	オランダ、ベルギー、ドイツ	在外日本古美術品修復協力に係る欧州調査	平成7年6月28日 ～平成7年7月9日	文化庁
貴志辰夫	オランダ、ベルギー、ドイツ	文化財の海外交流に関する欧州関係機関との連絡調整	平成7年6月28日 ～平成7年7月9日	文化庁
西川杏太郎	ドイツ	「漆・ニス等伝統的天然樹脂塗膜の劣化保存に関する研究」に関する調査及び協議	平成7年7月2日 ～平成7年7月10日	科学研究費
三浦定俊	ドイツ	漆工品の調査と研究協議	平成7年7月2日 ～平成7年7月10日	科学研究費
木川りか	タイ	レンガ造遺跡の劣化と保存対策に関する調査	平成7年7月3日 ～平成7年7月9日	科学研究費
西浦忠輝	タイ	レンガ造遺跡の劣化と保存対策に関する調査	平成7年7月4日 ～平成7年7月9日	科学研究費
鎌倉恵子	中国	中国泉州人形劇調査	平成7年8月11日 ～平成7年8月18日	日本学術振興会
三浦定俊	中国	日中博物館・文物保存国際シンポジウム出席	平成7年8月23日 ～平成7年8月28日	日中建業技術交流会
佐野千絵	中国	陝西省における漆液の成分に関する科学的調査と調査	平成7年8月19日 ～平成7年8月28日	私費
鶴田武良	中国	中国早期油絵の研究	平成7年8月19日 ～平成7年8月29日	私費

事 業

氏 名	渡 航 先	目 的	期 間	旅費の出所等
西 浦 忠 輝	イギリス, ベルギー, イタリア	文化財の保存に用いられる合成樹脂に関する調査と研究協議及び国際協力に関する調査と協議	平成7年8月30日 ～平成7年9月10日	外国旅費
朽 津 信 明	イギリス, ベルギー, イタリア	文化財の保存に用いられる合成樹脂に関する調査と研究協議及び国際協力に関する調査と協議	平成7年8月30日 ～平成7年9月10日	外国旅費
長 岡 龍 作	タイ, ミャンマー, カンボジア	タイ・ミャンマー, カンボジアの彫刻関係資料収集と現地調査	平成7年8月17日 ～平成7年9月9日	科学研究費
鳥 尾 新	中国	中国江南地方の仏教史跡探訪	平成7年9月1日 ～平成7年9月15日	私費
井手誠之輔	中国	中国江南地方の仏教史跡探訪	平成7年9月1日 ～平成7年9月15日	私費
勝木言一郎	韓国	大韓民国における仏教美術の調査研究	平成7年9月3日 ～平成7年9月6日	私費
蒲 生 郷 昭	中国	中国伝統音楽の現状とその教育制度の調査	平成7年9月20日 ～平成7年9月28日	私費
勝木言一郎	台湾	台湾における中国絵画の調査研究	平成7年10月16日 ～平成7年10月18日	私費
鶴 田 武 良	香港, 台湾	香港芸術館での発表ならびに高尾市立美術館, 台北国立故宮博物院での調査	平成7年10月26日 ～平成7年11月6日	香港芸術館及び私費
増 田 勝 彦	米国	在米日本美術品保存修復協力にかかる調査	平成7年10月22日 ～平成7年10月28日	国際交流基金
貴 志 辰 夫	米国	在米日本美術品保存修復協力にかかる協議	平成7年10月22日 ～平成7年11月1日	国際交流基金
宮本長二郎	中国	中国砂漠地帯における文化財の保存対策に関する調査研究	平成7年10月24日 ～平成7年11月3日	外国旅費
山 代 文 雄	中国	日中共同研究の推進に関する中国関係者との協議等	平成7年10月24日 ～平成7年11月3日	外国旅費
門 倉 武 夫	中国	中国砂漠地帯における文化財の保存対策に関する調査研究	平成7年10月24日 ～平成7年11月3日	外国旅費
西 浦 忠 輝	中国	中国砂漠地帯における文化財の保存対策に関する調査研究	平成7年10月24日 ～平成7年11月3日	科学研究費
朽 津 信 明	中国	中国砂漠地帯における文化財の保存対策に関する調査研究	平成7年10月24日 ～平成7年11月3日	科学研究費

事 業

氏名	渡航先	目的	期間	旅費の出所等
勝木言一郎	中国	中国砂漠地帯における文化財の保存対策に関する調査研究	平成7年10月24日 ～平成7年11月3日	外国旅費
増田勝彦	韓国	湖巖美術館での講演	平成7年11月1日 ～平成7年11月5日	湖巖美術館
島尾新	台湾	台北国立故宮博物院での調査	平成7年11月1日 ～平成7年11月5日	科学研究費
浦生郷昭	中国	中国音楽比較研究国際学術会議への参加	平成7年11月6日 ～平成7年11月13日	私費 福建師範大学
中野照男	米国	海外所在日本文化財調査のため	平成7年11月11日 ～平成7年11月18日	文化財保存修復学会
島尾新	米国	海外所在日本文化財調査のため	平成7年11月11日 ～平成7年11月18日	文化財保存修復学会
浅見清	米国	在米日本美術品保存修復協力事業にかかる協議	平成7年11月11日 ～平成7年11月18日	外国旅費
三浦定俊	イタリア	イクロム総会、理事会、事業財政委員会出席	平成7年11月24日 ～平成7年12月4日	文部省
西浦忠輝	タイ	タイ国石造遺跡の劣化現象と保存処置に関する調査	平成7年12月5日 ～平成7年12月15日	科学研究費
朽津信明	タイ	タイ国石造遺跡の劣化現象と保存処置に関する調査	平成7年12月5日 ～平成7年12月15日	科学研究費
松本修自	タイ	タイ国石造遺跡の劣化現象と保存処置に関する調査	平成7年12月5日 ～平成7年12月15日	外国旅費
渡邊重夫	タイ	タイ国関係機関との協議	平成7年12月5日 ～平成7年12月15日	外国旅費
松本修自	イタリア フランス	イクロム、ユネスコ、イコモス等関係機関との協議	平成8年1月10日 ～平成8年1月19日	外国旅費
篠原一夫	イタリア フランス	イクロム、ユネスコ、イコモス等関係機関との協議	平成8年1月10日 ～平成8年1月19日	外国旅費
山梨絵美子	米国	セントルイス美術館で開催される日本画展に伴うシンポジウムでの発表ならびに関連行事への出席	平成7年10月31日 ～平成7年11月8日	先方負担 私費
田中淳	米国	ブルックリン美術館所蔵の日本近代絵画の調査等	平成7年12月27日 ～平成8年1月9日	国際交流基金 私費

事 業

氏名	渡航先	目的	期間	旅費の出所等
長岡龍作	イギリス, アイルランド, フランス, ドイツ, チェコ, オーストリア, イタリア, エジプト, インド, 中国	文部省在外研究 「東西古代世界における宗教彫像」 の調査・研究	平成7年12月15日 ～平成8年10月14日	文部省
西川杏太郎	タイ	日・タイ協力に関する協議とタイ 国文化財調査	平成8年2月11日 ～平成8年2月18日	外国旅費
西浦忠輝	タイ	日・タイ協力に関する協議とタイ 国文化財調査	平成8年2月11日 ～平成8年2月18日	外国旅費
門倉武夫	中国	東アジアの酸性雨の文化財及び材 料への影響評価に関する研究	平成8年3月3日 ～平成8年3月12日	大気環境学会
宮本長二郎	中国	日中共同研究の推進に関する中国 関係者との協議等	平成8年2月26日 ～平成8年3月1日	外国旅費
貴志辰夫	中国	日中共同研究の推進に関する中国 関係者との協議等	平成8年2月26日 ～平成8年3月1日	外国旅費
松下冬樹	中国	日中共同研究の推進に関する中国 関係者との協議等	平成8年2月26日 ～平成8年3月1日	外国旅費
平尾良光	米国	米国地質研究所及びカリフォルニ ア工科大学の質量分析計の調査	平成8年3月5日 ～平成8年3月11日	私費

事 業

(2) 招へい研究員等

国外招へい研究員

氏 名	国 籍	役 職	招へい期間	共同研究課題	研究代表者
李 瑠姫	韓 国	漆芸品修復家	6.06.17 ～8.03.31	漆芸品の伝統的技法の調査と新技術の開発	修復技術部 中里壽克
金 奎虎	韓 国	湖巖美術館保存科学室・研究員	6.09.01 ～7.06.30	金属文化財の保存科学的研究	保存科学部 平尾良光
FERNANDES, Maria Leonor Vieira Leiria	ポルトガル	ホセ・デ・フィグレイド研究所保存専門家	7.05.03 ～8.04.30	日本漆器の修復技法	修復技術部 中里壽克
安 喜均	韓 国	韓国文化財研究所研究員	7.05.08 ～7.05.14	文化財に対する環境汚染の影響と修復技術の開発研究	修復技術部 青木繁夫
姜 大一	韓 国	韓国文化財研究所研究員	7.05.08 ～7.05.14	文化財に対する環境汚染の影響と修復技術の開発研究	修復技術部 青木繁夫
金 正耀※	中 国	中国社会科学院世界宗教研究所副研究員	7.11.10 ～7.12.27	中国古代青銅器の自然科学的研究	保存科学部 平尾良光
BRAU, Lorna M.*	米 国	日本芸能研究者	7.07.06 ～7.07.15	落語の技法研究の現状と今後の国際交流について	芸能部 中村茂子
WATSKY, Andrew M.*	米 国	ヴァッサー大学美術史料科助教授	7.07.24 ～7.08.07	桃山時代における美術資料の研究	情報資料部 鈴木廣之
T O D D , Andrew*	カナダ	修復専門家	7.09.04 ～ 09.14	屋外陳列彫刻の保存管理技術	修復技術部 青木繁夫
HENRICHSEN, Christof Paul	ドイ ツ	ケルン大学美術史東洋美術科博士過程	7.11.01 ～8.12.31	日本における文化財建造物修理の理念と実施	国際文化財保存修復協力センター 宮本長二郎
DÖLL, Bernhard	ドイ ツ	ドイツ連邦政府科学技術省人文科学部長	7.11.01 ～7.11.10	漆工品の保存に関する研究打合せと調査	保存科学部 三浦定俊
KÜHLENTHAL, Michael	ドイ ツ	バイエルン州立文化財研究所修復部長	7.11.01 ～7.11.10	漆工品の保存に関する研究打合せと調査	保存科学部 三浦定俊

事 業

氏 名	国 籍	役 職	招へい期間	共同研究課題	研究代表者
ENDERS, Siegfried RCT	ドイツ	ヘッセン州文化財管理局主任文化財調査官	7.11.01 ～7.11.10	漆工品の保存に関する研究打合せと調査	保存科学部 三浦定俊
GHAFEUR, Samer Abdel	シリア・アラブ共和国	アレppo国立博物館 技術員	7.08.31 ～7.09.30	アインダーラ神殿遺跡石彫レリーフ修復事業に関する石造物の合成樹脂による修復に関する調査研究	国際文化財保存修復協力センター 西浦忠輝
KOMINZ, Laurence*	米 国	ポートランド州立大学教授	7.12.08 ～7.12.18	歌舞伎研究の国際交流	芸能部 鎌倉恵子
金 思 彦	韓 国	韓国文化財研究所保存科学研究室研究員	7.12.15 ～7.06.14	文化財に対する環境汚染の影響と修復技術の開発研究	修復技術部 青木繁夫
L ARSEN, Knut Einar	ノルウェー	ノルウェー工科大学教授	7.11.08 ～7.11.14	アジアと西欧との民家等建造物の保存法の比較研究	国際文化財保存修復協力センター 宮本長二郎
SCHLOMBS, Adele	ドイツ	ケルン市立東洋美術館長	8.01.20 ～7.01.26	在ドイツ美術館所在の日本美術品の劣化状況及びその保存と修復	東京国立文化財研究所 西川杏太郎
段 修 業*	中 国	敦煌研究員保護研究所 助理研究員	8.01.22 ～8.03.21	敦煌莫高窟壁画の修復材料に関する研究	修復技術部 増田勝彦
李 実	中 国	敦煌研究員保護研究所 助理研究員	8.01.22 ～8.03.21	敦煌莫高窟壁画の修復材料に関する研究	修復技術部 増田勝彦
立本光信*	米 国	アメリカ地質調査所名誉研究員	8.01.25 ～8.02.07	鉛同位体比の地球科学的進化に関する基礎的研究	保存科学部 平尾良光
RIEDERER, Josef	ドイツ	ラトゲン研究所長	8.01.25 ～8.02.07	文化財分野における機器分析についての研究	修復技術部 川野邊渉
ADDAL, Jhon Kwesi	ガーナ	ガーナ博物館記念物局技師	8.01.30 ～8.04.29	文化財の劣化の原因と修復方法	国際文化財保存修復協力センター 松本修自
朴 相 国	韓 国	韓国文化財研究所 芸能民俗研究室長	8.02.01 ～8.03.08	無形文化財の記録保存の方法	芸能部 羽田 稔
L E V U S H - K I N A, Svetlana Valerionovna	ウズベキスタン	文化省ハムザ美術科学研究所考古学部門化学担当官	8.02.13 ～8.03.22	合成樹脂を用いる出土遺物の処理法の開発研究	修復技術部 川野邊渉



事 業

氏 名	国 籍	役 職	招へい期間	共同研究課題	研究代表者
GIRMOND, Sybille	ド イ ツ	ケルン市立ケルン東洋美術館学芸員	8.02.16 ～8.02.23	在ドイツの美術館所在の日本美術館の劣化状況及びその保存と修復	修復技術部 増田勝彦
VANDIVER, Pamela*	米 国	スミソニアン研究機構保存分析研究所	8.02.26 ～8.03.07	陶磁器の科学的調査と研究打合せ	保存 三浦定俊
GERASIMOV, Evgenij Nikiforovich*	ロシア連邦	国立エルミタージュ美術館絵画修復室研究員	8.02.26 ～8.03.05	油彩画の修復に膠を使用する方法についての技術的問題	修復技術部 増田勝彦
小山真由美*	イタリア	イブレア市立ガルト美術館学芸員	8.02.26 ～8.03.10	イタリアにある日本漆芸品修復に関する調査研究	修復技術部 中里壽克
龐 璜	中 国	中央美術学院教授	8.03.03 ～8.03.16	1920年代フランス留学中国画家の研究	美術部 鶴田武良
K A N T A R - CIOGLU, Ayse Serda*	トルコ	トルコ中央保存修復研究所研究員	8.03.04 ～8.03.16	木造彩色の保存修復に関する研究	国際文化財保存修復協力センター 宮本長二郎
CHATRAKUL NA AYUDDH A Y A , Wongchat*	タ イ	芸術総局考古博物館局考古部修復計画課技官	8.03.11 ～8.03.24	屋外文化財の保存に関する調査	国際文化財保存修復協力センター 西浦忠輝
POSHYANAN - DANA Vasu	タ イ	芸術総局考古博物館局記念物保存部建造物保存課技官	8.03.11 ～8.03.24	日本における文化財の保存研究に関する調査	国際文化財保存修復協力センター 西浦忠輝
ABE, Stanley Kenji*	米 国	デューク大学美術・美術史学科助教授	8.03.07 ～8.03.21	日本国内に所在する中国仏教美術資料の収集	美術部 岡田健
劉 東光*	中 国	河北省邯鄲市文物管理处文物館	8.03.13 ～7.03.30	南北朝後期における中原地方の石窟美術について	情報資料部 勝木言一郎
趙 力*	中 国	中央美術学院美術史系講師	8.03.15 ～7.03.28	文革後の美術における外国美術の影響	美術部 鶴田武良
鄭 光龍*	韓 国	大田保険専門大学博物館科専任講師	8.03.21 ～8.03.25	文化財における環境汚染の影響と修復技術に開発研究	修復技術部 青木繁夫

注1) \*は研究所の予算で招へいたことを表す。\*は一部研究所の予算で招へいたことを表す。

2) 国際研究集会, アジア文化財保存セミナー, 「紙の保存修復」の国際研修の国外招へい研究員等については各々の項に記載した。

国内招へい研究員

氏 名	現 職	招へい期間	共同研究課題	研究代表者
三村 昌義	神戸親和女子大学 助教授	8.02.19 ～8.03.01	明治期の寄席芸一落語に見 る外国の影響一	芸能部 中村茂子

(3) 平成7年度海外研究者等の来訪

氏 名	国 籍	所 属 等
U Aye Ko 外2名	ミャンマー	考古局技官(記念物)外
PHUNG, Phu 外1名	ヴェトナム	フエ遺跡修復センター副所長外
YEO, In-Seon 外3名	韓 国	全南大学校工科大学副教授外
OHLAU, Juergen Uwe	ド イ ツ	ザクセン州文化財団理事長
VAN TONGER- EN, Casper	オ ラ ン ダ	オランダ報道関係者
SRIVASTAVA, A.K.	イ ン ド	内務省警察研究開発局技官
安 榮喜 外3名	韓 国	文化財管理局国立文化財研究所資料室
馮 庚武 外2名	中 国	陝西省歴史博物館副館長外2名
KOSOVA, Katar- ina	スロヴァキア	スロヴァキア文化財保護機関会長
李 治国 外1名	中 国	雲岡石窟文物研究所所長外1名
李 長洛 外39名	韓 国	文化体育部文化財研究所庶務課長外
GARDJITO 外1名	インドネシア	国立図書館納本保存センター手稿整備課長外1名

## VI. 研究施設・設備

### 1. 蔵書

#### 美術関係図書

日本・東洋古美術，日本近代・現代美術，西洋美術の全般にわたる研究所を中心に，関連図書，各種叢書，辞典類など和漢書(42,764)，洋書(4,182)，計46,391冊のほか，各都道府県市町村教育委員会編集の文化財関係報告書，美術関係雑誌，紀要類，売立目録，展覧会目録などを所蔵し，所内及び所外の研究者の利用に供している。

#### 芸能関係図書

雅楽・寺事・能・歌舞伎・文楽・邦楽・邦舞・民俗芸能・寄席芸，その他わが国の伝統芸能の研究に必要な図書10,262冊を所蔵する。演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎(第1次)・テアトロ(第1次)・新劇・上方・民俗芸術・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説などの雑誌，それに声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本も収集している。

#### 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産及び工芸技術書，技術史またはそれらの科学的究明を試みたものの，修理工事報告書及び化学・物理学・生物学部門の保存科学の関連和洋書，合わせて3,249冊を所蔵している。

本年度における収集数と総計は次表のとおりである。

区 分	美術関係		芸能関係		保存科学・ 修復技術関係		計
	和漢書	洋書	和漢書	洋書	和漢書	洋書	
7年度	519冊	11冊	335冊	14冊	43冊	5冊	927冊
総数	42,764冊	4,182冊	10,436冊	176冊	2,172冊	1,077冊	60,807冊

## 2. 資 料

### 美術関係資料

実物よりの直接撮影を主にした写真資料の作成整理と、購入写真、複写写真による補足整備に加えて、印刷物中の図版をおさめるという方式で、当研究所設立当初より一貫して力を注いできた写真資料を有する。それらは日本東洋古美術、日本近代・現代美術、西洋美術の全域にわたり、それぞれ絵画、書籍、彫刻、工芸、建築等の諸部門に及ぶ。特別大型のものから小型のものまで総数凡そ26万点、原板保有量はほぼ3分の1にあたり、別にマイクロ・フィルム255巻がある。写真資料のほか、拓本、作家伝記資料、落款印章資料、近代・現代作家・団体・作品資料、資料スクラップ等と、図書カード、図版カード、各種索引類など多数。

### 芸能関係資料

レコード、録音テープ、シネフィルム、ビデオテープ、写真等による芸能資料を数多く備えている。レコードには、毎年各社から発売される伝統芸能関係レコードのほか、昭和35年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションレコード5,450枚が含まれている。安原コレクションは、明治・大正・昭和三代にわたって発売された各種邦楽レコードを網羅したもので、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。録音テープ、ビデオテープ、及び写真は、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・邦舞・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能を対象に記録してきたもので、演奏法の解析を中心とした写真、テープ、あるいは各種文書の記録写真等も含んでいる。資料別の所蔵数は、つぎのとおりである。

区 分	録 音 テ ー プ		シネフィルム		ビデオテープ	
	analog	digital	8mm	16mm	β, VHS方式	8mm
平成7年度	37本	0本	0本	0本	95本	18本
合 計	2,922本	336本	198本	4本	485本	105本

研究施設・設備

区 分	音 盤		
	SP・LP	CD	VHD・LD
平成7年度	1枚	416枚	0枚
合 計	7,119枚	572枚	16枚

3. 主要機器・設備

美術部・情報資料部		
名 称	使 用 目 的	備 考
X線透過撮影装置	軟X線照射による絵画・彫刻の顔料・構造等の非破壊分析。	
紫外線照射装置	紫外線照射による蛍光物質の分析。補絹・補彩領域の明別。	
顕微鏡装置	双眼実体顕微鏡による美術作品細部の非接触観察。	KARL ZEISS
赤外線テレビ	赤外線照射による墨線の抽出。下図・銘文等の解読。	浜松テレビ
ビデオイメージスコープ	内視鏡による彫刻作品等の内部観察。	オリンパス
ローカルエリアネットワーク	LANによる情報処理の円滑化。情報の統合・共有化。	NET ONE (アンガマンバス)
画像処理装置	デジタル画像処理技術による多角的画像分析。画像データベースの試作。	NEXUS6800シリーズ
光ディスクファイリングシステム	大量の調書・カード類の一括管理。簡易画像データベースの試作。	RIFILE

芸 能 部		
名 称	使 用 目 的	備 考
舞台（試聴室）	日本の古典芸能を実演するのに必要最小限の広さを持ち、実技者を招いて研究のための試演を行う。またその実演を舞台に続く調整室で撮影し録音する。	間口590cm 奥行き485cm 残響時間0.30/秒
録音室	実技者を招いて分析研究のための、良質な録音を行う。	間口421cm 奥行き670cm 残響時間0.15/秒アナログ・デジタルの録音可能。
メログラフ	音の高さと強さの細かい変化を正確に計り、分かりやすいグラフで記録して、音学的分析を行う。	型名 B/T
レーザー・ターンテーブル	レーザー光でアナログ・レコードを非接触で再生する。貴重なレコードを半永久的に使用できる。	エルプ LT-IX

保存科学部		
名 称	使 用 目 的	備 考
蛍光 X 線分析装置	金属、顔料、岩石、土器などの化学組成を非破壊的に測定する。理学電機製は可搬型である。	フィリップス PW1404LS, 理学電機 TBF01
原子吸光分析装置	岩石、土器、金属などに含まれる元素組成を測定する。	ジャーレルアッシュ AA8500
誘導結合プラズマ分析装置 (ICP)	岩石、土器、金属などに含まれる元素組成を測定する。	セイコー SPS1100
質量分析装置	鉛、ストロンチウム同位体比測定から、青銅、岩石などの原料産地を推定する。	VG-Sector-J
イオンクロマト分析装置	岩石、鏽中の陰イオン濃度や空気中の NO <sub>x</sub> 、SO <sub>x</sub> 濃度の測定から鏽の進行状況や、空気汚染の程度などを推定する。	横河電気 IC500P

研究施設・設備

名 称	使 用 目 的	備 考
電子スピン共鳴装置	遷移金属イオンや劣化に伴って生じるフリーラジカルの強度を測定し、劣化の進みかたや程度を推定する。	日本電子 JES-RE1X
化学発光計測装置	化学反応に伴って放出される微弱な光の強度を測定し、反応の進みかたや劣化の度合いを測定する。	東北電子 CL-100
走査型電子顕微鏡	高倍率で試料表面の状態を観察するとともに、構成元素の分布を調べ、構造・技法について情報を得る。	日本電子 JMS5100
低真空度走査型電子顕微鏡	高倍率で試料表面の状態を観察するとともに、構成元素の分布を調べ、構造・技法について情報を得る。	日本電子5800LV
工業用 X 線検査装置	透視撮影によって彫刻・工芸・考古遺物・などの構造や光電子撮影によって絵画の顔料を調べる。	フィリップス MG321他
減圧燻蒸装置	文化財加害生物を防除するための燻蒸法の研究・開発を行う。	SK2
微生物検体作成装置	微生物胞子の発芽に及ぼす風の影響を調べる。	小林精機 CP 型
ガスクロマトグラフ質量分析計	有機質文化財の構成物質および劣化の判定のためにガス状として有機物を分離し、有機分子の判定を行う。	ヒューレットパッカド HP5890, 日本電子 Automass150
液体クロマトグラフ質量分析計	有機質文化財の構成物質および劣化の判定のために液体状態で有機物を分離し、有機分子の判定を行う。	ヒューレットパッカド HP, 日本電子 LX2000
DNA シーケンサ	文化財の劣化原因、生物等の遺伝子配列を調べ、種の判定を行う。	ファルマシアバイオテック

修復技術部

名 称	使 用 目 的	備 考
太陽追跡曝露試験機	修復材料の耐侯性試験をする。	スガ試験機

名 称	使 用 目 的	備 考
プラズマ装置	酸化した出土金属遺物を水素プラズマを利用して還元処理をする。	神港精機 MP1017
紫外線フェードメータ	塗料, 有機質材料の耐候性試験をする。	スガ試験機
大型ステージ顕微鏡	文書, 染織品等を平置のまま構造を視察できる大型移動ステージ (1 × 1 m) を備えた光学顕微鏡	三啓 SLP-1000
走査型レーザー顕微鏡	レーザーを走査して, 天然物などをきわめて深い焦点深度で観察し, 立体的な情報を得ることができる。	レーザーテック ILM21
耐候性試験機	修復材料他の耐候性試験をする。	スガ試験機, サンシャイン ウェザーメーター
凍結乾燥機	水漬有機物の乾燥処理を行う。	共和真空
ガス腐食試験機	修復材料他の汚染ガスの影響試験をする。	山崎精機
酸性雨試験機	酸性雨物質による修復材料の試験をする。	板橋理化
材料試験機	修復材料の曲げ, 圧縮強度等の試験をする。	島津製作所オートグラフ
赤外分光分析計	文化財や修復材料物質の同定などを行う。	島津製作所 FT-IR8500

## 国際文化財保存修復協力センター

名 称	使 用 目 的	備 考
微量部付全自動 X線回析装置	微量の試料で, 顔料, 金属, 岩石などの鉱物同定を行う。	マックサイエンス MP-XHF-SRA
レーザー回析式粒度分布測定装置	土器や煉瓦などの粒度を調べ, その特性を明らかにする。	島津製作所 SALD-3000
比表面積・細孔分布測定装置	岩石や煉瓦などの劣化状況を把握する	島津製作所アサップ2400



#### 4. 黒田記念室

黒田記念室は、本研究所が帝国美術院長子爵黒田清輝の遺言によって創立された経緯から、黒田の画業・功績を記念するために設けられた陳列室であり、黒田清輝の油絵・素描・写生帖等を収蔵している。

創立当時、主として黒田家から寄贈されたものは、油絵125点、素描170点、写生帖等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なるものは、「智・感・情」・「花野」・「湖畔」・「赤髪の少女」・「もるる日影」・「温室花壇」などである。

#### 5. 閲覧室

本研究所情報資料部の図書写真及び各種研究資料は、週三日（月・水・金）、主として研究者・学者・美術関係専攻の学生等の利用に供している。

## VII. 関係法規

### ◎文部省組織令（抄）（昭59.6.28 政令第227号） （最終改正 平7.7.14）

#### 第2章 文化庁

#### 第3章 施設等機関

（施設等機関）

第108条 文化庁長官の所轄の下に、文化庁に国語研究所を置く。

2 前項に定めるもののほか、文化庁に次の施設等機関を置く。

国立博物館

国立近代美術館

国立西洋美術館

国立国際美術館

国立文化財研究所

（国立文化財研究所）

第114条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関とする。

2 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

3 国立文化財研究所及びその支所の名称、位置及び内部組織は、文部省令で定める。

（研究施設の指定）

第115条 国立国語研究所及び国立文化財研究所は、法第5条第37条に規定する政令で定める研究施設とする。

### ◎文部省設置法施行規則（抄）（昭28.1.13 文部省令第2号） （最終改正 平7.3.31）

#### 第5章 文化庁の施設等機関

#### 第4節 国立文化財研究所

#### 第1款 名称及び位置

（名称及び位置）

関係法規

第116条の9 国立文化財研究所の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東京都台東区
奈良国立文化財研究所	奈良県奈良市

第1款の2 東京国立文化財研究所

(所 長)

第117条 東京国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は、所務を掌理する。

(内部組織)

第118条 東京国立文化財研究所に、庶務課、次の5部及び国際文化財保存修復協力室を置く。

- 一 美 術 部
- 二 芸 能 部
- 三 保存科学部
- 四 修復技術部
- 五 情報資料部

2 前項に定めるもののほか、東京国立文化財研究所に、国際文化財保存修復協力センターを置く。

(庶務課の事務)

第119条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
- 二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。
- 三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
- 四 経費及び取入の予算、決算その他会計に関する事務を処理すること。
- 五 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
- 六 庁内の取締りに関すること。
- 七 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属さない事務を処理すること。

(美術部の二室及び事務)

第120条 美術部に、第一研究室及び第二研究室を置く。

- 2 第一研究室においては、わが国の上代、中世及び近世の美術並びに東洋美術に関する調査研究を行い、及びその結果の公表を行う。
- 3 第二研究室においては、わが国の近代及び現代の美術並びに西洋美術に関する調査研究を行い、及びその結果の公表を行うとともに黒田記念室に関する事務をつかさどる。(芸能部の三室及び事務)

第121条 芸能部に、演劇研究室、音楽舞踊研究室及び民俗芸能研究室を置く。

- 2 演劇研究室においては、演劇及びその保存に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。
- 3 音楽舞踊研究室においては、音楽及び舞踊並びにこれらの保存に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。
- 4 民俗芸能研究室においては、民俗芸能及び保存に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

(保存科学部の三室及び事務)

第122条 保存科学部に、化学研究室、物理研究室及び生物研究室を置く。

- 2 化学研究室においては、文化財及びその保存に関する化学的調査研究(分析化学的調査研究を含む。)を行い、並びにその結果の公表を行う。
- 3 物理研究室においては、文化財及びその保存に関する物理学的調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。
- 4 生物研究室においては、文化財及びその保存に関する生物学的調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

(修復技術部の三室及び事務)

第122条の2 修復技術部に、第一修復技術研究室、第二修復技術研究室及び第三修復技術研究室を置く。

- 2 第一修復技術研究室においては、木、漆その他次項及び第4項の材料以外のものを材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的調査研究を行い、及びその結果の公表を行う。
- 3 第二修復技術研究室においては、紙、布又は革を材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的調査研究を行い、及びその結果の公表を行う。

関係法規

- 4 第三修復技術研究室においては、石、土又は金属を材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的調査研究を行い、及びその結果の公表を行う。

(情報資料部の二室及び事務)

第122条の3 情報資料部に、文献資料研究室及び写真資料研究室を置く。

- 2 文献資料研究室においては、第118条第1号から第4号までに掲げる各部の所掌に係る文献資料その他の資料(写真資料を除く)の作成、収集、整理、保管、公表、閲覧及び調査研究を行う。

- 3 写真資料室においては、第118条第1号から第4号までに掲げる各部の所掌に係る写真資料の作成、収集、整理、保管、公表、閲覧及び調査研究を行う。

(国際文化財保存修復協力センター)

第122条の4 国際文化財保存修復協力センターにおいては、文化財の分野における国際的な貢献に資するため、世界の文化財の保存修復に関する国際協力、資料収集、調査研究及びその結果の公表並びに専門的、技術的な研修を行う。

(国際文化財保存修復協力センターの長)

第122条の5 国際文化財保存修復協力センターに長を置く。

- 2 前項の長は、国際文化財保存修復協力センターの事務を掌理する。

(国際文化財保存修復協力センターの二室及び事務)

第122条の6 国際文化財保存修復協力センターに企画室及び環境解析研究指導室を置く。

- 2 企画室においては、世界の文化財の保存修復に関する国際協力及び研修について、企画及び実施に係る事務を処理する。

- 3 環境解析研究指導室においては、世界の文化財の保存環境の解析に関する資料収集、調査研究及びその結果の公表並びに専門的、技術的な研修を行う。

(客員研究員)

第122条の7 東京国立文化財研究所に客員研究員を置くことができる。

- 2 客員研究員は、所長の命を受け、東京国立文化財研究所において行う調査研究に参画する。

- 3 客員研究員は、非常勤とする。

東京国立文化財研究所要覧（平成7年度）

---

平成9年12月1日 発行

発行所 東京国立文化財研究所

〒110 東京都台東区上野公園13-27

電話（3823）2241（代表）

---